新発田市埋蔵文化財調査報告 第52

横堀前遺跡 発掘調査報告書

主要地方道住吉上館線道路改築工事
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１５

新発田市教育委員会

例　　言

1　本報告書は，新潟県新発田市大伝字横堀浦（だいでんあざよこぼりうら）972番１ほかに所在する横堀前遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は，主要地方道住吉上館線道路改築工事（大伝）に伴うものである。新潟県新発田地域振興局の委託を受け，新発田市教育委員会が主体となって，平成24年6月1日から9月4日に現地調査を，発掘調査終了後から平成27年3月まで整理作業を実施し報告書を作成した。

3　現地の発掘調査から報告書刊行に至るまでの経費は，新潟県新発田地域振興局が負担した。

4　出土遺物の図化作業は津田憲司（新発田市教育委員会）が，拓本・浄書および挿図・図版の作成は，津田の指示のもと整理作業員が行った。

5　本書掲載の写真は，遺構を鈴木　暁（新発田市教育委員会）が，遺物を田中耕作（新発田市教育委員会）が撮影した。

6　本書の第Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ章の執筆および全体の編集は津田が行った。

7　第Ⅲ章の放射性炭素年代（AMS測定）は，㈱加速器分析研究所に委託し，その結果を掲載した。

8　調査の記録および出土遺物は，新発田市教育委員会が保管している。遺物の注記は，遺跡名を「ヨコ前」と略記し，以下「遺物番号・出土グリッド・遺構・層位・日付」を記した。

9　発掘調査から本書の作成にあたり，下記の諸氏・機関から多くのご協力・ご支援を賜った。記して感謝の意を表する。（五十音順　敬称略）

小林　弘　笹澤正史　高橋春栄　渡邊裕之　新潟県教育委員会文化行政課

新潟県新発田地域振興局地域整備部　大伝本村区自治会　横堀区自治会

凡　　例

1　本書に掲載の地形図は，国土地理院発行の１/50,000「新発田」（平成15年），新発田市作成の１/10,000「新発田市」（平成21年），および新潟県新発田地域振興局作成の１/500「主要地方道住吉上館線　新発田市大伝地内計画平面図」（平成21年）を縮小したものである。

2　平面図の方位は，第１～３図は天を真北，それ以外は方位記号の方向を磁北とする。なお，磁北は真北から西偏約７°50′である。

3　挿図の縮尺は，遺構１/25～１/150，遺物１/３を基本とし，適宜スケールと縮尺を示した。

4　遺構実測図の「K」は攪乱を示す。

5　遺構実測図の脇に表記した数字は，遺構の確認面から底面までの深さを示す。

6　土層説明での土色は，小山正忠・竹原秀雄　2008『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社 を参照した。

7　遺物は遺構単位に掲載し，挿図・図版ともに同一の番号を付した。

8　遺物観察表の数値は，（　）が復元値，＜　＞が残存値を表し，計測不能なものは空欄とした。

9　引用・参考文献は，巻末に一括して掲載した。

本　文　目　次

例言・凡例
本文目次
挿図目次
図版目次

第Ⅰ章　遺跡の位置と調査経過

1　遺跡の位置と環境 …… 1
2　調査に至る経緯と調査体制 …… 4
3　調査の方法と経過 …… 6

第Ⅱ章　遺構と遺物

1　溝 …… 7
2　井戸と土坑 …… 20
3　小ピット …… 25
4　遺構外・攪乱出土遺物 …… 28

第Ⅲ章　放射性炭素年代（AMS測定） …… 29

第Ⅳ章　まとめ …… 32

引用・参考文献 …… 32
遺物観察表 …… 33
報告書抄録 …… 奥付け

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置 …… 1
第２図　周辺の遺跡（古代・中世）…… 2
第３図　確認調査のトレンチ位置と出土遺物 …… 5
第４図　調査区の位置とグリッド設定図 …… 折込み（６－７）
第５図　遺構位置図 …… 折込み（６－７）
第６図　１号溝 …… 8
第７図　１号溝の出土遺物 …… 9
第８図　２・４～６・８号溝（１）…… 10
第９図　４～６・８号溝（２）と出土遺物 …… 11
第10図　３号溝と出土遺物 …… 12
第11図　７・９・10号溝 …… 13
第12図　７・９・10号溝の出土遺物 …… 14
第13図　11～23号溝 …… 15
第14図　11・13・18・23号溝の出土遺物 …… 16
第15図　24号溝 …… 16
第16図　25～27・30号溝と出土遺物 …… 17
第17図　28号溝と出土遺物 …… 18
第18図　29号溝 …… 19
第19図　１号井戸と出土遺物 …… 21
第20図　１～３号土坑と出土遺物 …… 22
第21図　４号土坑と出土遺物（１）…… 23
第22図　４号土坑の出土遺物（２）…… 24
第23図　５号土坑と出土遺物 …… 24
第24図　小ピット（Eeグリッド） …… 25
第25図　小ピット（Feグリッド） …… 25
第26図　小ピット（Ge・Heグリッド）…… 26
第27図　小ピット（Hfグリッド） …… 26
第28図　小ピット（Hfグリッド）の出土遺物 …… 27
第29図　小ピット（Jf・Jgグリッド）…… 27
第30図　遺構外・攪乱の出土遺物 …… 28

図　版　目　次

図版１　遺跡の遠景，調査区 Ce～Ff・Ge～Lgグリッド
図版２　１～10号溝
図版３　13～27号溝
図版４　28・29号溝，１号井戸，１～５号土坑
図版５　確認調査の出土遺物，１・３号溝の出土遺物
図版６　３～13号溝の出土遺物，遺構外の出土遺物（１）
図版７　13～28号溝の出土遺物，１号井戸の出土遺物（１）
図版８　１号井戸の出土遺物（２），１・４号土坑の出土遺物
図版９　５号土坑の出土遺物，Ｐ１・３の出土遺物，遺構外の出土遺物（２）

第Ⅰ章　遺跡の位置と調査経過

1　遺跡の位置と環境

横堀前遺跡のある新発田市は，新潟県の北部，阿賀野川右岸のいわゆる阿賀北地域のほぼ中央に位置する，人口約10万人，総面積532.82㎢の地方都市である。江戸時代には新発田藩の城下町，明治時代から戦前までは陸軍歩兵連隊の軍都，戦後は阿賀北地域の経済の中心地として発展してきた。市域の地勢を概観すると，越後（新潟）平野の一部をなす平野部と，その東縁部に北から櫛形山脈・五十公野丘陵・真木山（笹神）丘陵，さらにその東には飯豊山地と五頭山地が連なった地域といえる。平野部は，東の山地から流下する加治川などによって形成された段丘または扇状地や自然堤防のほか，海岸線に並行な砂丘列のある海岸平野や潟湖の干拓地などによって構成されている（国土地理院 1993）。

横堀前遺跡は，市街地から南へ約２㎞，新発田市大伝字横堀浦972番１ほかに所在する。本遺跡は，東に太田川，南には松岡川が流れる標高12.9～13.3mの微高地上に立地する。ここは，かつて加治川の主流が五十公野丘陵の南側を流れていた時期に形成された扇状地の扇央部にあたり，排水性がとても良い良好な地盤である。そのため，一帯は，畑地のほか，一部で果樹栽培も行われていた。なお，遺跡の北側には，現在は水田となっている幅６～10mの一段低い土地が広がっている（第３図）。周辺には同様の低地が屈曲しながらみられることから，本遺跡の立地する微高地を開析した旧河川跡と推定される。

第１図　遺跡の位置

第２図　周辺の遺跡（古代・中世）

今回の調査では，古代と中世の二つの時期に該当する遺構・遺物を検出した。以下，本遺跡の周辺における古代から中世の遺跡について，これまでに発掘調査を実施した遺跡を中心に概観する。なお，第２図に示した遺跡のうち，古代は2～4，12～18，28～32，41～44，46～62，74～78，86が，古代および中世は5～10，19～25，33～36，65～68，79～82が，中世は11，26，27，37～40，45，63，64，69～73，83～85がそれぞれ該当する。

佐々木川から分かれる北江と西江の間の微高地には，荒神裏Ａ遺跡（5），荒神裏Ｂ遺跡（6），神明裏遺跡（7），蚤取橋遺跡（８）が立地する。荒神裏Ａ遺跡は古代と中世の，荒神裏Ｂ遺跡は古代の集落跡である。掘立柱建物・井戸・溝のほか，前者からは中世の土坑墓が，後者からは中世の陶磁器が見つかっている。神明裏遺跡と蚤取橋遺跡では，古代の遺構のほか，古墳時代から古代・中世にかけて断続的に流れていた幅広の川跡を検出した。

新発田川と佐々木川の間の微高地には，大真木遺跡（24），山王遺跡（25）が立地する。大真木遺跡では，古代の土坑のほか，中世の方形区画墓を検出している。山王遺跡は古代と中世の集落跡で，掘立柱建物や竪穴建物，井戸などを多数検出したほか，羽口や鉄滓などの製鉄関連遺物が出土しており，小鍛冶の存在が想定される。

佐々木川と天辻川の間の微高地には，太斎金塚遺跡（39），太斎館跡（40）が立地する。太斎金塚遺跡では，道路遺構の側溝と推定される溝や区画溝などを，太斎館跡では，館の郭と堀の一部を検出している。時期は，ともに14世紀から15世紀の中世後半と推定される。

天辻川と芋卸江川の間の微高地には，正尺遺跡（66），妻ノ神遺跡（67），小坂遺跡（68）が立地する。正尺遺跡，妻ノ神遺跡は古代と中世の集落跡である。特徴的な遺構として，正尺遺跡では，古代の大形総柱建物や方形の周溝が巡る中世の掘立柱建物，埋葬遺構を，妻ノ神遺跡では，方形に巡る中世の溝を検出している。小坂遺跡からは，古代の溝を検出したほか，中世の陶器が出土している。

本遺跡から南へ約300m離れた真木山丘陵には，古代の生産遺跡が多く立地している。須恵器の窯跡としては，志村山窯跡（47）から１基，馬上窯跡（54）から３基，高山寺窯跡（56）から１基，岡屋敷窯跡（59）から１基，寺山腰窯跡（60）から２基の窯が見つかっている。これらの窯は，８世紀前半から操業が開始され，９世紀中葉に終息する。製鉄関連の遺跡としては，中江川上遺跡（50），金堀遺跡（51），大沢金クソ沢遺跡（53），万代かなくそ沢遺跡（57），五月山遺跡（58）が挙げられる。万代かなくそ沢遺跡からは製錬炉を２基，五月山遺跡からは製錬炉５基と木炭窯１基を検出しており，これらの炉の操業期間は８世紀から９世紀と推定される。

周辺の遺跡（古代・中世）

1 横堀前遺跡　2 八斗蒔遺跡　3 西宮内道上遺跡　4 四斗蒔遺跡　5 荒神裏A遺跡　6 荒神裏B遺跡　7 神明裏遺跡
8 蚤取橋遺跡　9 北蓑口遺跡　10 上沢田遺跡　11 境田遺跡　12 井浦遺跡　13 塚田遺跡　14 竹ヶ花A遺跡　15竹ヶ花B遺跡
16 チリヤキバ遺跡　17 宮之越遺跡　18 蛇塚遺跡　19 清水谷遺跡　20 家裏北遺跡　21 家裏南遺跡　22 古道下遺跡　23 南光遺跡
24 大真木遺跡　25 山王遺跡　26 五十公野館跡　27 五十公野城跡　28 西蓑口五斗蒔遺跡　29 亀田遺跡　30 並柳遺跡
31 穴田遺跡　32 松ノ木遺跡　33 九枚田遺跡　34 橋場遺跡　35 下中ノ目館跡　36 乙次館跡　37 池之端館跡　38 法正館跡
39 太斎金塚遺跡　40 太斎館跡　41 久保住吉遺跡　42 山崎西遺跡　43 大面遺跡　44 乙次二ツ山B遺跡　45 志村屋敷館跡
46 二ツ山窯跡　47 志村山窯跡　48 動木橋遺跡　49 木倉下遺跡　50 中江川上遺跡　51 金堀遺跡　52 フケ遺跡
53 大沢金クソ沢遺跡　54 馬上窯跡　55 戸板沢窯跡　56 高山寺窯跡　57 万代かなくそ沢遺跡　58 五月山遺跡　59 岡屋敷窯跡
60 寺山腰窯跡　61 豊平遺跡　62 諏訪の平堤窯跡　63 岡屋敷館跡　64 月岡カリオンパーク遺跡　65 天王前遺跡　66 正尺遺跡
67 妻ノ神遺跡　68 小坂遺跡　69 小坂館跡　70 赤橋館跡　71 八幡新田館跡　72 八幡館跡　73 八幡城跡　74 沢田遺跡
75 館ノ前遺跡　76 館屋敷遺跡　77 宮田遺跡　78 浦新田遺跡　79 石蔵遺跡　80 興野遺跡　81 浦遺跡　82 助橋下遺跡　83 浦館跡
84 浦城跡　85 鍛冶山遺跡　86 松岡遺跡　　○ 塚・経塚　● 石仏・石塔・板碑

２　調査に至る経緯と調査体制

平成20年11月に，新潟県新発田地域振興局　地域整備部（以下，県振興局）から新発田市教育委員会（以下，市教委）に，大伝地区における主要地方道住吉上館線の改築工事に伴う埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて，協議の依頼が寄せられた。協議の結果，同工事予定地には，平成16年に周知化した横堀前遺跡が含まれていることが明らかとなり，そのため同遺跡の詳細な範囲と遺存状況を把握する目的で，市教委が確認調査を実施することとなった。

確認調査は平成23年６月13日～17日の５日間で実施し，幅11m，長さ534mの道路工事予定地に，幅1.6m，長さ４～９ｍの試掘坑（トレンチ）を16箇所設定して掘削を行った（第３図）。その結果，調査対象範囲の中央部，やや西側寄りの複数のトレンチで溝や小ピットなどの遺構を検出したほか，遺物では古代の須恵器や土師器，中世の珠洲が出土した。この結果をもとに，県振興局と市教委は再度協議を行い，同工事予定地のうち，遺構を検出した約1,100㎡の範囲について，平成24年６月から本発掘調査を実施することで合意した。

以上の協議を踏まえて，県振興局は，新潟県新発田地域振興局長（以下，県振興局長）が平成24年３月９日付けで，芝振地第1014号「埋蔵文化財包蔵地の発掘調査について（依頼）」と，文化財保護法第94条第１項に基づく新潟県教育委員会教育長（以下，県教育長）宛ての芝振地第1016号「埋蔵文化財発掘の通知」を，それぞれ新発田市教育委員会教育長（以下，市教育長）に提出した。これを受けて，市教育長は同年３月12日付け文行第812号－２「埋蔵文化財発掘の通知について（進達）」を県教育長に進達した。県教育長は，同年３月21日付け教文第1394号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」で，市教育長と県振興局長に対して，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。その後，県振興局長と新発田市長との間で，同年４月20日付けで発掘調査委託契約が締結され，市教育長は文化財保護法第99条第１項の規定により，同年５月15日付け文行第125号「埋蔵文化財発掘調査の報告について」を県教育長に提出して，本発掘調査に着手することを報告した。市教委は，同年６月１日から現地に入り，９月４日までの実質61日間，本発掘調査を実施し，その後は，引き続き整理および報告書作成作業を行った。なお，確認調査から整理作業に至るまでの調査体制は，次のとおりである。

調査体制

平成23年度（確認調査）

調査主体　新発田市教育委員会（教育長　塚野　純一）
監　　理　新保　勇三（教育部長）
総　　括　荻野　正彦（生涯学習課長）
　　田中　耕作（生涯学習課文化行政室長）
調査担当　鶴巻　康志（生涯学習課文化行政室 埋蔵文化財係長）
事 務 局　渡邊美穂子（生涯学習課文化行政室 主任）
　　本田　祐二（生涯学習課文化行政室 文化財技師）

平成24年度（本発掘調査・整理作業）

調査主体　新発田市教育委員会（教育長　塚野　純一 ～２月28日，大山　康一 ３月１日～）
監　　理　新保　勇三（教育部長）
総　　括　荻野　正彦（生涯学習課長）
　　田中　耕作（生涯学習課文化行政室長）
調査担当　鈴木　暁　（生涯学習課文化行政室 主任）
調 査 員　津田　憲司（生涯学習課文化行政室 文化財技師）
事 務 局　渡邊美穂子（生涯学習課文化行政室 主任）
　　本田　祐二（生涯学習課文化行政室 文化財技師）

平成25年度（整理作業）

調査主体　新発田市教育委員会（教育長　大山　康一）　調査担当　津田　憲司（生涯学習課文化行政室 文化財技師）

管　　理　船山　隆　（生涯学習課長）　調 査 員　一箭　義貴（生涯学習課文化行政室 臨時職員）

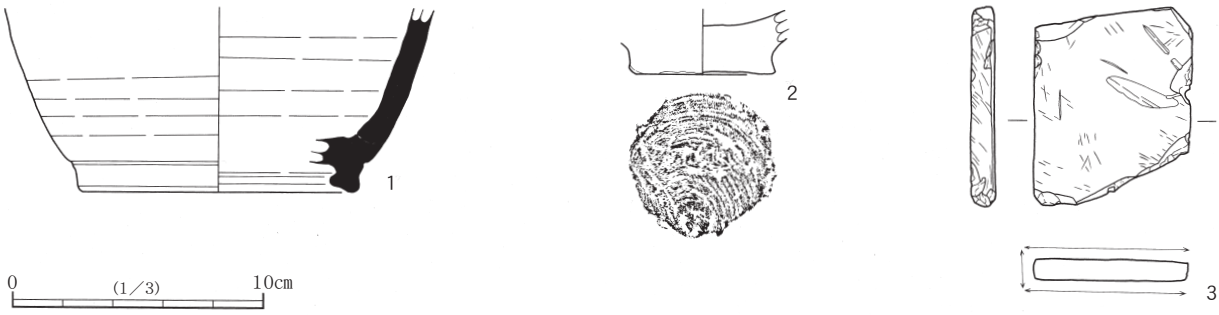
総　　括　田中　耕作（生涯学習課文化行政室長）　事 務 局　鈴木　暁　（生涯学習課文化行政室 主任）

平成26年度（整理作業・報告書作成）

調査主体　新発田市教育委員会（教育長　大山　康一）　調査担当　津田　憲司（生涯学習課文化行政室 主任）

管　　理　船山　隆　（生涯学習課長）　事 務 局　鈴木　暁　（生涯学習課文化行政室 主任）

総　　括　田中　耕作（生涯学習課文化行政室長）



第３図　確認調査のトレンチ位置と出土遺物

3　調査の方法と経過

調査の方法とグリッドの設定（第４図）

本発掘調査の対象となった調査区の範囲は，幅11m，長さ100m，面積は1,130㎡である。調査は，調査区を東西に二分割して，初めに西側部分，次いで東側部分の順に実施することとした。調査で生じる掘削排土については，調査を行っていない区域に置くこととし，また，調査区内を横断する農道については，調査の進捗に合わせて，付け替えや仮設の道路を設けることで，通行に支障が出ないように配慮した。なお，調査終了後は，調査区を埋め戻してから，県振興局に引き渡すこととなった。

グリッドは，道路工事に伴って県振興局が打設した測量杭を基準に，遺跡範囲を網羅するように，一辺10m四方の方眼を組んだ。国家座標第Ⅷ系「X=213454.9630, Y=71682.3370」の測量杭を基点に，同「X=213457.8891, Y=71677.0989」の杭を指標としてグリッドの東西ラインを，それに直交して南北ラインを設定した。この10m四方の方眼を大グリッドとし，さらにそれを２m四方の方眼に25分割したものを小グリッドとした。呼称については，大グリッドは，西から東へ「A」・「B」…，北から南へ「a」・「b」…と大・小文字のアルファベットを付け，その組み合わせで「Aa」・「Bb」…とした。小グリッドは，西から東へ，北から南へ向かってそれぞれ「1」…「5」と算用数字を付け，大グリッドと組み合わせて「Aa1-1」・「Bb5-5」とした。

基本土層

平成23年度の確認調査の結果から，本遺跡の基本層序は，表土を含めてⅠ～Ⅴ層に分けられる。Ⅰ層の灰黄褐色土は表土で，畑の耕作土である。Ⅱ層のにぶい黄褐色土は攪乱層，Ⅲ層のにぶい黄褐色砂はⅤ層への漸移層である。なお，Ⅲ層は調査区の東端部で確認できただけで，その堆積は限定的である。Ⅳ層の黄褐色～にぶい黄橙色シルトとⅤ層のにぶい黄橙色砂は，いわゆる地山に相当する。遺物包含層は確認されず，遺構はⅣ・Ⅴ層の上面で検出した。調査区の大部分は，表土の下が地山で，攪乱の影響も多く認められたことから，本遺跡は，後世に著しく削平されていると推測される。

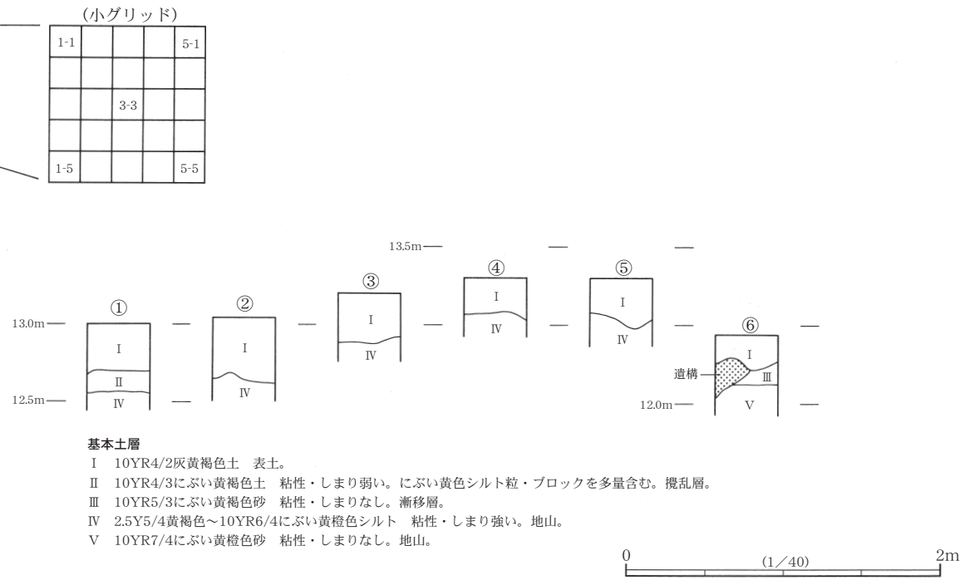
現地調査の経過（日誌抄）

６月１日～７月25日　１日にユニットハウスやトイレなどの設備を設置，４日に発掘器材の搬入を行い，５日に調査区西側部分（Ce～Ffグリッド）の重機による表土掘削を行う。６日にグリッドの設定とレベル移動を行い，７日から人力による遺構確認に入る。攪乱が著しいため作業に手間取るが，溝・土坑・小ピットを検出した。12日から各遺構の調査に着手する。7月23日にCe～Ffグリッドの完掘写真を撮影する。24日には同グリッドの完掘図面の作成が終了し，25日に埋め戻しを行った。

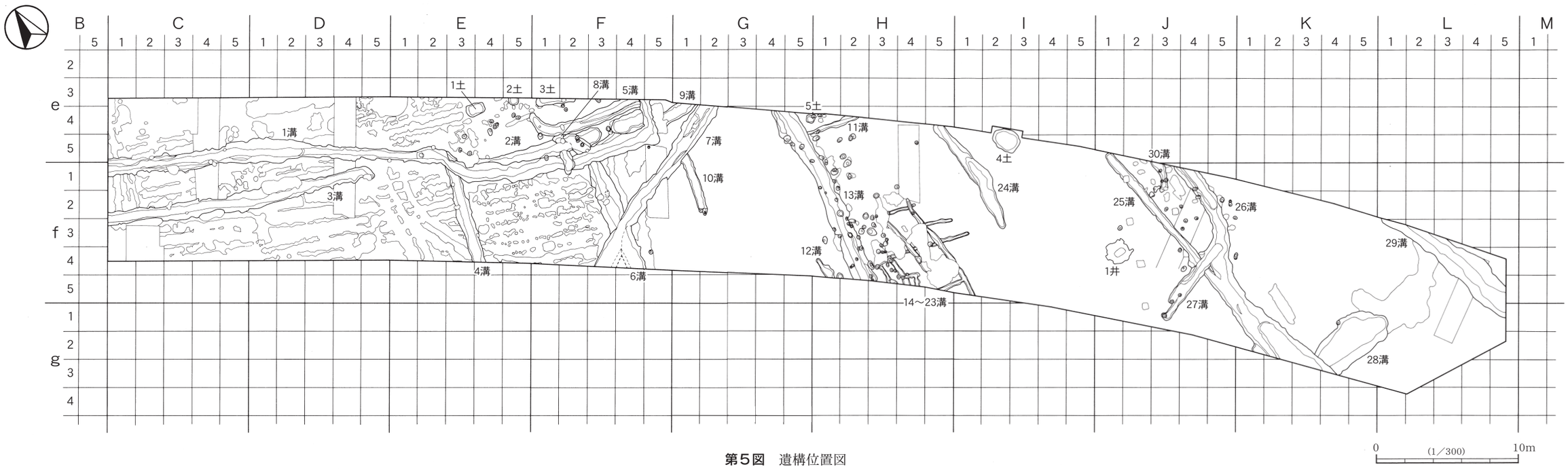
７月26日～９月４日　26日から，重機による調査区東側部分（Ge～Lgグリッド）の表土掘削を行う。30日に人力による遺構確認とグリッドの設定を行い，8月1日から本格的に各遺構の調査に入る。調査は調査区東端から開始し，28日に遺構掘削が終了した。29日にGe～Lgグリッドの完掘写真を撮影し，その後，発掘器材の搬出を行う。31日に同グリッドの完掘図面の作成が終了。9月３～４日に調査区の埋め戻しと設備などの搬出を行い，すべての調査が終了した。なお，８月26日に現場説明会を実施した。

整理作業

発掘作業終了後の９月から作業を開始した。平成24年度は，現場で作成・撮影した遺構の実測図面と写真の整理を行ったほか，出土遺物については，水洗や出土位置・日付などの注記といった基礎的な整理を実施した。平成25年度は，遺構については，引き続き図面の整合と合成を，遺物については，接合・復元作業の後，報告書掲載遺物の選び出しと実測図作成，写真撮影を行った。その後，遺構と遺物実測図の浄書（トレース）および図版版下の作成，原稿の一部執筆を行った。平成26年度は，原稿の執筆と編集作業の後，報告書を印刷・刊行した。



第４図 調査区の位置とグリッド設定図



第５図 遺構位置図

第Ⅱ章　遺構と遺物

今回，調査を実施した範囲は，遺跡の西側部分に該当する。遺構は，地表面から深さ20～40㎝程のⅣ層もしくはⅤ層の上面で確認した。調査区西半部のCe～Ffグリッドでは，東半部に比べ，後世の攪乱の影響が著しく，遺構の遺存状態は良くない。検出した遺構は，溝29条，井戸１基，土坑５基，小ピット116基で（第５図），遺物は古代の土器を主体に，中世の陶磁器のほか鉄滓なども出土している。

以下，遺構の種別ごとに記述していくこととする。なお，遺構については，種別ごとに連続した番号を付し，遺物については，詳細な内容を本文の最後に観察表としてまとめて記載した。

１　溝

１号溝（第６・７図，図版２・５）

Ce1-5～Fe5-5グリッドに位置する。北西から南東方向へ直線状に延びるが，Fe5-5グリッド付近で北に向かって直角に曲がる。確認面から底面までの深さは35～70㎝，断面は逆台形で底面は平坦である。４・９号溝を一部壊して掘り込んでいるほか，２・６号溝に一部掘り込まれている。５・８号溝とも部分的に重複するが，両者との新旧関係は不明である。遺物は，中世の須恵器系陶器・土師質土器と古代の須恵器・土師器が出土している。ただし，前者はいずれも埋土の上層からの出土であるのに対し，後者は下層からも一定量が出土している。このことから，遺構の時期は古代と推定される。なお，その他に鉄滓が330ｇ出土している。

２・４～６・８号溝（第８・９図，図版２・６）

２号溝は，Ee4-5～Fe3-2グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは48～40㎝，断面は逆台形で底面は平坦である。１・８号溝の一部を壊して掘り込み，６号溝に一部を掘り込まれている。遺物は，土師器が２点出土しているが，小片のため図化していない。遺構の時期は不明である。

４号溝は，Ee3-5～Ef4-4グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは40㎝，断面は逆台形で底面は平坦である。１号溝に一部掘り込まれている。遺物は，埋土の１～３層から古代の須恵器・土師器が少量出土している。小片が多く，図化できたのは２点だけである。

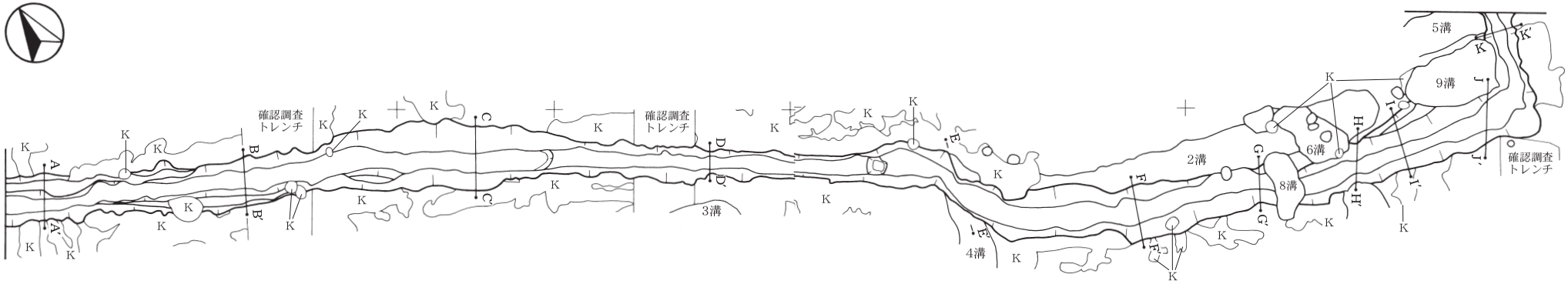
５号溝は，Ee5-4～Fe4-3グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは25～43㎝で，部分的に二段に掘り込む。遺物は，埋土の１・３層から古代の須恵器・土師器がわずかに出土している。２点のみ図化した。

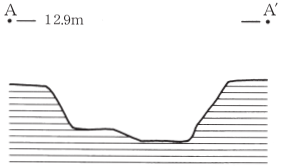
６号溝は，Fe2-5～Ff5-4グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは53～61㎝，断面は逆台形で底面は平坦である。１・２号溝の一部を壊して掘り込んでいるほか，７・８号溝とも一部重複する。７号溝との新旧関係は不明だが，８号溝よりは新しい。遺物は，古代の須恵器・土師器のほか，鉄滓が93.8ｇ出土している。

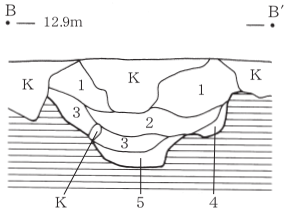
８号溝は，Fe1-5～Ff2-1グリッドに位置する。長さが2.9ｍと，他の溝に比べて著しく短い。確認面から底面までの深さは23㎝，断面は逆台形で底面は平坦である。５号溝の一部を壊して掘り込み，２号溝に一部掘り込まれる。また，１号溝と部分的に重複するが，新旧関係は明らかではない。出土遺物はなく，時期は不明である。

３号溝（第10図，図版２・５・６）

Cf1-2～Df5-1グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは90㎝前後で，深い部分では140㎝にもなる。断面は逆台形で，底面は平坦である。遺物は，埋土の１層から主に出土しているが，２・４層からも少量認められる。内容は，古代の須恵器が主体で，その他に，わずかな土師器と石製品が１点出土している。







1号溝（B－B′）

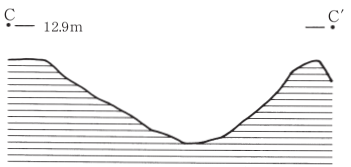
1　7.5YR3/4暗褐色砂質土　粘性やや弱く，しまりややあり。にぶい黄褐色砂粒・黒褐色土粒を極めて微量含む。

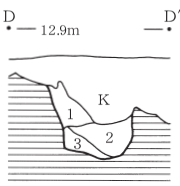
2　10YR3/4暗褐色砂質土　にぶい黄褐色砂粒を微量，炭化物粒を極めて微量含む。１層に類似する。

3　7.5YR3/2黒褐色土　粘性やや弱く，しまりややあり。にぶい黄褐色砂粒を少量含む。

4　7.5YR4/4褐色砂質土　粘性弱く，しまりやや弱い。暗褐色砂質土（２層）とにぶい黄褐色砂（地山）の混合層。

5　10YR2/3黒褐色砂質土　粘性弱く，しまりやや弱い。にぶい黄褐色砂粒をやや多く，炭化物粒を微量含む。



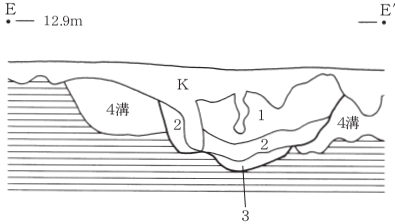


1号溝（D－D′）

1　7.5YR3/3暗褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。にぶい黄褐色シルト粒をやや多く，炭化物粒を微量含む。

2　7.5YR3/2黒褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。にぶい黄褐色シルト粒をやや多く，炭化物粒を少量含む。

3　10YR4/3にぶい黄褐色混砂土　粘性弱く，しまりやや弱い。炭化物粒を微量含む。

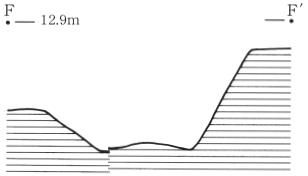


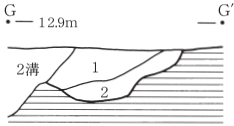
1号溝（E－E′）

1　7.5YR3/3暗褐色砂質土　粘性やや弱く，しまりややあり。灰オリーブ色シルト粒・炭化物粒を極めて微量含む。

2　10YR3/2黒褐色土　粘性ややあり，しまりやや弱い。灰オリーブ色シルト粒を少量含む。

3　10YR2/2黒褐色土　粘性ややあり，しまりやや弱い。灰オリーブ色シルト粒をやや多く，炭化物粒を微量含む。

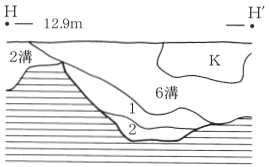




1号溝（G－G′）

1　7.5YR3/2黒褐色土　粘性・しまりやや弱い。褐色シルト粒・炭化物粒を微量含む。

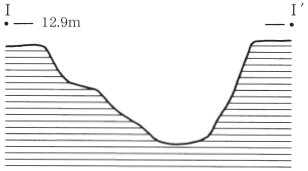
2　10YR3/3暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。褐色シルト粒をやや多く，炭化物粒を微量含む。

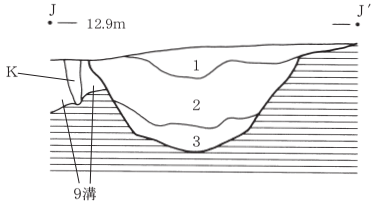


1号溝（H－H′）

1　10YR3/3暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒を多量，炭化物粒を微量含む。

2　10YR4/3にぶい黄褐色混砂土　粘性やや弱く，しまりやや弱い。黄褐色シルト粒を微量含む。



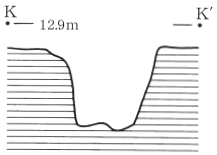


1号溝（J－J′）

1　10YR4/6褐色砂質シルト　粘性弱く，しまりややあり。地山の再堆積。

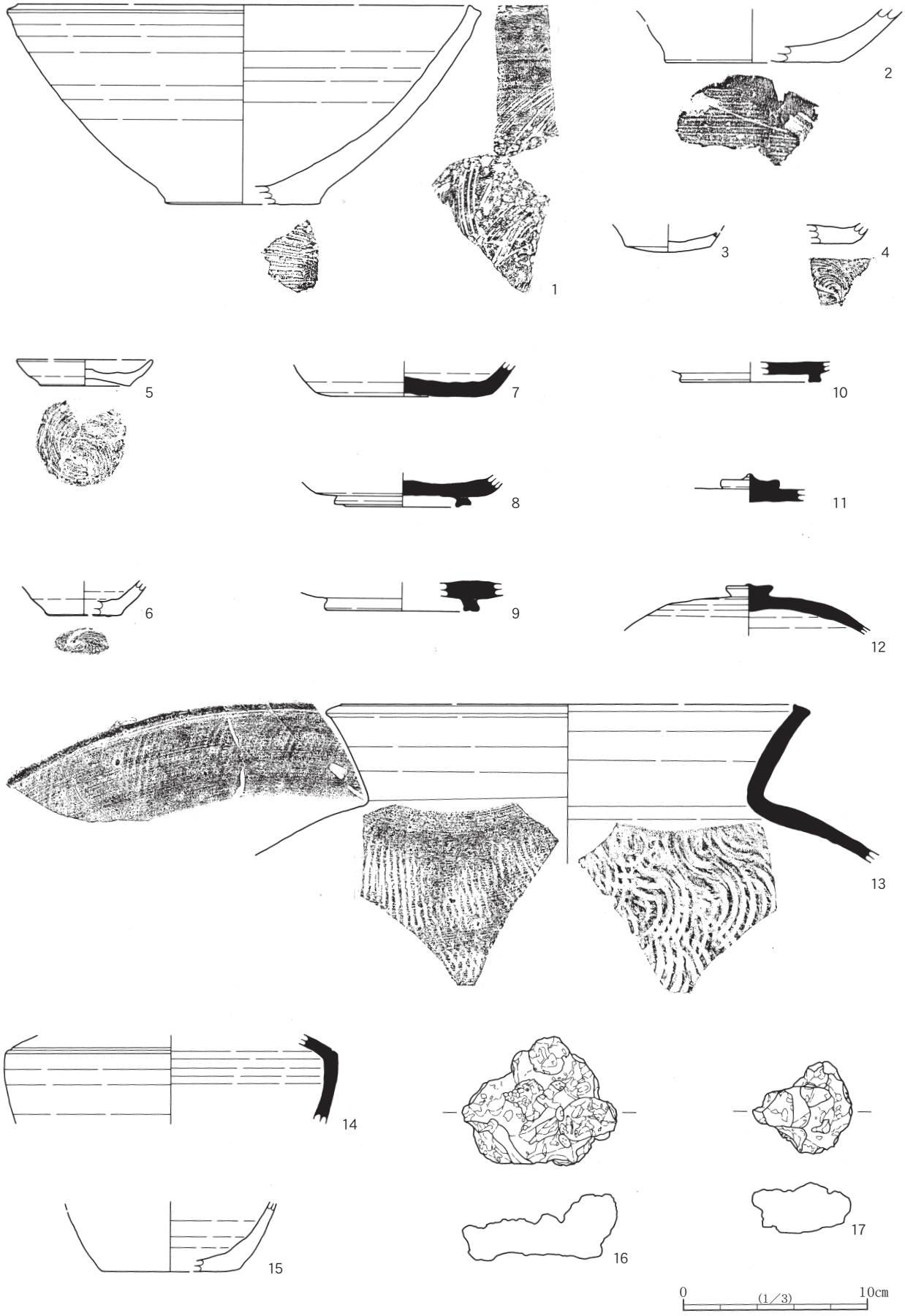
2　7.5YR3/2黒褐色土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒を少量含む。

3　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土　粘性弱く，しまりやや弱い。黄褐色シルト粒を少量含む。

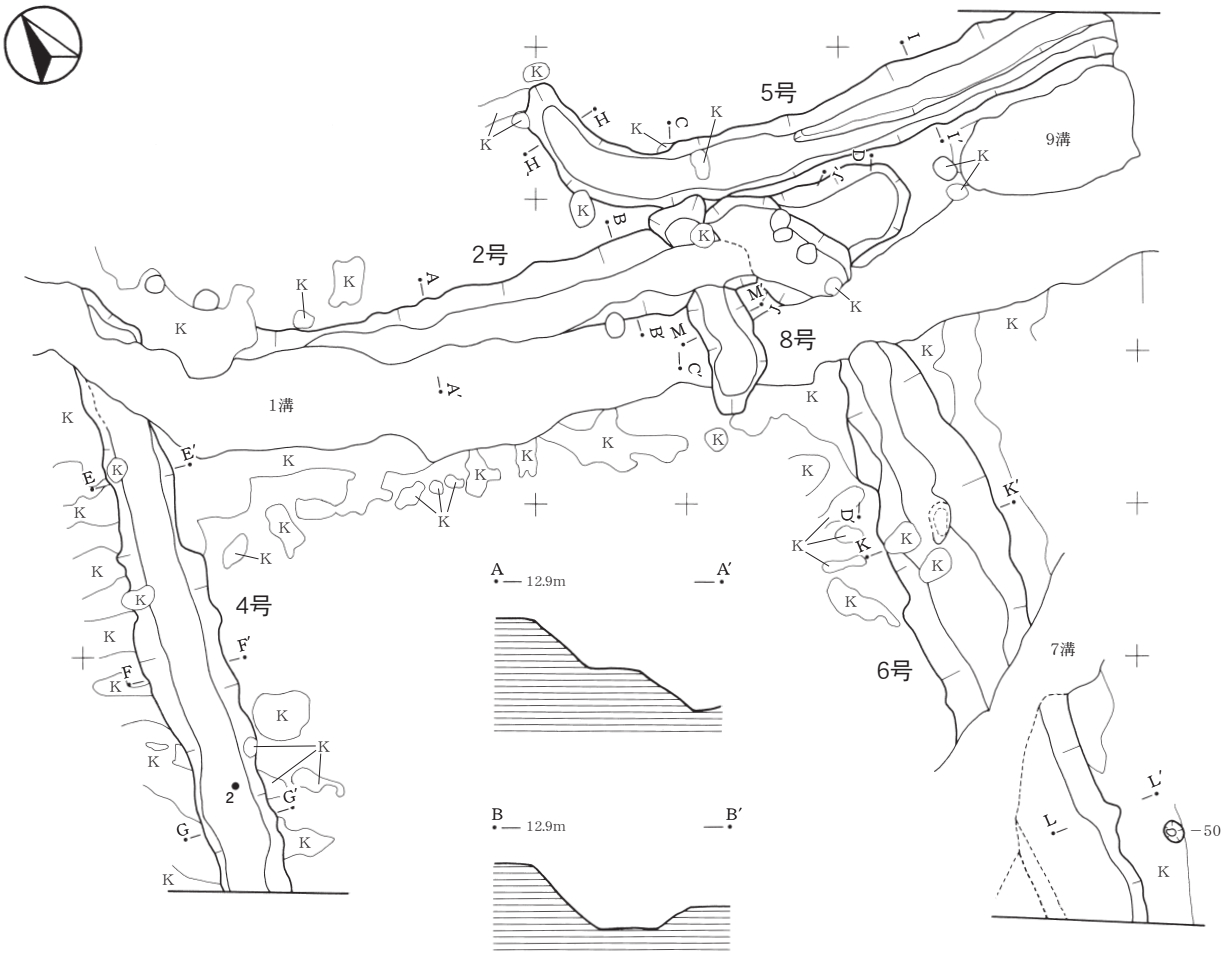


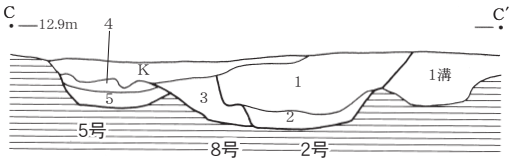
平面図：0　(1／150)　5m　　断面図：0　(1／50)　2m

第6図　1号溝



第７図　１号溝の出土遺物





2・5・8号溝（C－C′）

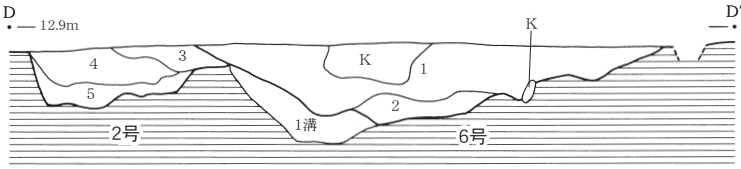
1　7.5YR3/3暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。砂礫を少量，褐色シルト粒・炭化物粒を微量含む。

2　10YR4/3にぶい黄褐色混砂土　粘性・しまりやや弱い。褐色シルト粒・炭化物粒を微量含む。

3　10YR2/3黒褐色土　粘性・しまりやや弱い。褐色シルト粒をやや多く，炭化物粒を少量含む。

4　7.5YR4/3褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。褐色シルト粒を極めて多量，炭化物粒を少量含む。

5　7.5YR4/4褐色混シルト土　粘性・しまりやや弱い。地山の再堆積を主体とする。暗褐色土粒をやや多く含む。



2・6号溝（D－D′）

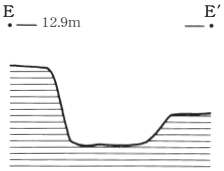
1　10YR3/4暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒を少量，炭化物粒を微量含む。

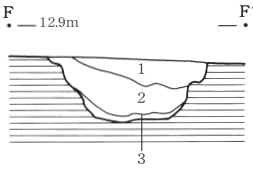
2　10YR4/4褐色砂質土　黄褐色シルト粒を少量含む。

3　7.5YR4/3褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒を少量含む。

4　7.5YR3/4暗褐色土　粘性ややあり，しまりやや弱い。黄褐色シルト粒を少量，炭化物粒を微量含む。

5　10YR4/4褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒をやや多く含む。



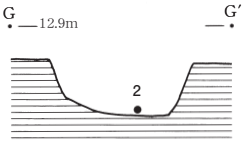


4号溝（F－F′）

1　7.5YR4/4褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。にぶい黄褐色シルト粒をやや多く含む。

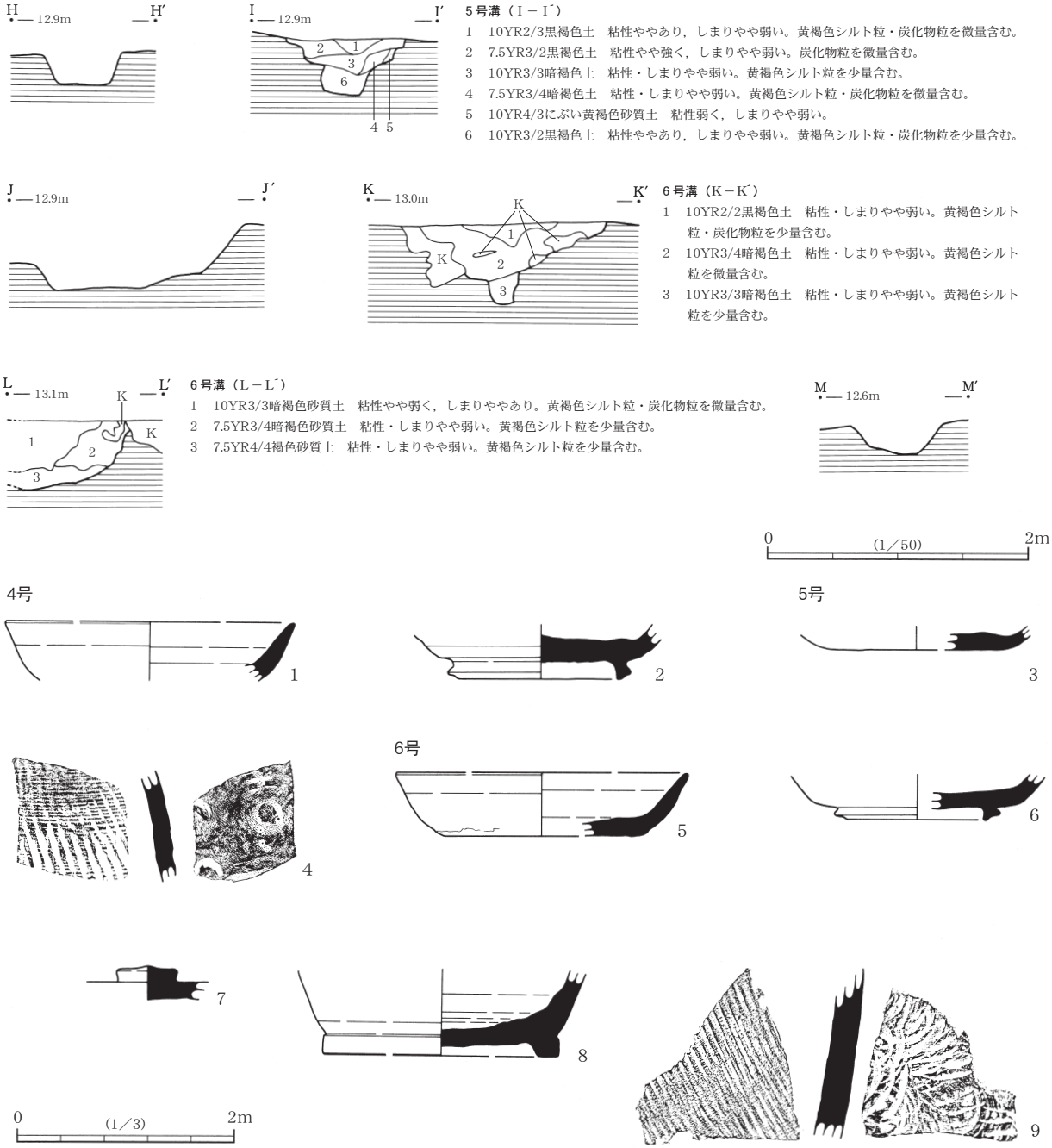
2　7.5YR3/4暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。にぶい黄褐色シルト粒をやや多く，炭化物粒を少量含む。

3　7.5YR4/4褐色混砂土　粘性弱く，しまりやや弱い。地山の再堆積。



断面図：0　(1／50)　2m
平面図：0　(1／100)　4m

第8図　2・4～6・8号溝（1）

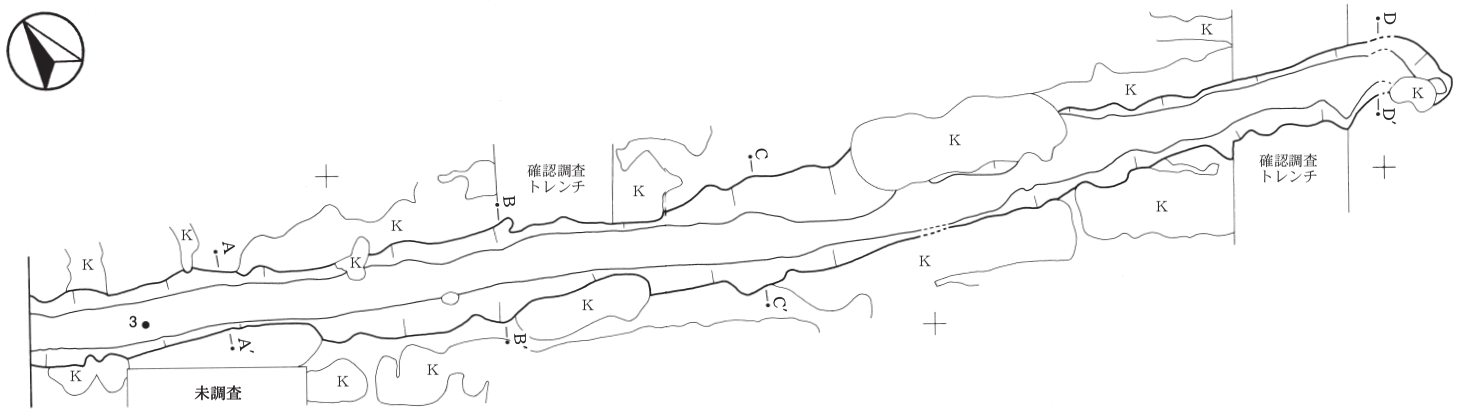


第９図　４～６・８号溝（２）と出土遺物

７・９・10号溝（第11・12図，図版２・６）

７号溝は，Ff3-4～Ge2-4グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは40～60㎝，断面は逆台形で底面は平坦である。10号溝を一部壊して掘り込んでいるほか，６号溝と一部重複する。遺物は埋土の１・２層から出土しており，出土量は比較的多い。古代の須恵器・土師器が主体だが，中世の磁器・土師質土器が３点のほか，鉄滓が1,370ｇ出土している。磁器は，１・２層から白磁がそれぞれ１点ずつ出土している。ただし，いずれも小片のため，図化していない。これらの出土遺物から，遺構の時期は中世と推定される。

９号溝は，Fe3-4～Ge1-3グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは30～40㎝，断面は逆台形で底面は平坦である。１号溝に一部掘り込まれている。遺物は，埋土の１～３層から古代の須恵器が少量，土師器がわずかに出土したほか，鉄滓が104.6ｇ出土している。



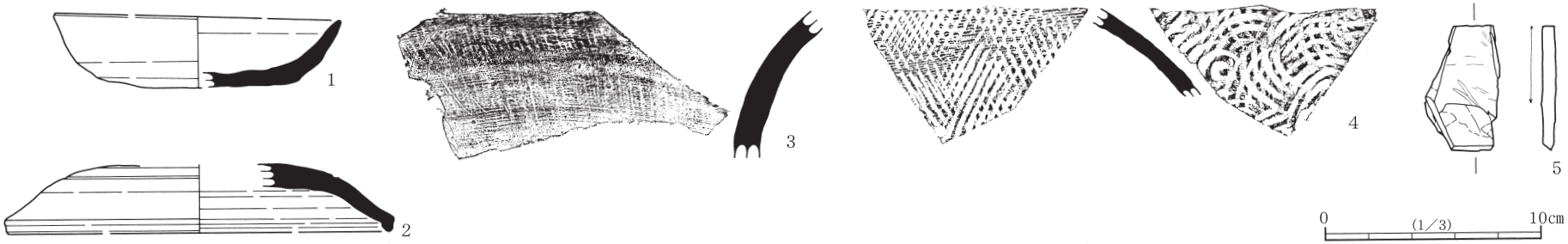
3号溝（B－B′）

1　7.5YR3/4暗褐色砂質土　粘性やや弱く，しまりややあり。にぶい黄褐色砂粒を微量含む。
2　10YR3/3暗褐色砂質土　粘性やや弱く，しまりややあり。にぶい黄褐色砂粒を少量，炭化物粒を微量含む。
3　7.5YR3/2黒褐色土　粘性・しまりやや弱い。にぶい黄褐色砂粒をやや多く，炭化物粒を微量含む。
4　10YR3/4暗褐色混砂土　粘性・しまりやや弱い。にぶい黄褐色砂粒を少量，炭化物粒を微量含む。
5　10YR4/3にぶい黄褐色混砂土　粘性弱く，しまりやや弱い。

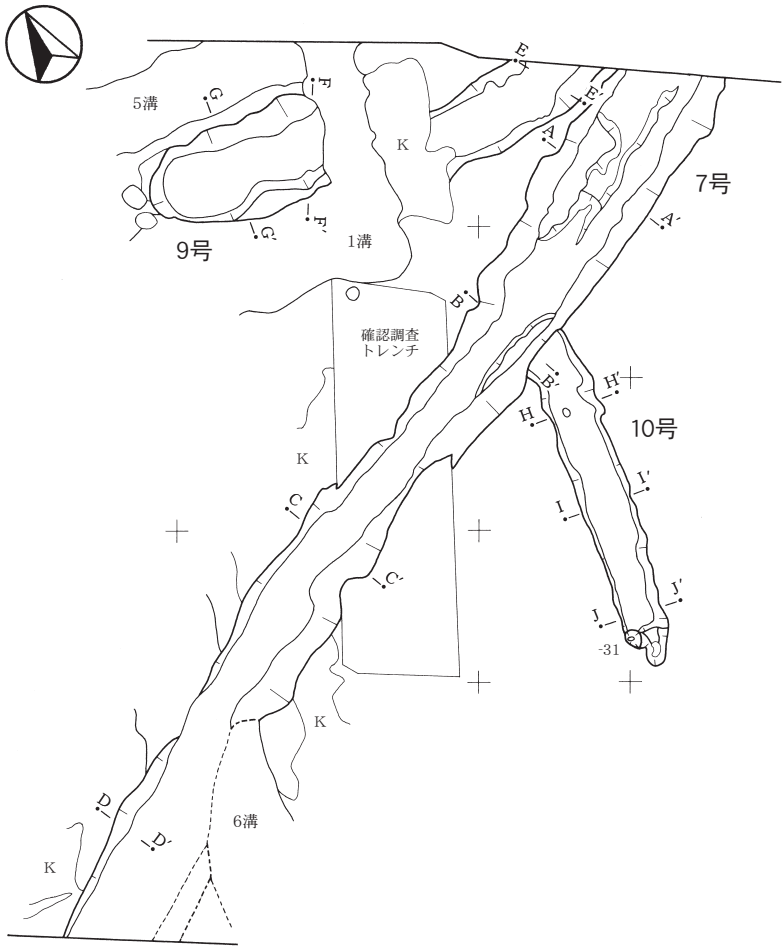
3号溝（D－D′）

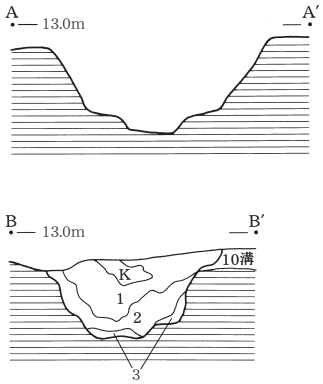
1　7.5YR3/4暗褐色砂質土　粘性弱く，しまりややあり。
にぶい黄褐色砂粒をやや多く含む。

断面図：0　(1／50)　2m
平面図：0　(1／100)　4m



第10図　3号溝と出土遺物



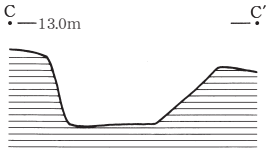


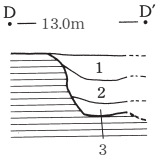
7号溝（B－B′）

1　7.5YR3/4暗褐色砂質土　粘性やや弱く，しまりややあり。黄褐色シルト粒を少量，炭化物粒を微量含む。

2　10YR3/4暗褐色砂質土　粘性やや弱く，しまりややあり。黄褐色シルト粒をやや多く，炭化物粒を微量含む。

3　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒を少量含む。



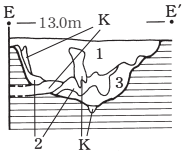


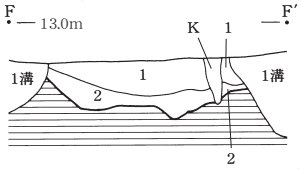
7号溝（D－D′）

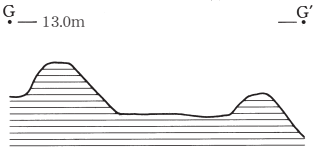
1　10YR2/2黒褐色土　粘性ややあり，しまりやや弱い。炭化物粒をやや多く，焼土粒を少量含む。

2　10YR3/3暗褐色土　粘性ややあり，しまりやや弱い。黄褐色シルト粒・炭化物粒を少量含む。

3　10YR4/3にぶい黄褐色混砂土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒を微量含む。







9号溝（E－E′）

1　10YR3/4暗褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒・炭化物粒を微量含む。

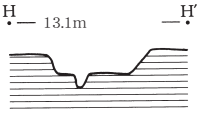
2　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒を少量，炭化物粒を微量含む。

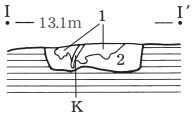
3　10YR4/4褐色混土砂　粘性弱く，しまりややあり。黄褐色シルト粒を微量，炭化物粒を極めて微量含む。地山の再堆積。

9号溝（F－F′）

1　7.5YR3/3暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒・炭化物粒を微量含む。

2　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土　粘性弱く，しまりややあり。黄褐色シルト粒をやや多く含む。

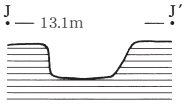




10号溝（I－I′）

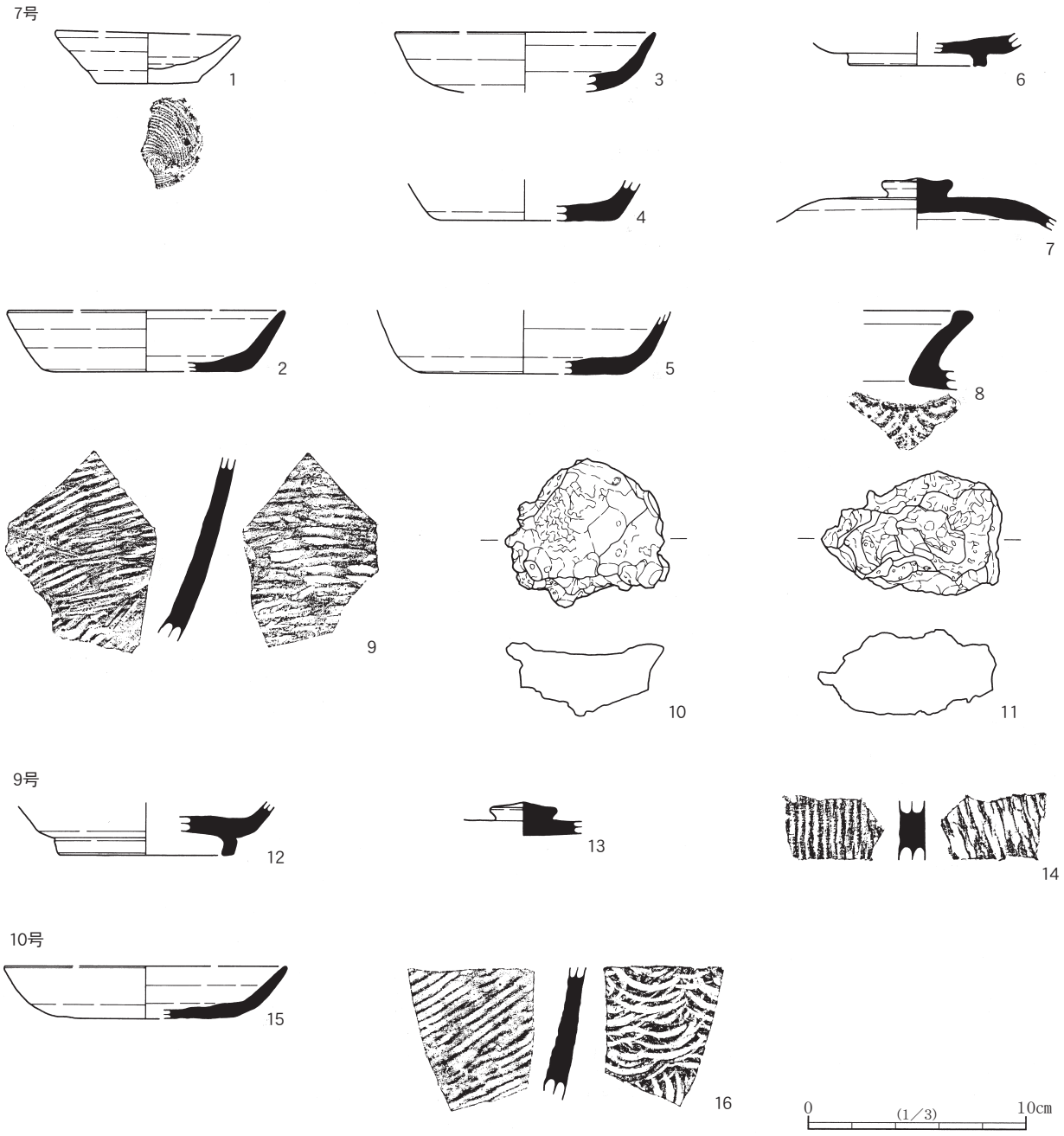
1　10YR3/4暗褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒・炭化物粒を微量含む。

2　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒を少量含む。



断面図：0　(1／50)　2m
平面図：0　(1／100)　4m

第11図　7・9・10号溝



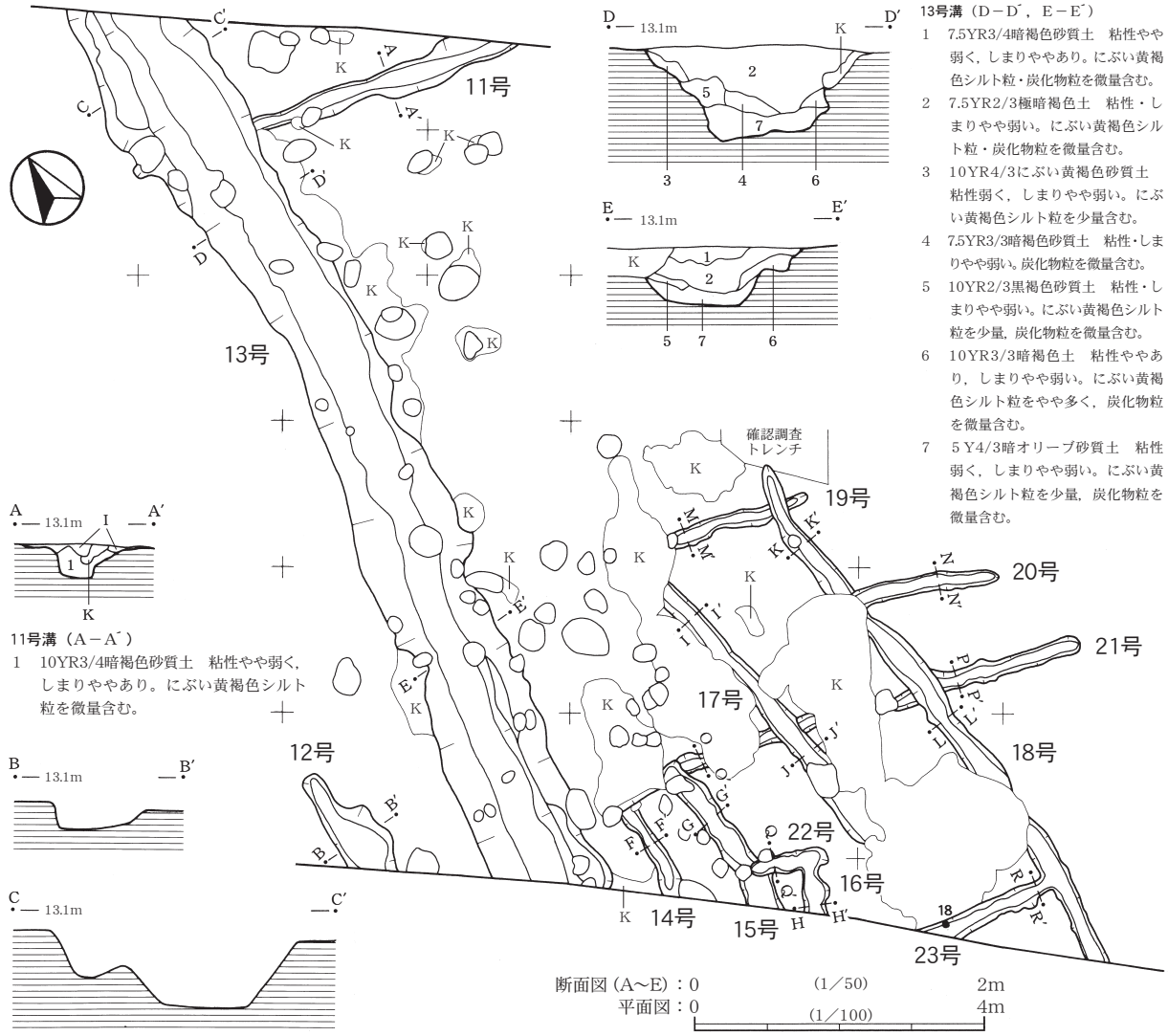
第12図　7・9・10号溝の出土遺物

10号溝は，Ge1-5～Gf2-2グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは15～23cmと浅い。断面は箱形で，底面は平坦である。南側の先端部付近を小ピットによって掘り込まれているほか，北側の先端部は７号溝によって掘り込まれている。遺物は，埋土の１・２層から古代の須恵器・土師器が少量出土している。ただし，そのほとんどが小片のため，図化できたのは２点である。

11～23号溝（第13・14図，図版３・６・７）

11号溝は，Ge5-4～He2-4グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは24cmで，幅は17～50cmとやや狭い。断面は不整な逆台形で，底面は平坦である。13号溝と直交するように一部が重複するが，新旧関係は不明である。遺物は，古代の須恵器がわずかに出土している。

12号溝は，Hf1-4グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは17cmと浅い。断面は逆台形で，底面は平坦である。遺物は，古代の土師器が２点出土しているが，小片のため図化していない。



13号溝（D－D´，E－E´）

1　7.5YR3/4暗褐色砂質土　粘性やや弱く，しまりややあり。にぶい黄褐色シルト粒・炭化物粒を微量含む。

2　7.5YR2/3極暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。にぶい黄褐色シルト粒・炭化物粒を微量含む。

3　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土　粘性弱く，しまりやや弱い。にぶい黄褐色シルト粒を少量含む。

4　7.5YR3/3暗褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。炭化物粒を微量含む。

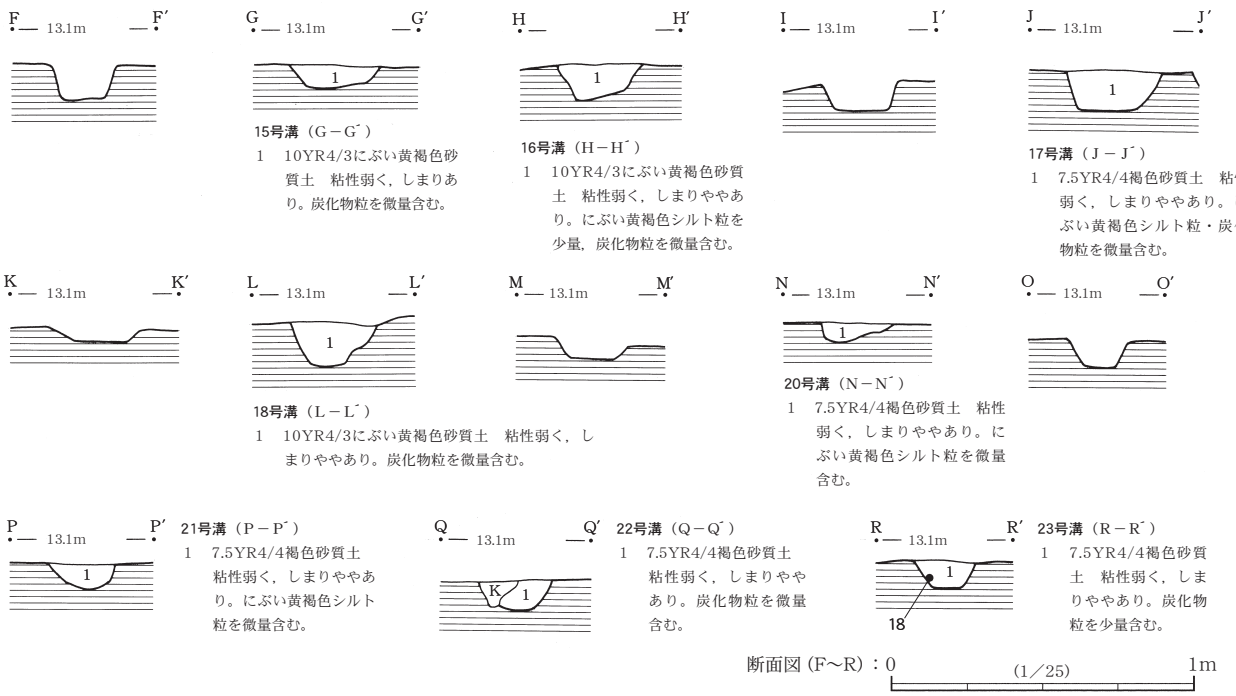
5　10YR2/3黒褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。にぶい黄褐色シルト粒を少量，炭化物粒を微量含む。

6　10YR3/3暗褐色土　粘性ややあり，しまりやや弱い。にぶい黄褐色シルト粒をやや多く，炭化物粒を微量含む。

7　5Y4/3暗オリーブ砂質土　粘性弱く，しまりやや弱い。にぶい黄褐色シルト粒を少量，炭化物粒を微量含む。

11号溝（A－A´）

1　10YR3/4暗褐色砂質土　粘性やや弱く，しまりややあり。にぶい黄褐色シルト粒を微量含む。



15号溝（G－G´）

1　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土　粘性弱く，しまりあり。炭化物粒を微量含む。

16号溝（H－H´）

1　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土　粘性弱く，しまりややあり。にぶい黄褐色シルト粒を少量，炭化物粒を微量含む。

17号溝（J－J´）

1　7.5YR4/4褐色砂質土　粘性弱く，しまりややあり。にぶい黄褐色シルト粒・炭化物粒を微量含む。

18号溝（L－L´）

1　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土　粘性弱く，しまりややあり。炭化物粒を微量含む。

20号溝（N－N´）

1　7.5YR4/4褐色砂質土　粘性弱く，しまりややあり。にぶい黄褐色シルト粒を微量含む。

21号溝（P－P´）

1　7.5YR4/4褐色砂質土　粘性弱く，しまりややあり。にぶい黄褐色シルト粒を微量含む。

22号溝（Q－Q´）

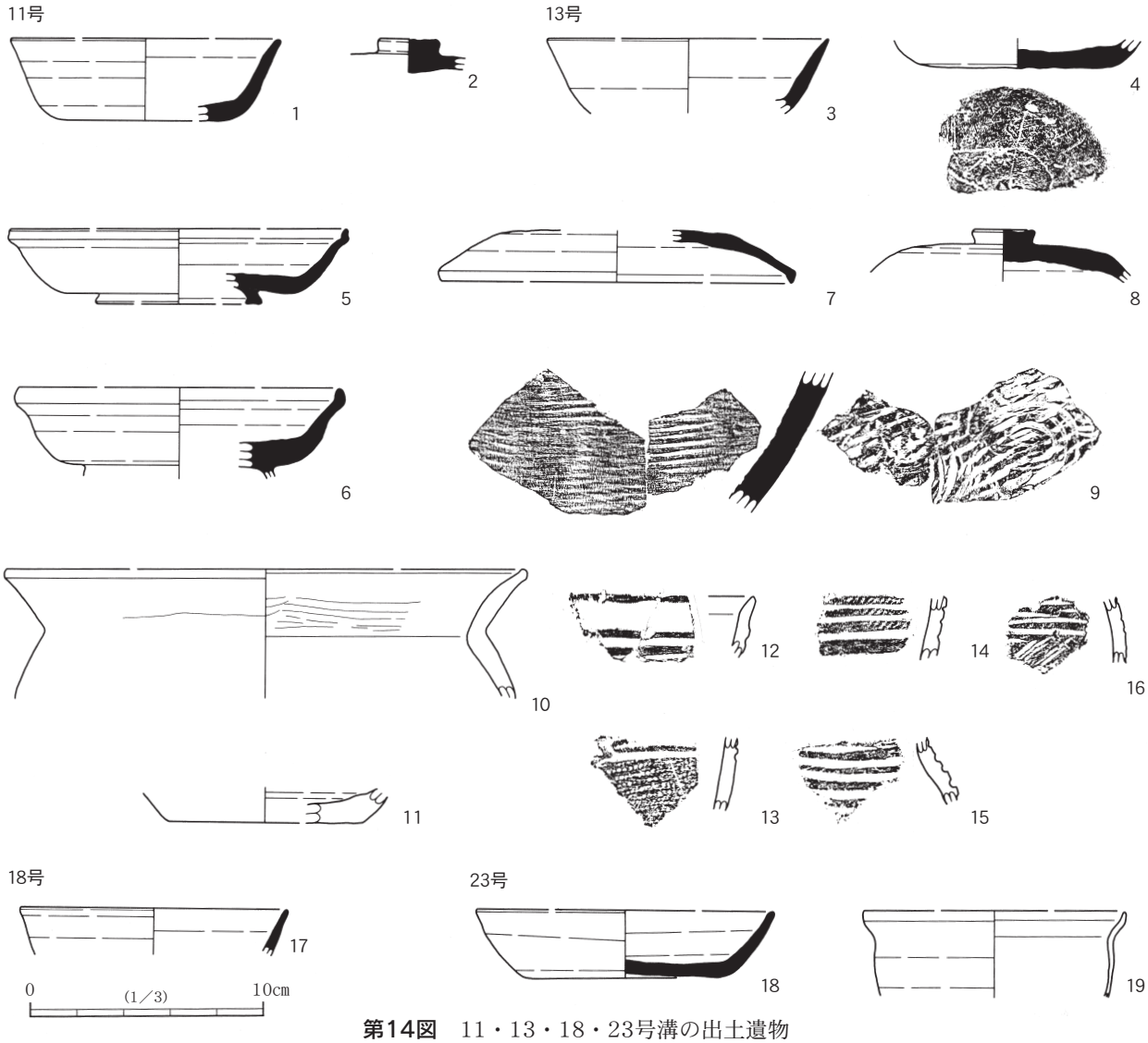
1　7.5YR4/4褐色砂質土　粘性弱く，しまりややあり。炭化物粒を微量含む。

23号溝（R－R´）

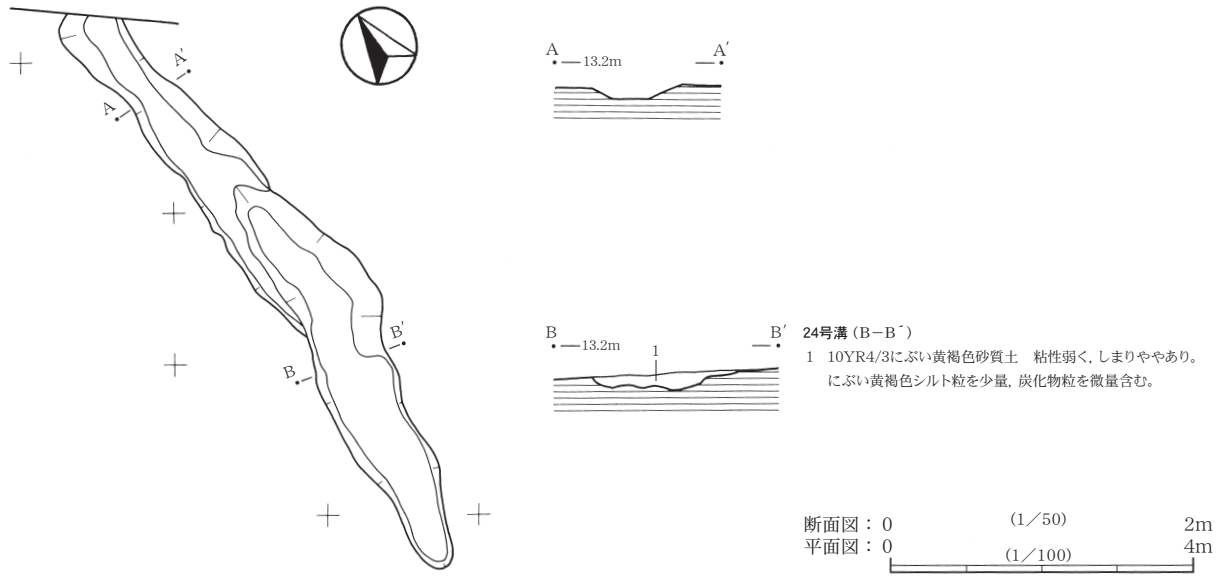
1　7.5YR4/4褐色砂質土　粘性弱く，しまりややあり。炭化物粒を少量含む。

断面図（F～R）：0 (1／25) 1m

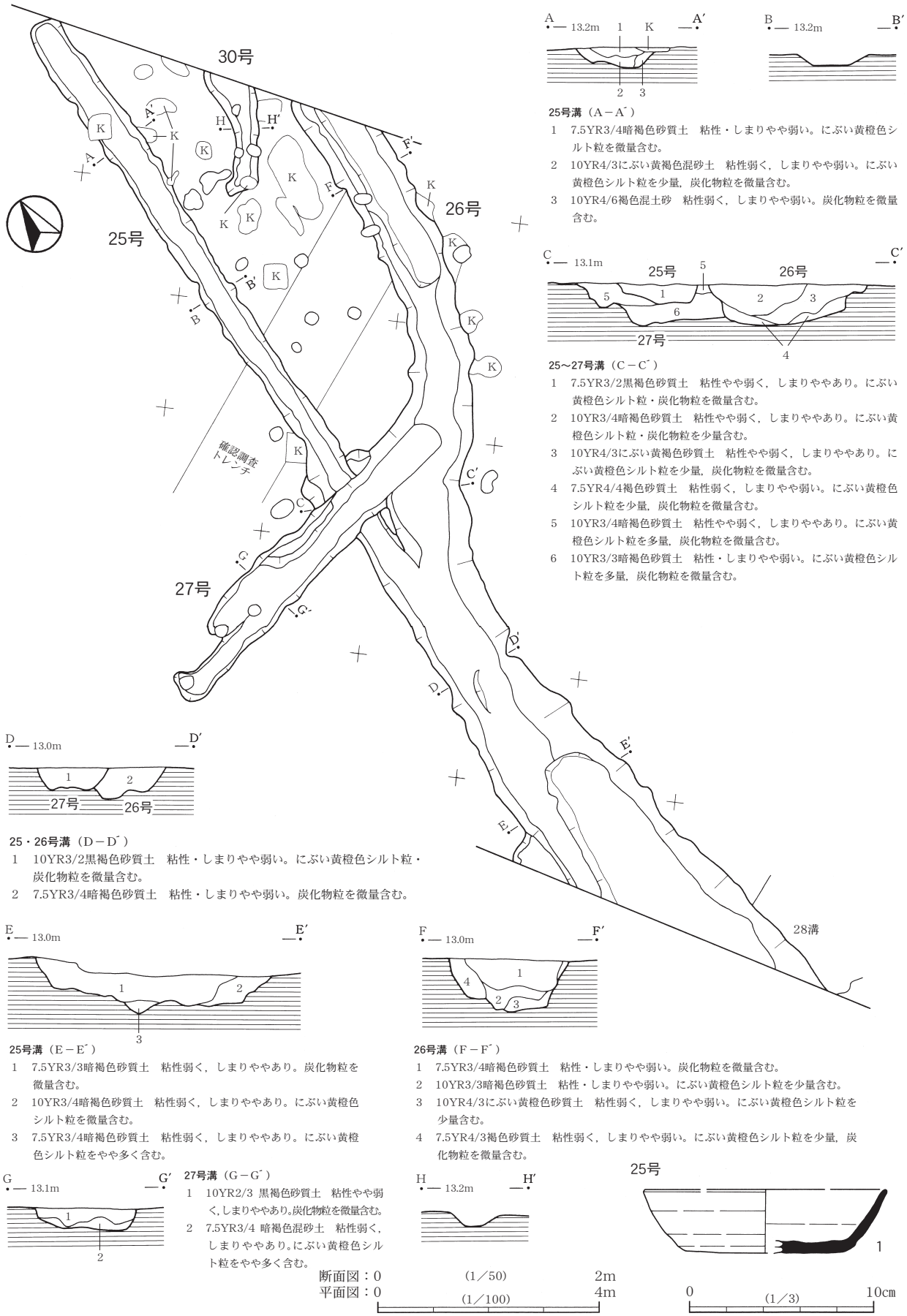
第13図　11～23号溝



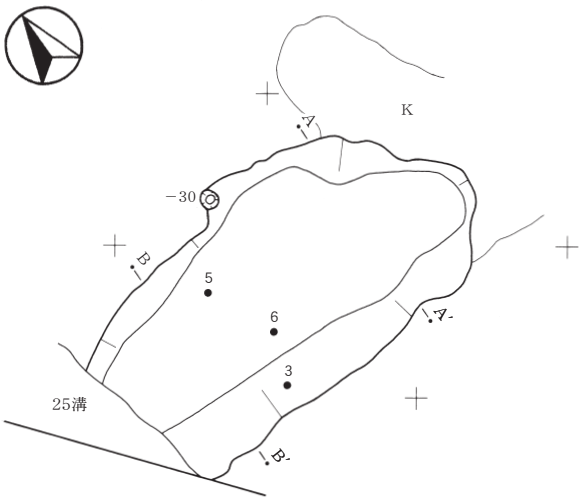
第14図　11・13・18・23号溝の出土遺物

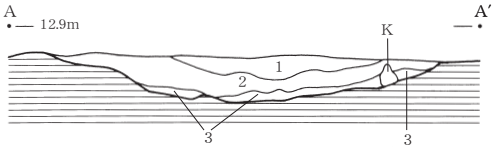


第15図　24号溝



第16図　25～27・30号溝と出土遺物



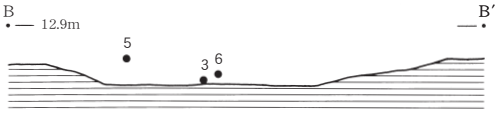


28号溝（A－A′）

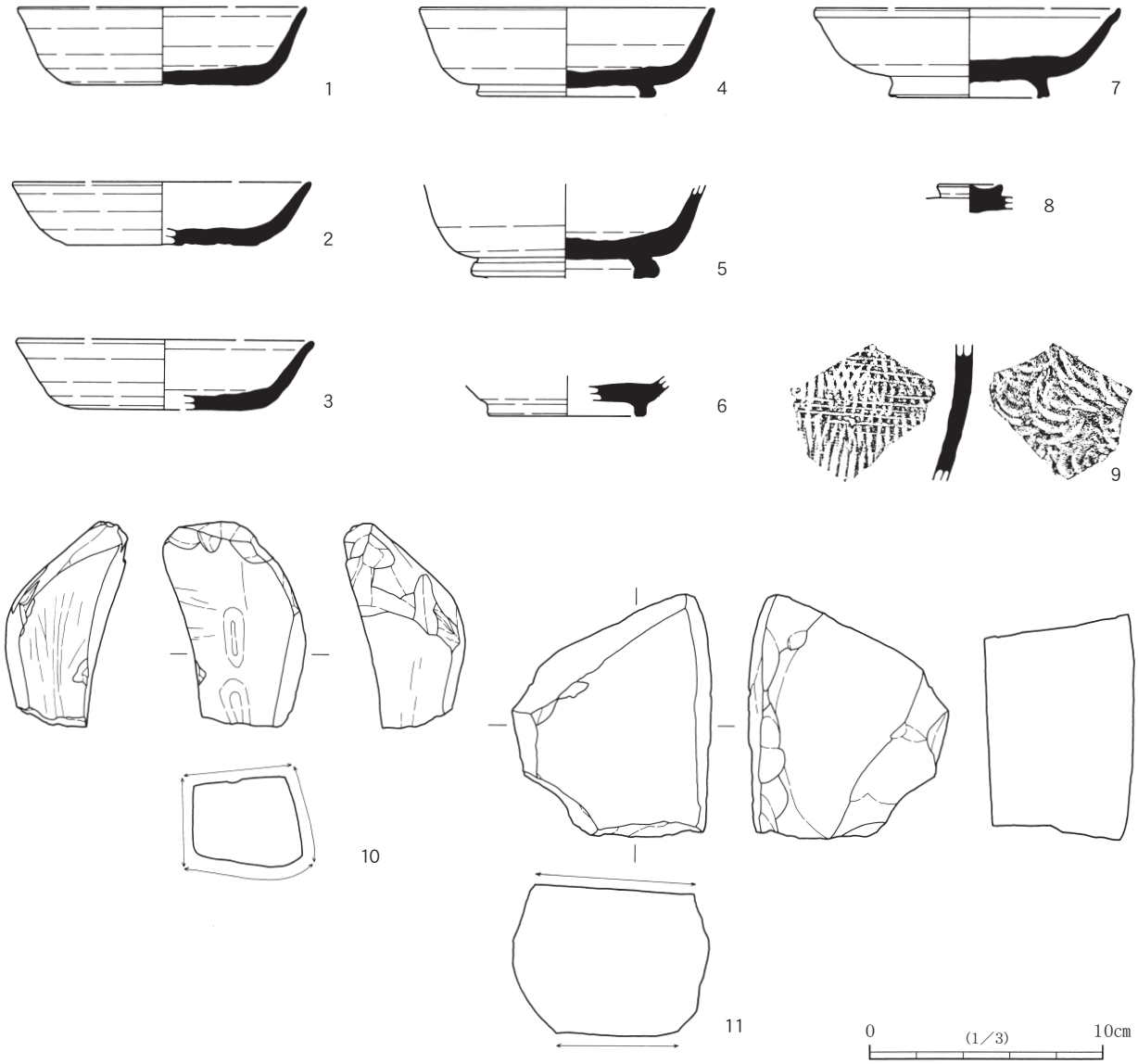
1　10YR2/3黒褐色土　粘性やや弱く，しまりややあり。

2　7.5YR2/2黒褐色混砂土　粘性弱く，しまりややあり。粗砂由来の砂礫岩片をやや多く，炭化物粒を微量含む。

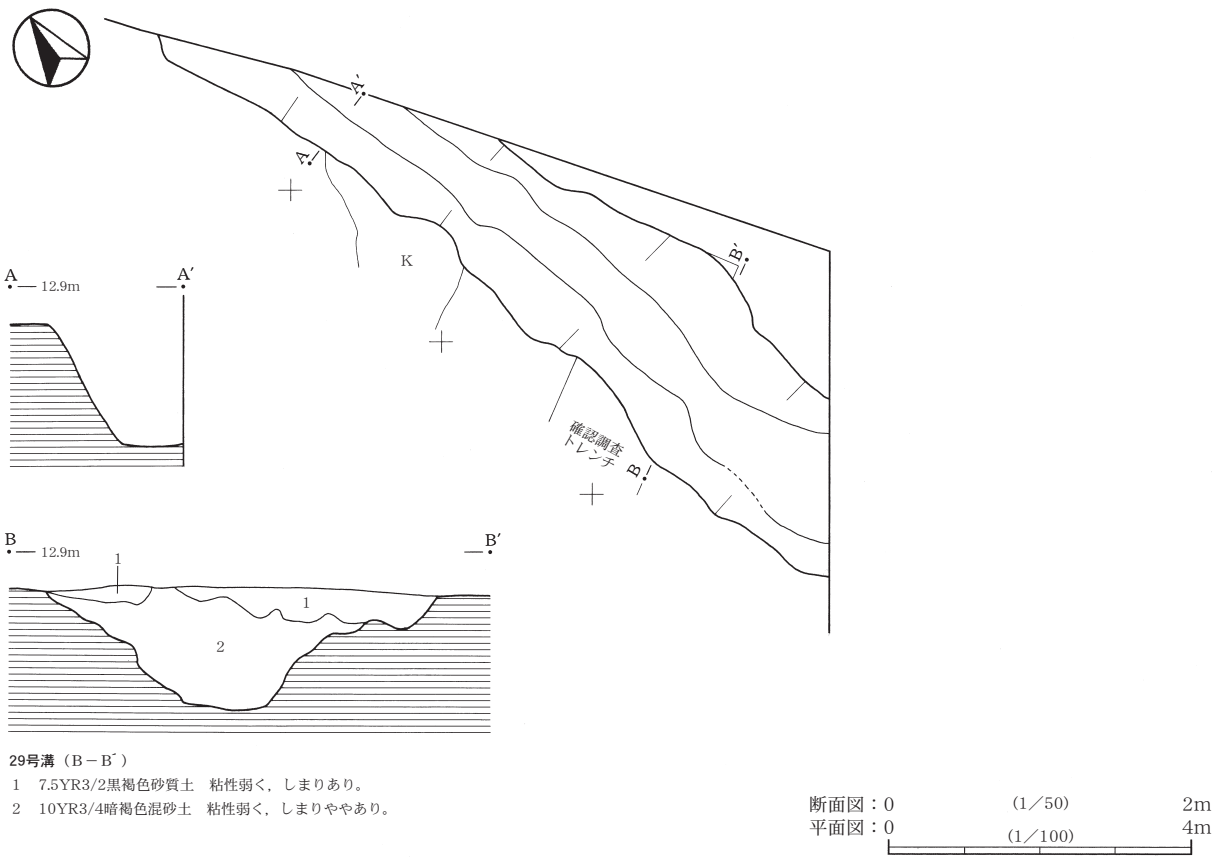
3　7.5YR3/3暗褐色混砂土　粘性弱く，しまり強い。オリーブ色砂質シルト粒をやや多く含む。



断面図：0　(1／50)　2m
平面図：0　(1／100)　4m



第17図　28号溝と出土遺物



第18図　29号溝

13号溝は，Ge4-4～Hf3-5グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは40～63cm，断面は逆台形で底面は平坦である。11号溝の西側の先端部と重複しているが，新旧関係は不明である。遺物は，埋土の１・２・５～７層から出土しているが，特に２層からの出土が顕著である。内容は，いずれも古代の須恵器・土師器で，出土量はともに多い。その他に，図化はしていないが，棒状鉄製品の小片と鉄滓が32.8ｇ出土している。なお，縄文時代晩期末の土器の小片が少量出土しているが，混入によるものと考えられる。

14～23号溝は，Hf3-2～If1-5グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは５～14cmと浅く，底面は凹凸がある。幅はおおむね12～36cmと狭く，14～18号溝は南北方向に0.6～1.4m程の間隔で，19～23号溝は東西方向に1.1～1.5m程の間隔で，それぞれ並行して延びる。埋土はいずれも単層で，出土遺物は古代の須恵器・土師器である。これらの溝は，規模やその配置から，いわゆる「畝状小溝」といわれる畑作の耕作跡と推定される。

24号溝（第15図，図版３）

He5-4～If2-3グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは８～12cmと浅く，断面は逆台形，底面は比較的平坦である。出土遺物はなく，時期は不明である。

25～27・30号溝（第16図，図版３・７）

25号溝は，Je1-5～Kg4-3グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは10～35cmとやや浅い。断面は逆台形で，底面にはやや凹凸がある。幅は60～70cmだが，Kg2-2グリッド付近で200cm以上に広がる。26号溝の一部と27号溝の埋土を掘り込み，28号溝と一部重複する。遺物は古代の須恵器・土師器がわずかに出土している。

26号溝は，Jf3-1～Kg1-1グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは36～48cm，断面は逆台形で底面にはやや凹凸がある。27号溝の一部を壊して掘り込み，25号溝に一部掘り込まれている。遺物は，古代の須恵器・土師器が少量のほか，鉄滓が74.4ｇ出土している。いずれも小片のため，図化していない。

27号溝は，Jg3-1～Jf5-3グリッドに位置する。確認面から底面までの深さは18～34㎝，断面は箱形で底面は平坦である。25号溝には埋土を，26号溝には遺構の一部を掘り込まれている。遺物は，埋土の上・下層から古代の須恵器・土師器がわずかに出土したほか，鉄滓が26ｇ出土している。いずれも小片のため，図化していない。

30号溝は，Je2-5～Jf3-2グリッドに位置する。断面は逆台形で，確認面から底面までの深さは13㎝と浅い。出土遺物はなく，時期は不明である。

28号溝（第17図，図版４・７）

Kg3-2～Lg1-2グリッドに位置する。幅は2.4～3.1ｍと非常に広く，確認面から底面までの深さは15～30㎝とやや浅い。断面は皿形で，底面は平坦である。25号溝と一部重複しているが，新旧関係は不明である。遺物は，埋土の１～３層から古代の須恵器と少量の土師器，鉄滓が89.4ｇ出土している。

29号溝（第18図，図版４）

Lf1-3～Lg5-1グリッドに位置する。幅は1.4～2.2ｍと広く，確認面から底面までの深さは80㎝と深い。断面は逆台形，底面は平坦で北から南に向かって緩やかに傾斜する。遺構の規模や底面の掘り込みがⅤ層よりさらに下の砂礫層にまで達していることなどから，自然流路の可能性もある。遺物は，埋土の１・２層から古代の須恵器がわずかに出土しているが，小片のため図化していない。

２　井戸と土坑

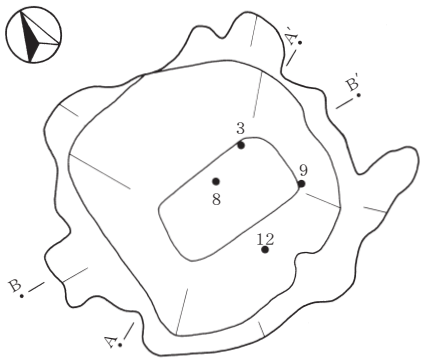
１号井戸（第19図，図版４・７・８）

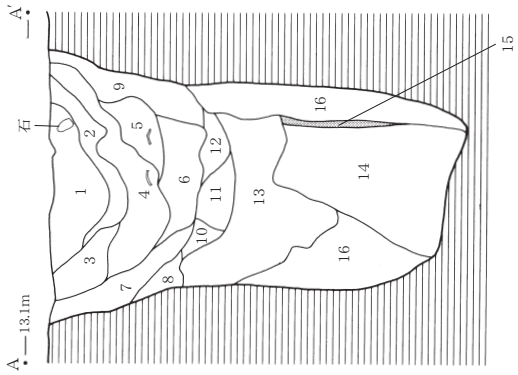
Jf1-3～Jf2-4グリッドに位置する。平面は不整な方形で，長軸は168㎝，短軸は150㎝，確認面から底面までの深さは最大で220㎝ある。断面はU字形，底面は長方形で，埋土は16層に分けられる。下層の14層は井戸枠内の堆積土，15層は井戸枠の縦板が土壌化したもので，前者の堆積状況から，井戸を埋め戻す際に，枠の縦板が傾いたか，若しくはすでに傾いていたことが見て取れる。井戸枠自体は遺存していないが，埋土の観察から，枠の平面は方形であったと推定される。遺物は，上層の１～６層から古代の須恵器・土師器が一定量，下層の13・14層からも古代の須恵器が少量出土している。また，鉄滓が，前者から1,085ｇ，後者から185ｇ出土している。

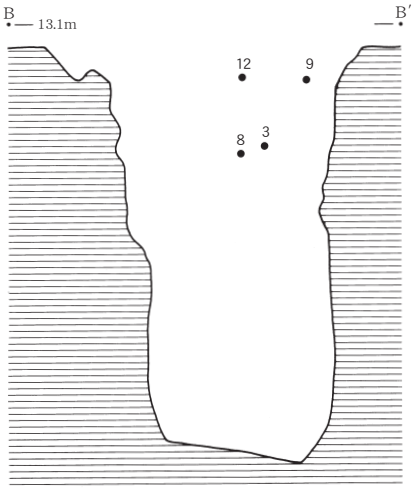
遺構の時期については，４層と11層から出土した炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ，12世紀後半～13世紀前半という結果が得られた。しかし，出土遺物からは当該期に確実に比定できるものは見つかっていない。そのため判断に迷うところではあるが，同じ調査区内で，７号溝や１号土坑といった当該期に比定される遺構が見つかっていることなどから，ここでは本遺構を中世の所産としておきたい。

１～３号土坑（第20図，図版４・８）

１号土坑は，Ee3-3～Ee4-4グリッドに位置する。平面は隅丸長方形で，長軸は134㎝，短軸は84㎝，確認面から底面までの深さは35㎝である。断面は逆台形，底面は平坦で，埋土は５層に分けられる。下層の４層を中心として，10～20㎝大の礫が多量に出土したが，これらはいずれも割れており，被熱の痕跡も多く認められた。土坑自体には被熱の痕跡が認められないことから，これらの礫群は，焼成により割れた後，本遺構に破棄されたと推定される。遺物は，１・４・５層から中世の陶磁器と古代の須恵器・土師器が，それぞれわずかに出土しているが，小片のため図化できたのは１点だけである。陶磁器は，白磁・青磁・珠洲が１点ずつ，いずれも４層からの出土で，特に，珠洲は同層の最下部から出土している。これらの遺物から，本遺構は中世の所産で，時期は12世紀後半～13世紀前半と推定される。ただし，４層から出土の炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ，11世紀～12世紀前半という結果が得られた。出土遺物から推定される年代と，やや時期差がみられる。

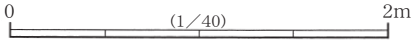


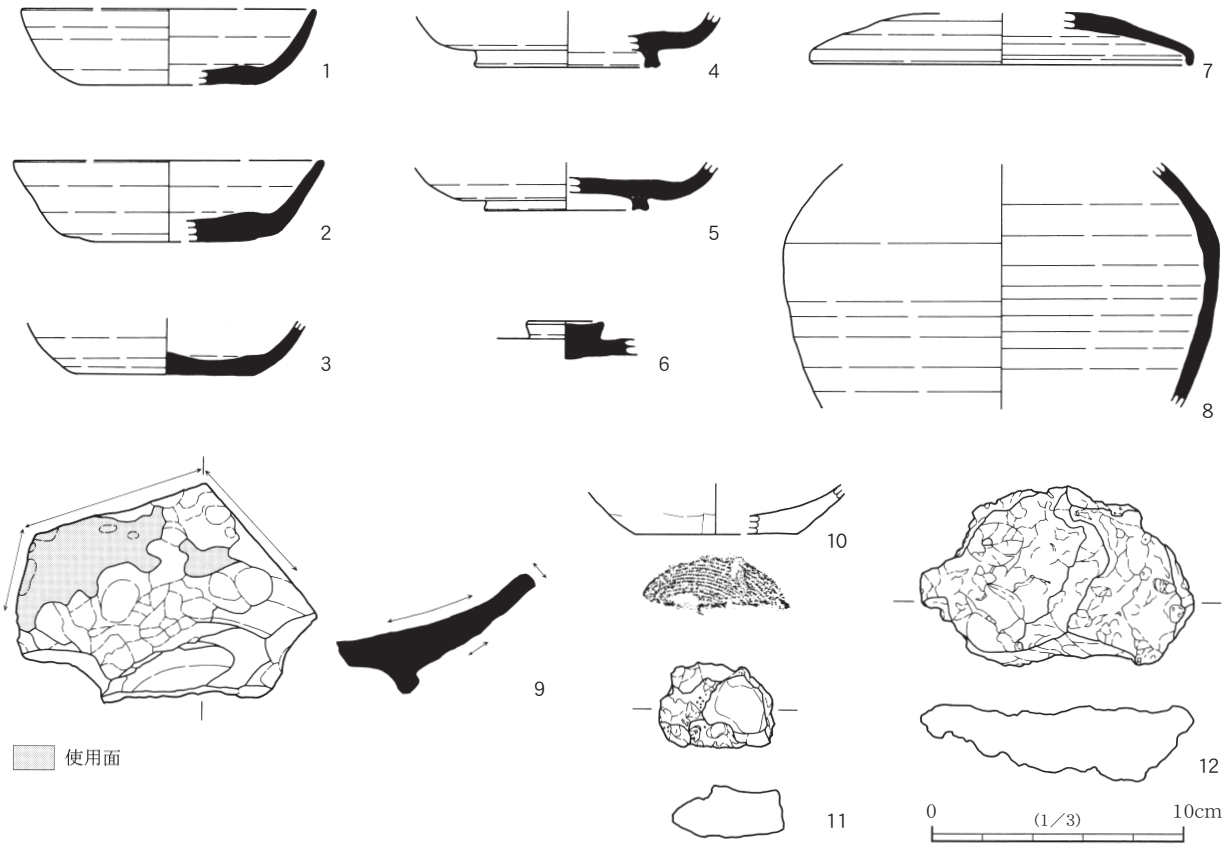




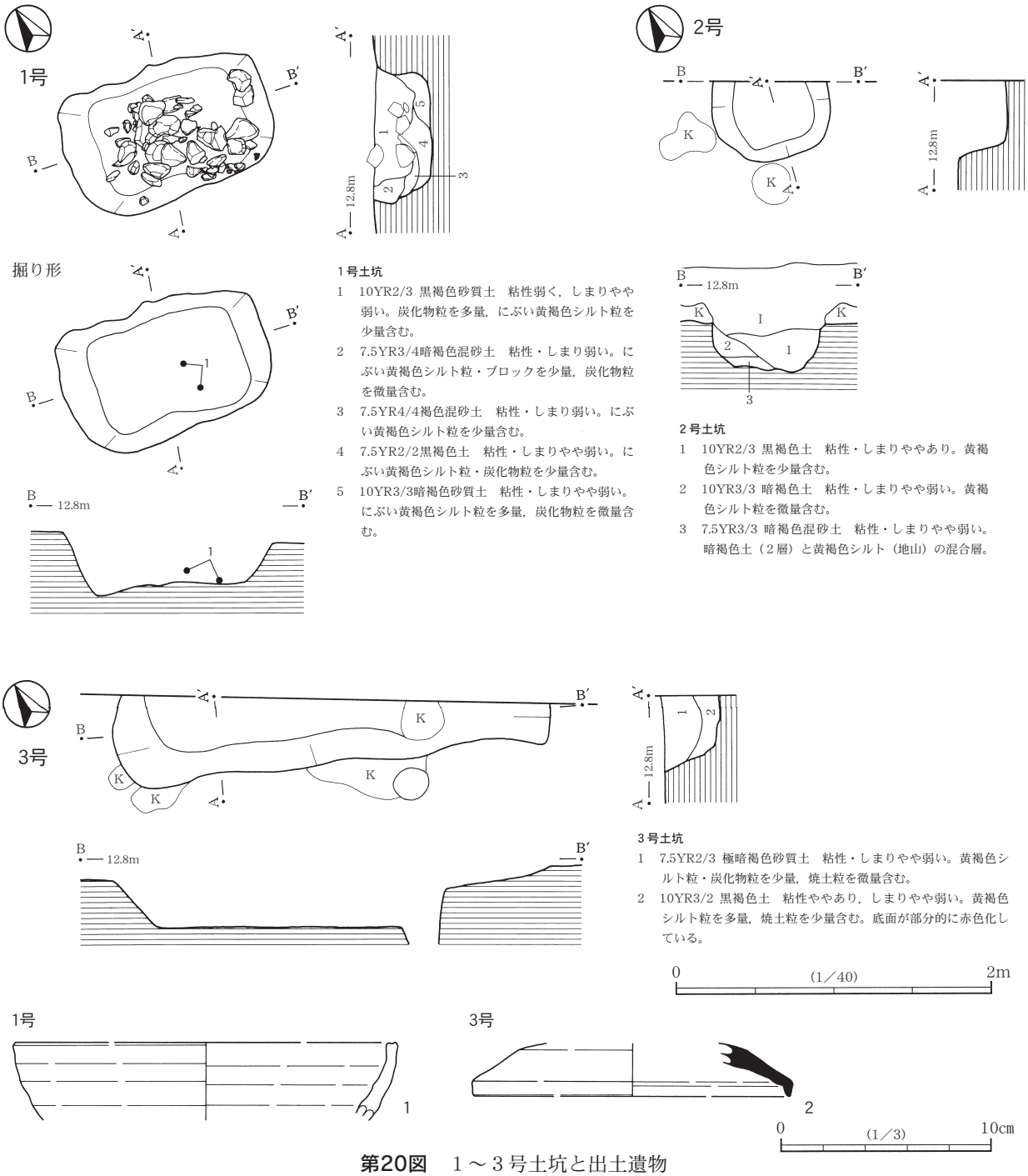
1号井戸

1　7.5YR3/3暗褐色砂質土　粘性やや弱く，しまりややあり。にぶい黄橙シルト粒・炭化物粒を微量含む。
2　10YR3/4暗褐色砂質土　粘性弱く，しまりやや弱い。にぶい黄橙色シルト粒・ブロックを多量，炭化物粒を微量含む。
3　7.5YR3/2黒褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。にぶい黄橙色シルト粒・炭化物粒を微量含む。
4　10YR3/2黒褐色砂質土　粘性・しまり弱い。炭化物粒を少量，にぶい黄橙色シルト粒を微量含む。
5　7.5YR3/4暗褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。にぶい黄橙色シルト粒・炭化物粒を少量含む。
6　7.5YR2/3極暗褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。炭化物粒を少量，にぶい黄橙色シルト粒を微量含む。
7　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土　粘性やや弱く，しまり弱い。にぶい黄橙色シルト粒をやや多く含む。
8　7.5YR4/4褐色砂質土　粘性弱く，しまりやや弱い。にぶい黄橙色シルト粒・ブロックをやや多く含む。
9　10YR3/4暗褐色砂質土　粘性・しまり弱い。にぶい黄橙色シルト粒をやや多く，炭化物粒を微量含む。
10　10YR3/3暗褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。にぶい黄橙色シルト粒を少量含む。
11　7.5YR3/2黒褐色砂質土　粘性・しまり弱い。炭化物粒をやや多く含む。
12　10YR2/3黒褐色混砂土　粘性・しまり弱い。にぶい黄橙色シルト粒を少量，炭化物粒を微量含む。
13　10YR3/2。黒褐色混砂土　粘性弱く，しまりやや弱いい黄橙色シルト粒をやや多く，炭化物粒を微量含む。
14　10YR3/3暗褐色混砂土　粘性ややあり，しまりやや弱い。にぶい黄橙色シルト粒をやや多く，炭化物粒を少量含む。
15　10YR3/4暗褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。
16　10YR4/4褐色混土砂　粘性・しまり弱い。褐色土粒をやや多く含む。





第19図　1号井戸と出土遺物



1号土坑

1　10YR2/3 黒褐色砂質土　粘性弱く，しまりやや弱い。炭化物粒を多量，にぶい黄褐色シルト粒を少量含む。

2　7.5YR3/4暗褐色混砂土　粘性・しまり弱い。にぶい黄褐色シルト粒・ブロックを少量，炭化物粒を微量含む。

3　7.5YR4/4褐色混砂土　粘性・しまり弱い。にぶい黄褐色シルト粒を少量含む。

4　7.5YR2/2黒褐色土　粘性・しまりやや弱い。にぶい黄褐色シルト粒・炭化物粒を少量含む。

5　10YR3/3暗褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。にぶい黄褐色シルト粒を多量，炭化物粒を微量含む。

2号土坑

1　10YR2/3 黒褐色土　粘性・しまりややあり。黄褐色シルト粒を少量含む。

2　10YR3/3 暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒を微量含む。

3　7.5YR3/3 暗褐色混砂土　粘性・しまりやや弱い。暗褐色土（2層）と黄褐色シルト（地山）の混合層。

3号土坑

1　7.5YR2/3 極暗褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。黄褐色シルト粒・炭化物粒を少量，焼土粒を微量含む。

2　10YR3/2 黒褐色土　粘性ややあり，しまりやや弱い。黄褐色シルト粒を多量，焼土粒を少量含む。底面が部分的に赤色化している。

0　(1／40)　2m

1号　1

3号　2

0　(1／3)　10cm

第20図　1～3号土坑と出土遺物

2号土坑は，Ee5-3グリッドに位置する。北側の調査区外に広がるため，全体の規模は不明である。確認できた規模は，南北方向に50cm，東西方向に74cmで，確認面から底面までの深さは30cmである。断面は箱形，底面はほぼ平坦で，埋土は3層に分けられる。遺物は，1層から古代の須恵器が1点出土しているが，小片のため図化していない。

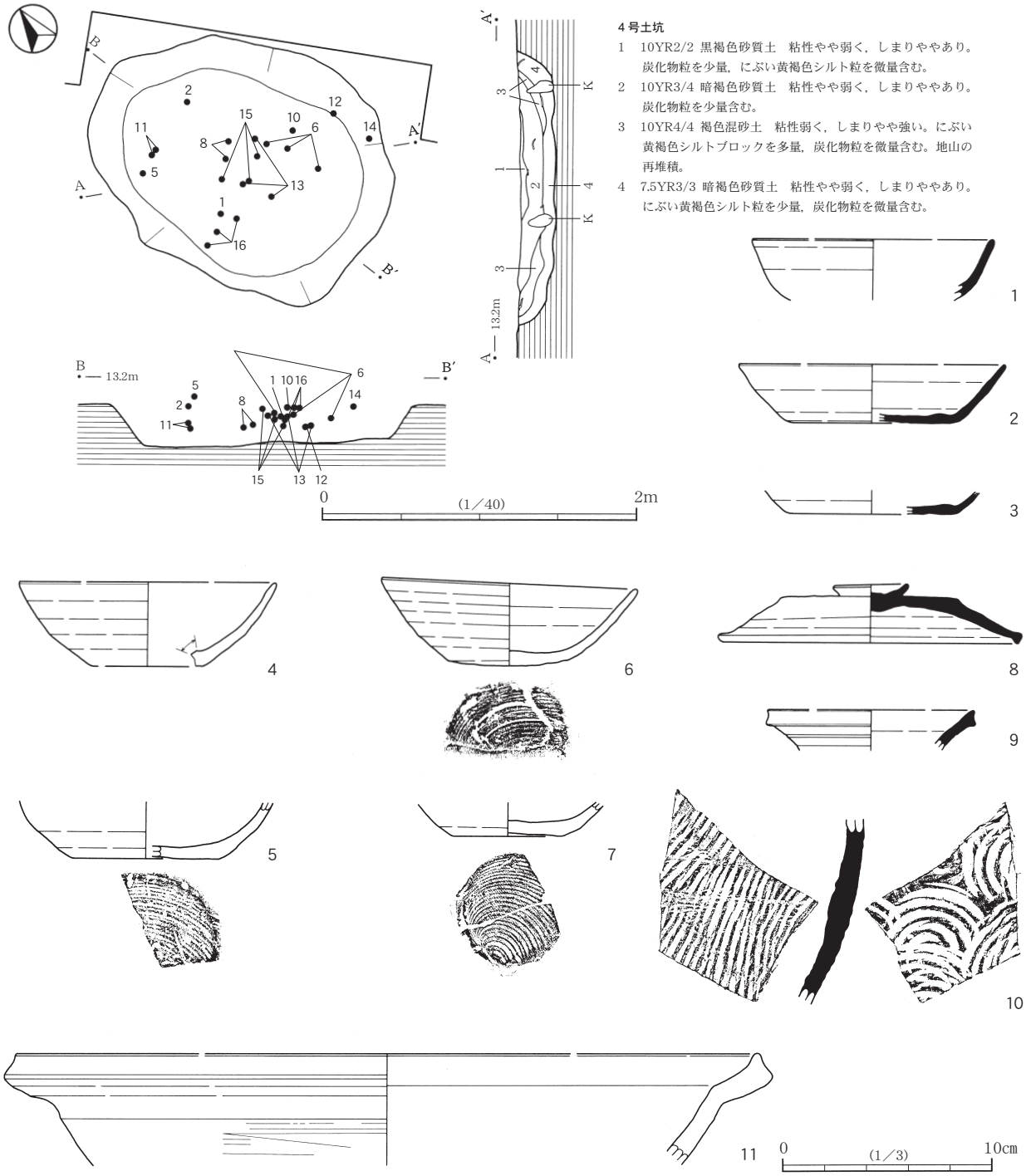
3号土坑は，Fe1-3～Fe2-3グリッドに位置する。北側の調査区外に広がるため，全体の規模は不明であるが，平面は隅丸長方形と推定される。確認できた規模は，長軸が280cm，短軸が40cmで，確認面から底面までの深さは35cmである。断面は逆台形で，底面は平坦である。埋土に焼土粒が含まれ，底面の一部が赤色化していることから，燃焼行為があったと推定される。遺物は，下層から古代の須恵器・土師器がわずかに出土している。

４号土坑（第21・22図，図版４・８）

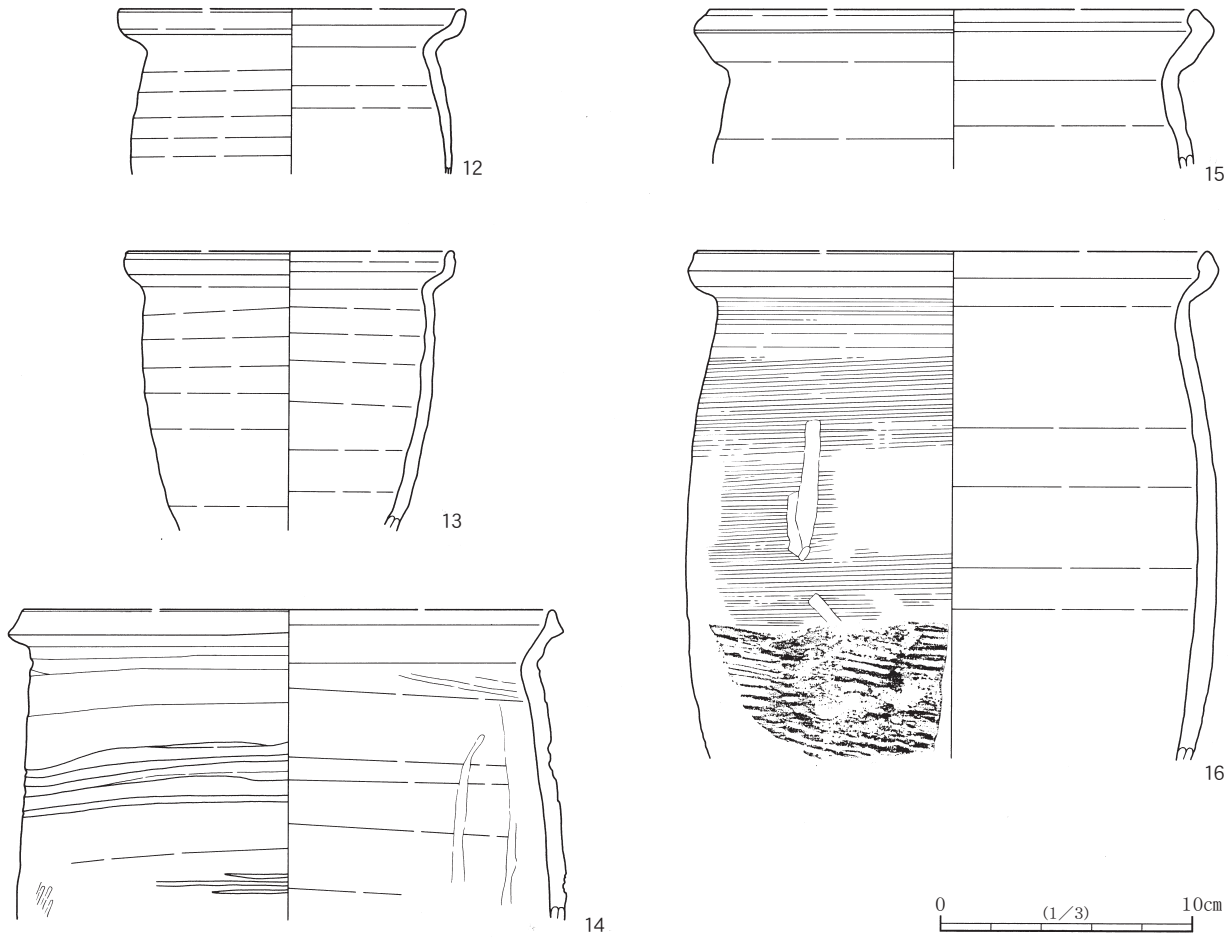
Ie2-4～Ie3-5グリッドに位置する。平面は楕円形で，長軸は195㎝，短軸は155㎝，確認面から底面までの深さは22～27㎝とやや浅い。断面は逆台形，底面は平坦で，埋土は４層に分けられる。遺物は，１～４層から古代の須恵器・土師器が出土しており，特に２層からの出土が目立つ。出土量は多く，土師器が主体的である。

５号土坑（第23図，図版４・９）

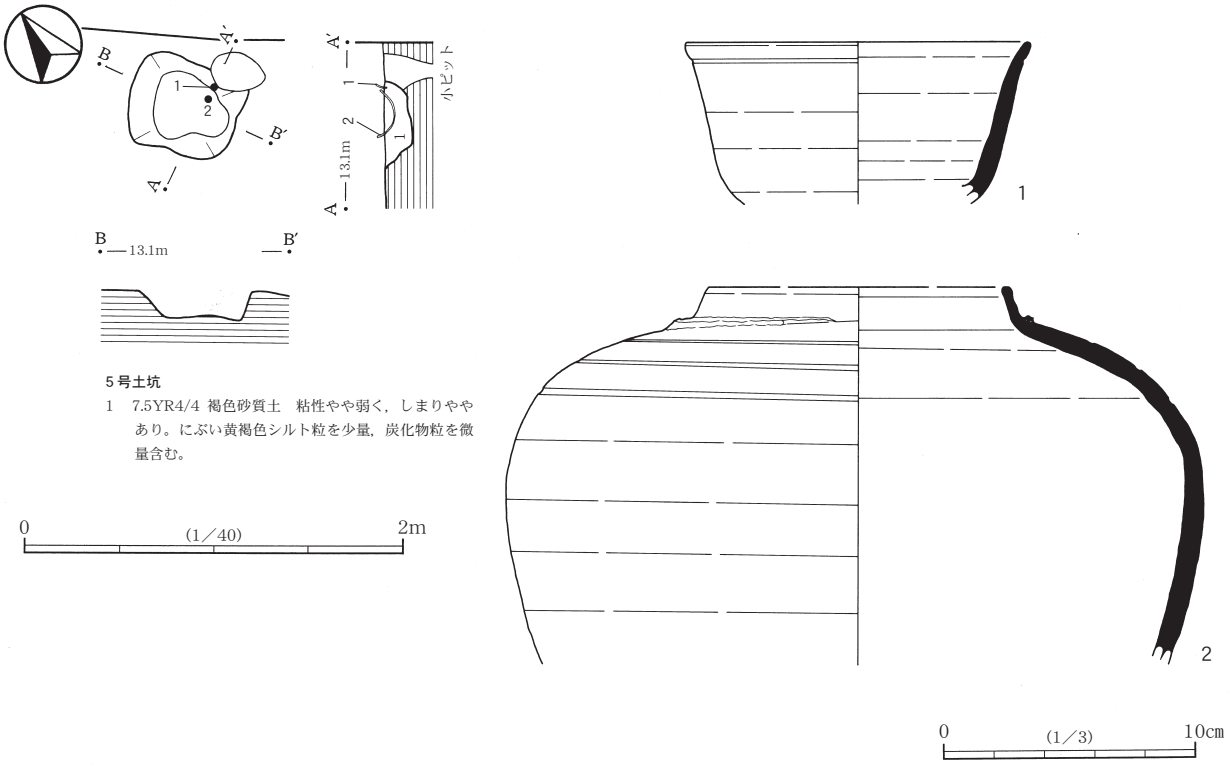
Ge5-4～He1-4グリッドに位置する。平面は隅丸の方形で，長軸は60㎝，短軸は47㎝と規模がやや小さい。確認面から底面までの深さは14㎝と浅く，断面は逆台形である。底面は平坦で，埋土は単層である。一部を小ピットによって壊されている。遺物は，古代の須恵器が出土している。



第21図　４号土坑と出土遺物（１）



第22図　４号土坑の出土遺物（２）

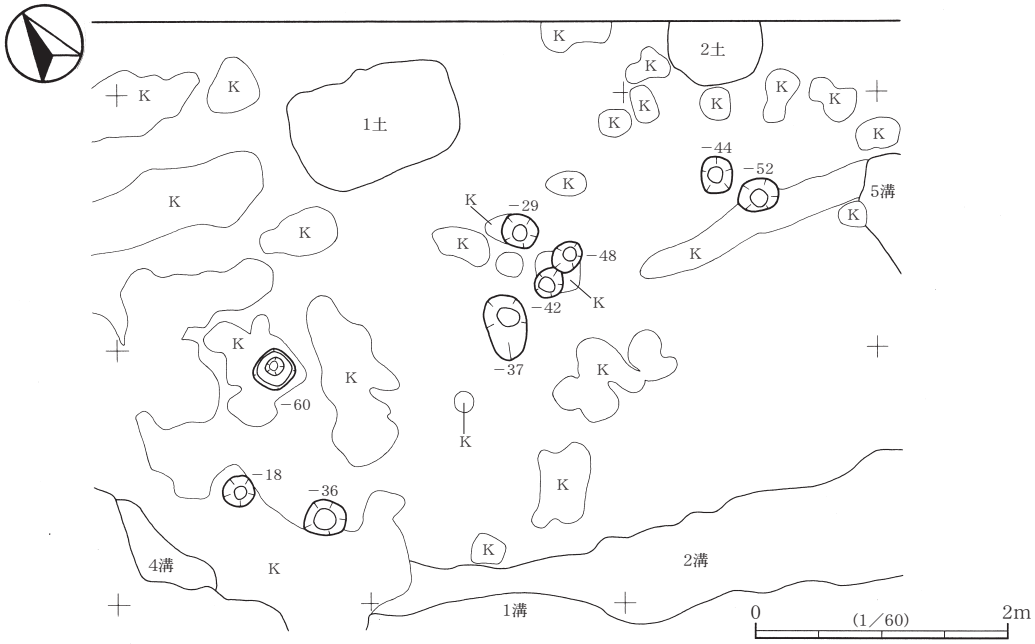


第23図　５号土坑と出土遺物

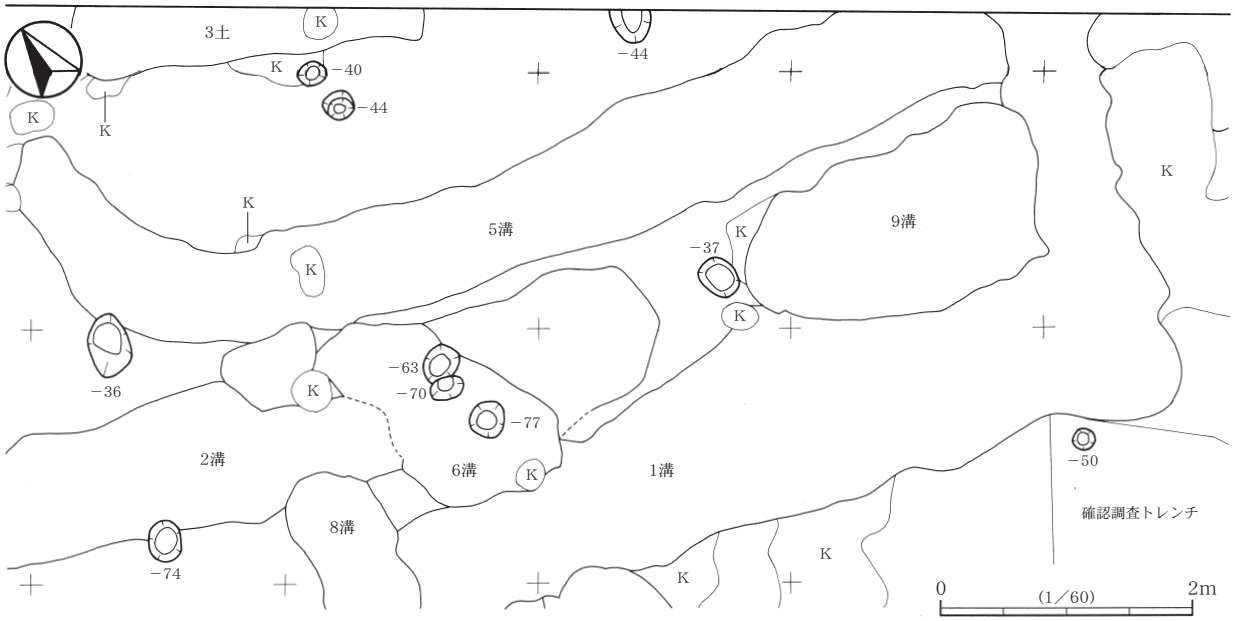
3　小ピット

Ee・Fe・He～Hf・Jf～Jgグリッドに，比較的まとまって位置する。確認面から底面までの深さは14～88㎝で，それぞれの深さについては，遺構実測図の脇に数字で記した（第25～29図）。

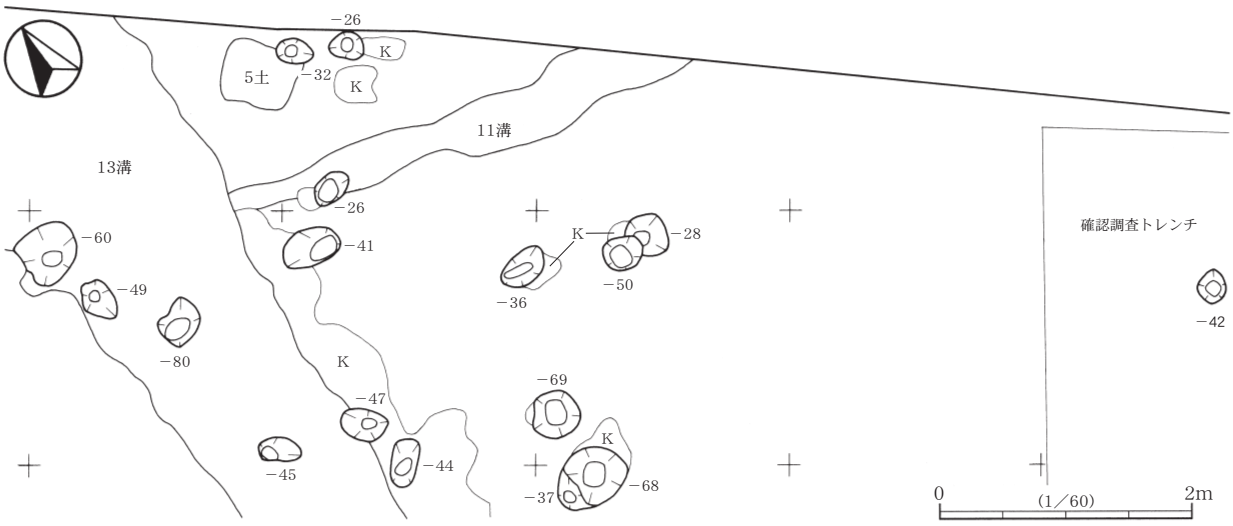
これらの小ピットは，現場の調査中および整理作業時に，平面の規模や配列，底面の標高などを検討したが，規則性を確認できず，掘立柱建物や柱穴列といった遺構を想定するには至らなかった。出土遺物は，古代の須恵器・土師器が中心で，黒色土器もわずかに含まれる。なお，Hf3-4グリッドの小ピットから縄文土器の小片が少量出土しているが，混入によるものと考えられる。以上のことから，これらの遺構は古代の所産と推定される。



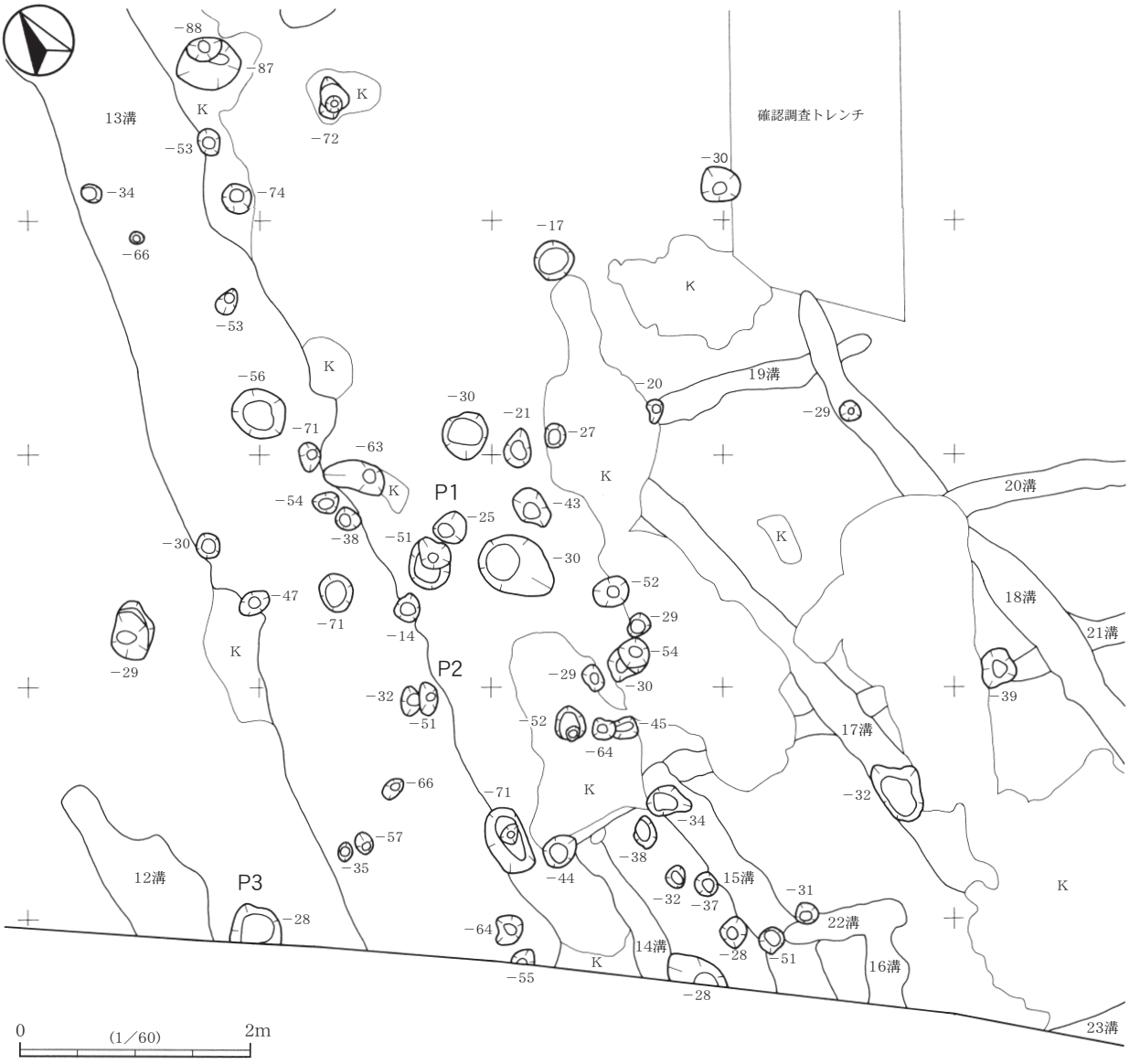
第24図　小ピット（Eeグリッド）



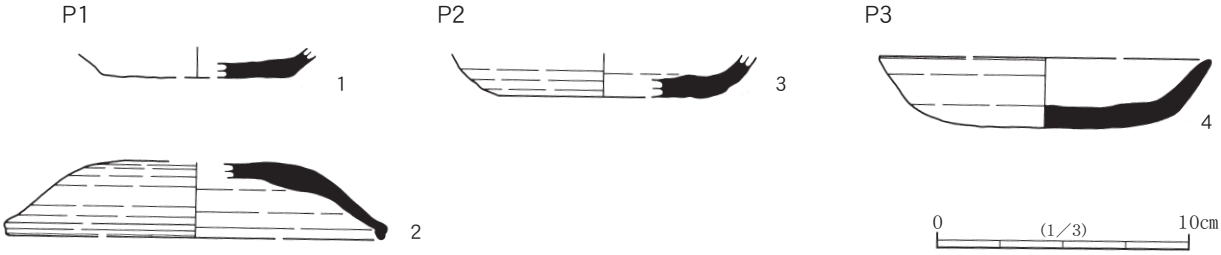
第25図　小ピット（Feグリッド）



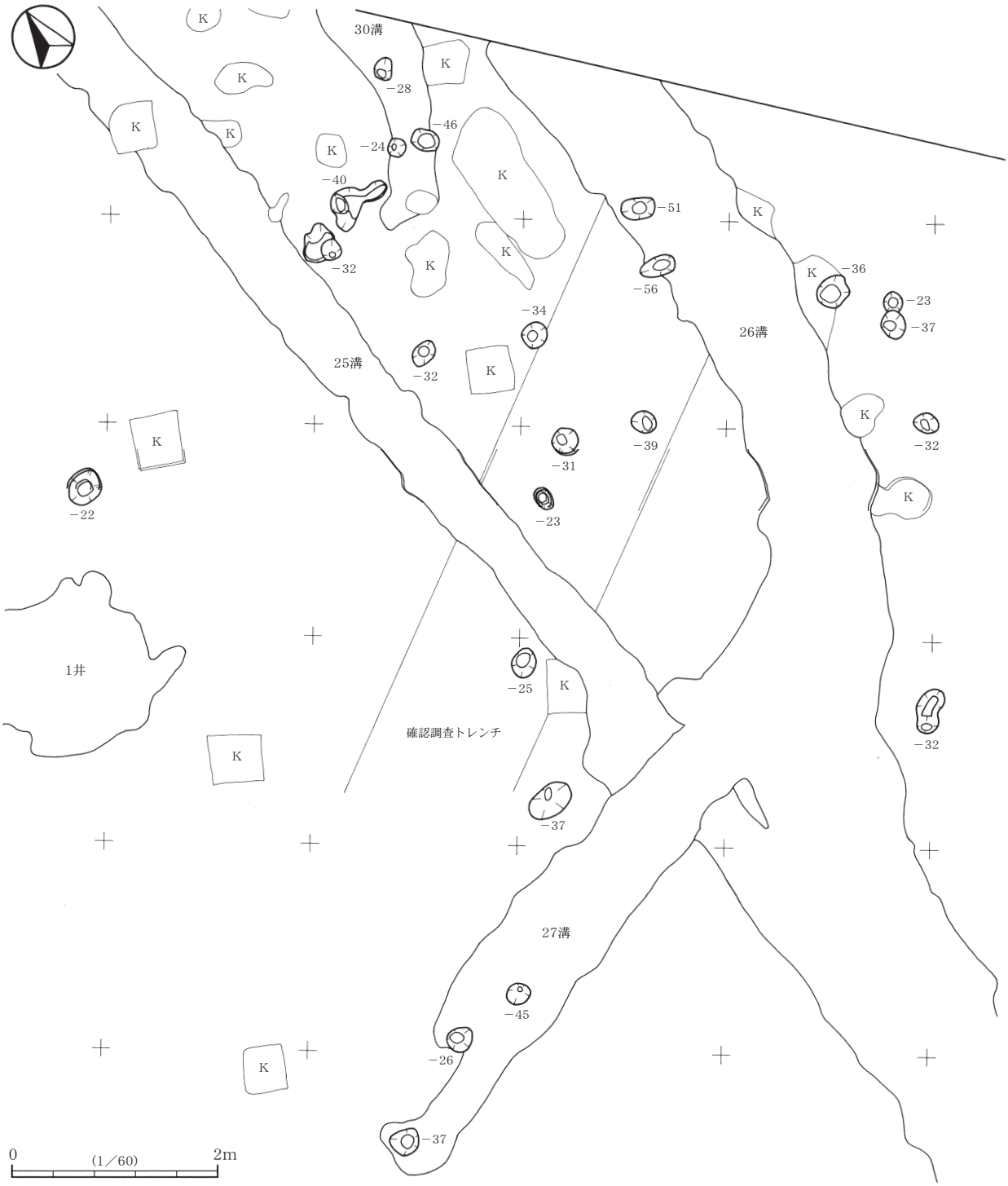
第26図　小ピット（Ge・Heグリッド）



第27図　小ピット（Hfグリッド）



第28図　小ピット（Hfグリッド）の出土遺物



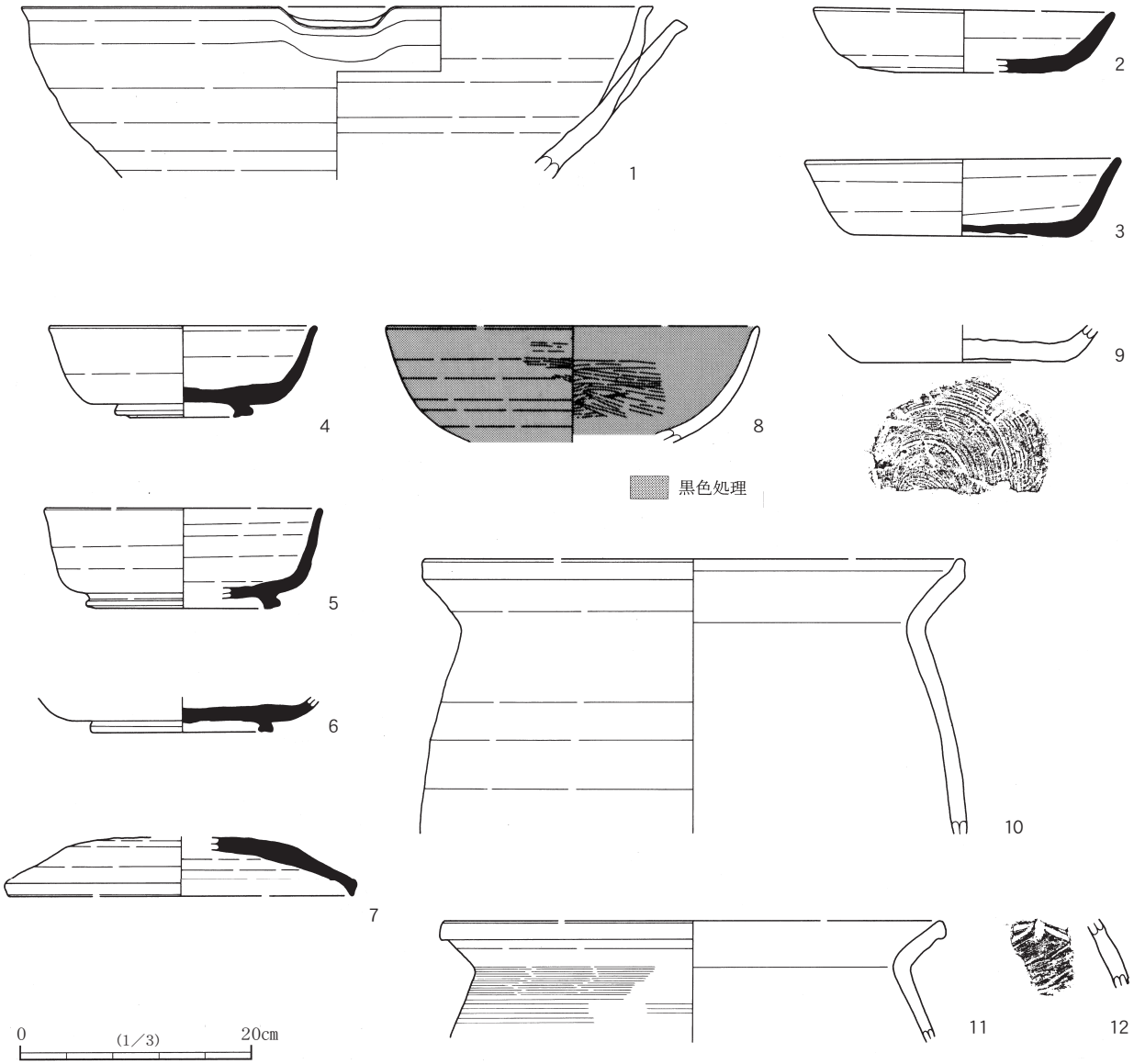
第29図　小ピット（Jf・Jgグリッド）

4　遺構外・攪乱出土遺物

遺構外では，Ｉ層の表土から，中世，古代および縄文時代の遺物が出土している。中世の遺物は，白磁が３点，青磁が１点，珠洲が１点で，その出土量はごくわずかである。磁器は小片のため図化せず，珠洲だけを図化した。

古代の遺物は須恵器と土師器で，比較的多く出土している。須恵器は，甕と坏が主体で，長頸瓶や横瓶もわずかに認められる。Ｃ・Ｅ・Ｆグリッドからの出土が多く，Ｉ・Ｋ・Ｌグリッドからの出土はわずかである。６点を図化した。土師器は，甕が中心で，坏も認められる。Ｇ・Ｈグリッドからの出土が多く，Ｋ・Ｌグリッドからはほとんど出土していない。４点を図化した。

縄文時代の遺物は，深鉢もしくは甕と推定される小片が出土している。いずれも晩期に該当する。１点を図化した。その他に，図化していないが，鉄滓が170.1ｇ出土している。



第30図　遺構外・攪乱の出土遺物

第Ⅲ章　放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

測定対象試料は，1号土坑と1号井戸から出土した木炭5点である（表１）。1号土坑の試料No.1・2が出土した埋土4層は，土坑の底面直上に堆積している。遺構の時期は，出土陶器から12世紀後半と推定される。1号井戸の試料は，No.3が上位埋土の4層，No.4・5が中位埋土の11層から出土した。遺構から出土した土器の年代は８世紀末～9世紀前半と推定される。

2　測定の意義

遺構の年代を明らかにする。

3　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い，根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後，超純水で中性になるまで希釈し，乾燥させる。AAA処理における酸処理では，通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い，0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」，1M未満の場合は「AaA」と表１に記載する。

（３）試料を燃焼させ，二酸化炭素（CO2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を，鉄を触媒として水素で還元し，グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径1㎜のカソードにハンドプレス機で詰め，それをホイールにはめ込み，測定装置に装着する。

4　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し，^{14}Cの計数，^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C），14C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では，米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

（１）δ^{13}Cは，試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定して，基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い，表中に「AMS」と注記する。

（２）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は，過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され，1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出にはLibbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表１に，補正していない値を参考値として表２に示した。^{14}C年代と誤差は，下1桁を丸めて10年単位で表示される。また，^{14}C年代の誤差（±1σ）は，試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを示す。

（３）pMC（percent Modern Carbon）は，標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが

少ない）ほど古い年代を示し，pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cにより補正する必要があるため，補正した値を表１に，補正していない値を参考値として表２に示した。

（４）暦年較正年代とは，年代が既知の試料の^{14}C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ，過去の^{14}C濃度変化などを補正し，実年代に近づけた値である。暦年較正年代は，^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり，１標準偏差（1σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（2σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代，横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は，δ^{13}C補正を行い，下1桁を丸めない^{14}C年代値である。なお，較正曲線および較正プログラムは，データの蓄積によって更新される。また，プログラムの種類によっても結果が異なるため，年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは，暦年較正年代の計算に，IntCal13データベース（Reimer et al. 2013）を用い，OxCalv4.2較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については，特定のデータベース，プログラムに依存する点を考慮し，プログラムに入力する値とともに参考値として表２に示した。暦年較正年代は，^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

6　測定結果

測定結果を表１・２に示す。試料の^{14}C年代は，1号土坑出土のNo.1・2，1号井戸出土のNo.3～5の各々の間で見ると，誤差（±1σ）の範囲で一致している。

暦年較正年代（1σ）は，1号土坑出土のNo.1が1039～1151cal AD，No.2が1043～1154cal ADの間に各々3つの範囲で示され，推定される遺構の時期より若干古い値である。1号井戸出土試料は，No.3が1170～1222cal ADの間に2つの範囲，No.4が1166～1207cal ADの範囲，No.5が1192～1250cal ADの間に2つの範囲で示される。いずれも出土土器から推定される遺構の時期より新しいが，測定試料は埋土中位，上位出土であることに注意する必要がある。

試料の炭素含有率はすべて60％を超える十分な値で，化学処理，測定上の問題は認められない。

参考文献

Bronk Ramsey，C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates，Radiocarbon 51(1)，337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves，0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4)，1869-1887

Stuiver，M. and Polach，H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3)，355-363

表１　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C補正値）

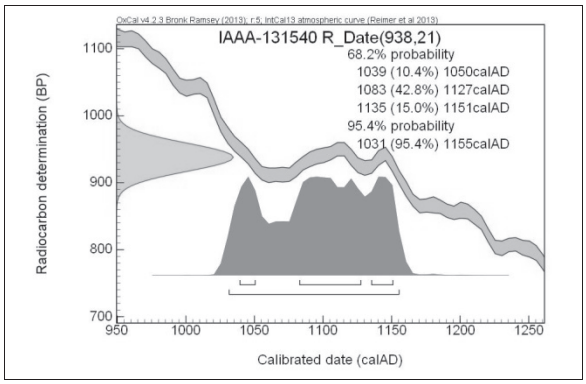
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C (‰) (AMS)	δ^{13}C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC (%)
IAAA-131540	No. 1	1 号土坑　埋土 4 層	木炭	AAA	-23.67 ± 0.19	940 ± 20	88.97 ± 0.24
IAAA-131541	No. 2	1 号土坑　埋土 4 層	木炭	AAA	-30.18 ± 0.19	930 ± 20	89.08 ± 0.23
IAAA-131542	No. 3	1 号井戸　埋土 4 層	木炭	AAA	-26.91 ± 0.17	840 ± 20	90.07 ± 0.23
IAAA-131543	No. 4	1 号井戸　埋土 11 層	木炭	AAA	-25.55 ± 0.19	860 ± 20	89.81 ± 0.22
IAAA-131544	No. 5	1 号井戸　埋土 11 層	木炭	AAA	-28.89 ± 0.23	830 ± 20	90.19 ± 0.23

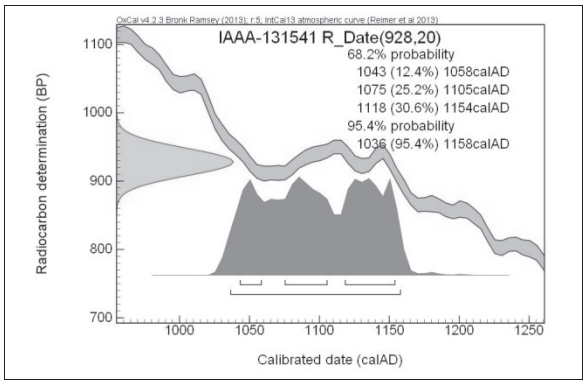
［#6078］

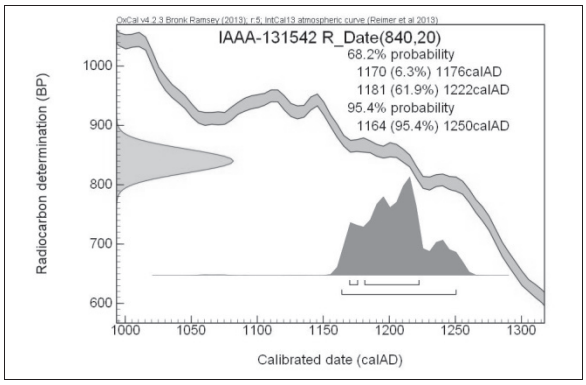
表２　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C未補正値，暦年較正用^{14}C年代，較正年代）

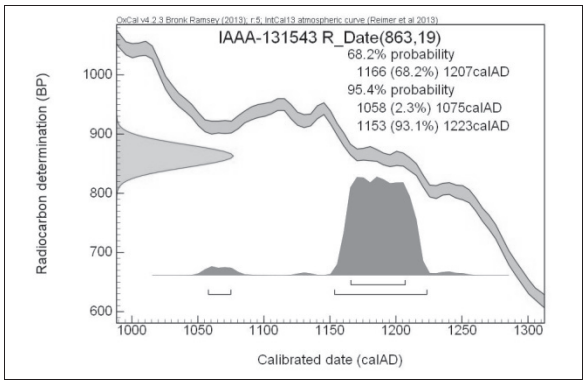
測定番号	δ^{13}C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC （%）			
IAAA-131540	920 ± 20	89.21 ± 0.23	938±21	1039calAD - 1050calAD (10.4%) 1083calAD - 1127calAD (42.8%) 1135calAD - 1151calAD (15.0%)	1031calAD - 1155calAD (95.4%)
IAAA-131541	1,010 ± 20	88.14 ± 0.22	928±20	1043calAD - 1058calAD (12.4%) 1075calAD - 1105calAD (25.2%) 1118calAD - 1154calAD (30.6%)	1036calAD - 1158calAD (95.4%)
IAAA-131542	870 ± 20	89.72 ± 0.23	840±20	1170calAD - 1176calAD (6.3%) 1181calAD - 1222calAD (61.9%)	1164calAD - 1250calAD (95.4%)
IAAA-131543	870 ± 20	89.71 ± 0.22	863±19	1166calAD - 1207calAD (68.2%)	1058calAD - 1075calAD (2.3%) 1153calAD - 1223calAD (93.1%)
IAAA-131544	890 ± 20	89.47 ± 0.22	829±20	1192calAD - 1198calAD (5.8%) 1205calAD - 1250calAD (62.4%)	1170calAD - 1257calAD (95.4%)

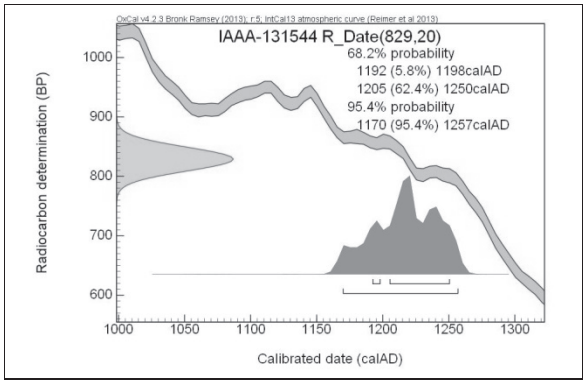
［参考値］











［図版］暦年較正年代グラフ（参考）

第Ⅳ章　まとめ

今回の発掘調査では，古代と中世の二つの時期に該当する遺構を検出することができた。中世に該当する遺構は７号溝・１号井戸・１号土坑で，それ以外の遺構は，古代に該当するものと推定される。ただし，出土遺物のない８・24・30号溝については，時期が不明である。

古代の遺構からは，須恵器の食膳具が比較的出土している。以下，下越須恵器窯跡編年（笹澤 2012）をもとに，これらの資料を位置付けたい。最も古いと想定されるのは，11号溝出土の資料である。山三賀Ⅱ遺跡SI502Bの資料に類例が求められ，１期（８世紀中葉）に比定できる。次いで，３・６・10・23・25・28号溝と５号土坑の資料が３期（８世紀末～９世紀前半）に比定できる。ただし，25号溝の資料は２期（８世紀後半）にまで遡る可能性があり，また，10号溝の資料は３期の新段階に位置付けられる。最も時期が新しいのは，４号土坑出土の資料である。４期（９世紀中葉）の新段階に比定でき，一緒に出土した土師器埦の年代観とも一致する。なお，他に同期の遺構は認められない。

中世の遺構では，７号溝から出土したかわらけが，底部の切り離し技法などから12～13世紀に比定される。同じく出土した白磁の小片についても，おおむね同時期と推定される。１号土坑では，出土した片口鉢が珠洲Ⅰ～Ⅱ期に比定され，放射性炭素年代測定では11世紀～12世紀前半という結果が得られた。１号井戸は，前述のとおり，放射性炭素年代測定によって12世紀後半～13世紀前半という年代が示されている。

以上のことから，ここでは，横堀前遺跡を，８世紀中葉～９世紀中葉と12世紀～13世紀に営まれた集落と考えておきたい。ただし，今回の調査では，建物などを検出しておらず，集落の詳細な内容について明らかにすることはできなかった。調査区が遺跡の縁辺部で，かつ限定的であったため，やむを得ないともいえるが，本遺跡の性格については，今後の調査の進展を待った上で，改めて検討する必要があるといえる。

引用・参考文献

川上貞雄　2000『正尺遺跡・小坂館遺跡・妻ノ神遺跡』豊浦町教育委員会

川上貞雄　1999『志村山須恵窯址』豊浦町教育委員会

国土地理院　1993『1:25,000 土地条件図　新発田』

坂井秀弥ほか　1989『新新バイパス関係発掘調査報告書　山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会

笹澤正史　2012「第Ⅳ章 まとめ　2 遺物の時期的位置付けと特徴」『地蔵潟A遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

関　雅之・本間信昭　1981『真木山製鉄遺跡－新潟県北蒲原郡豊浦町真木山製鉄遺跡の発掘調査報告』豊浦町教育委員会

田中耕作　1998『大真木遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会

津田憲司　2011『太斎館跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

津田憲司　2012『太斎金塚遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

鶴巻康志　1998『市道関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ　山王遺跡第1・2次調査・松橋遺跡・岡塚館跡』新発田市教育委員会

鶴巻康志ほか　2005『荒神裏Ａ遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

戸根与八郎　1986「真木山窯址群」『新潟県史』通史編１ 原始・古代　新潟県

新潟古代土器研究会　2004『越後阿賀北地域の古代土器様相』

吉岡康暢　1994『中世須恵器の研究』 吉川弘文館

渡邊美穂子ほか　2006『荒神裏Ｂ遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

遺物観察表

・計測値の（　）は復元値，＜　＞は残存値を表す。
・珠洲の編年は，吉岡1994を参照。

出土地点	番号	種別	計測値（cm）	色調・焼成・胎土	調整・技法ほか	グリッド・層位	備考
確認調査 （第３図） （図版５）	1	須恵器 長頸瓶	底径:(10.1) 器高:〈7.2〉	外面は暗灰色，内面は灰色。焼成堅緻。白色粒をやや多く含む。	ロクロ成形。高台は貼り付け。外面は胴部と高台の境に沈線が１条巡る。		胴下部～底部1/5遺存。
	2	土師器 有台皿	底径: 5.8 器高:〈2.4〉	にぶい橙色。焼成良好。雲母・赤褐色粒を多量，石英・長石を少量含む。	柱状の平高台。底部は回転糸切り。		底部遺存。
	3	石製品 砥石	長さ:〈7.9〉 幅　: 6.2 厚さ: 0.9	材質:頁岩 重さ:77.9g	表裏面・左側面に研磨痕。 中砥。		

出土地点	番号	種別	計測値（cm）	色調・焼成・胎土	調整・技法ほか	グリッド・層位	備考
１号溝 （第７図） （図版５）	1	須恵器系陶器 片口鉢	口径:(25.6) 底径: (8.4) 器高: 10.8	灰色。焼成堅緻。白色粒をやや多く含む。	擂り目は浅い。一単位は5条以上で，一部は弧状に掻き上げる。底部は静止糸切り。	De3-5・1層 (D-D´), Ee1-5・Ⅰ層。	1/12遺在。 在地産。 13Ｃ前半。
	2	珠洲 片口鉢	底径:(9.5) 器高:〈2.9〉	灰黄色。焼成良好。白色針状物・白色粒を少量，長石を微量含む。	底部は静止糸切り。内面は磨滅している。	Ce5-5・1層 (B-B´)。	底部1/3遺存。 Ⅱ～Ⅲ期か。 13Ｃ。
	3	土師質土器 かわらけ	底径:(4.6) 器高:〈1.5〉	橙色。焼成良好。石英・長石をやや多く，微小の雲母を少量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Ee1-5・1層 (D-D´)。	体～底部1/3遺存。 13Ｃ後半～14Ｃ。
	4	土師質土器 かわらけ	器高:〈1.8〉	橙色。焼成良好。石英をやや多く，長石・微小な雲母・白色粒を微量含む。	ロクロ成形。底部は回転糸切り。	De3-5・2層 (D-D´)。	底部破片。 13Ｃ。
	5	土師質土器 かわらけ	口径:(7.2) 底径: 5.0 器高: 1.4	外面は明褐色，内面は灰黄褐色。焼成良好。石英をやや多く，長石を微量含む。	ロクロ成形。底部は回転糸切り。体部下端に強い回転ナデ。	Fe5-5 (J-J´)。	2/3遺存。 13Ｃ。
	6	土師質土器 かわらけ	底径:(4.0) 器高:〈1.9〉	明褐色。焼成良好。石英を多量，赤褐色粒を微量含む。	ロクロ成形。底部は回転糸切り。	Fe5-4・2層 (J-J´)。	体～底部1/3遺存。 13Ｃ。
	7	須恵器 無台坏	底径:(9.8) 器高:〈1.9〉	灰オリーブ色。焼成良好。胎土はやや疎。石英・長石を多量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Ff2-1・1層 (G-G´)。	底部1/4遺存。 阿賀北産。
	8	須恵器 有台坏	底径:(7.4) 器高:〈1.8〉	灰白色。内面に自然釉。焼成良好。胎土はやや疎。石英・長石をやや多く含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。高台は貼り付け後に回転ナデ。	Fe4-5・2層 (J-J´)。	底部1/3遺存。 阿賀北産。
	9	須恵器 有台坏	底径:(8.4) 器高:〈1.6〉	灰黄色。焼成良好。胎土はやや疎。石英・長石をやや多く含む。	ロクロ成形。高台は貼り付け後に回転ナデ。	Ee2-5・3層 (E-E´)。	底部1/5遺存。 阿賀北産。
	10	須恵器 有台坏	底径:(7.6) 器高:〈1.1〉	灰色。焼成堅緻。石英・長石を少量含む。	ロクロ成形。高台は貼り付け後に回転ナデ。	Ff2-1・1層 (G-G´)。	底部1/5遺存。
	11	須恵器 坏蓋	摘径: 3.2 器高:〈1.5〉	灰オリーブ色。焼成堅緻。長石は多量で大粒が目立つ。石英を少量含む。	ロクロ成形。摘みは上面が凹み，中央が明瞭に高まる。	De3-5・1層 (D-D´)。	摘み部遺存。 阿賀北産。
	12	須恵器 坏蓋	摘径: 2.6 器高:〈2.8〉	灰白色。焼成良好。石英を多量，長石をやや多く含む。	ロクロ成形。天井部は回転ナデ。摘みは上面が平坦気味で，中央が高まる。	De5-5・1層 (D-D´), Ef5-1・1層 (G-G´)。	1/3遺存。 阿賀北産。
	13	須恵器 甕	口径:(24.6) 器高:〈8.6〉	灰～灰オリーブ色。外面に自然釉。焼成堅緻。石英・長石を少量含む。	外面は口縁部を平行タタキ後に回転ナデ，肩部はカキメ後に平行タタキ。内面は口縁部を回転ナデ，肩部は同心円の当て具痕。	Ce1-5・1層， Ce5-5・1層 (B-B´)。	口縁～肩部1/4遺存。
	14	須恵器 長頸瓶	器高:〈4.8〉	灰色。外面肩部に自然釉。焼成堅緻。長石を少量，石英を微量含む。黒色の小斑点が目立つ。	ロクロ成形。外面の肩部に沈線が1条巡る。	Ee3-5・1層， Ef3-1・2層 (E-E´)。	胴部破片。
	15	土師器 小型甕	底径:(7.6) 器高:〈3.8〉	橙色。焼成良好。石英・長石を多量，赤褐色粒を微量含む。	ロクロ成形。外面は器面が荒れており調整不明瞭。	Fe4-5・3層 (J-J´)。	胴下部～底部1/6遺存。
	16	製鉄関連遺物 椀形滓	長さ:6.9 幅　:8.4	最大厚:3.5 重さ　:175.4g		Fe4-5・2層 (J-J´)。	
	17	製鉄関連遺物 椀形滓	長さ:4.9 幅　:5.3	最大厚:2.6 重さ　:74.7g		Fe5-5・3層 (J-J´)。	
３号溝 （第10図） （図版５）	1	須恵器 無台坏	口径:(13.3) 底径: (9.4) 器高: 3.3	灰オリーブ色。焼成良好。胎土はやや疎。長石は多量で大粒が目立つ。石英を少量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Df2-2・1層 (B-B´)。	1/3遺存。 阿賀北産。
	2	須恵器 坏蓋	口径:(17.9) 器高:〈3.1〉	灰色。焼成堅緻。長石を多量，石英を少量含む。	ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリで，体部との境に沈線が1条巡る。	Cf5-2・1層 (B-B´)。	1/5遺存。 阿賀北産。

出土地点	番号	種別	計測値（cm）	色調・焼成・胎土	調整・技法ほか	グリッド・層位	備考
３号溝 （第10図） （図版5・6）	3	須恵器 甕	口縁部破片	青灰色。焼成堅緻。胎土は灰褐色。長石を多量に含む。	外面は平行タタキの後に回転ナデ。内面は横ナデ。	Cf1-3・4層 (B-B´)。	
	4	須恵器 甕	胴部破片	灰オリーブ色。焼成堅緻。長石・白色粒を微量含む。	外面は平行タタキ。内面は同心円の当て具痕。	Cf1-2・1層 (B-B´)。	
	5	石製品 砥石	長さ:<5.8> 幅　:<3.4> 厚さ:<0.7>	材質:頁岩 重さ:20.9g	表面に研磨痕。仕上げ砥か。	Cf1-2・1層 (B-B´)。	
４号溝 （第９図） （図版６）	1	須恵器 坏	口径:(13.3) 器高: <2.7>	灰オリーブ色。焼成良好。胎土はやや疎。長石を多量，石英をやや多く含む。	ロクロ成形。	Ef3-3・1層。	口縁～体部1/4遺存。 阿賀北産。
	2	須恵器 有台坏	底径: 8.6 器高:<2.5>	灰白色。外面の一部と内面に自然釉。焼成堅緻。石英・長石をやや多く含む。	ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り。体部下端は回転ヘラケズリ。高台は貼り付け後に回転ナデ。	Ef4-3・1層。	底部1/2遺存。 阿賀北産。
５号溝 （第９図）	3	須恵器 無台坏	底径:(8.4) 器高:<1.1>	にぶい赤褐色。焼成堅緻。長石を少量，石英を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Fe3-4・1層 (I-I´)。	底部1/8遺存。
	4	須恵器 甕	胴部破片	灰色。焼成堅緻。白色粒を少量,石英を微量含む。	外面はカキメの後に平行タタキ。内面は同心円の当て具痕。	Fe3-4・1層 (I-I´)。	
６号溝 （第９図） （図版６）	5	須恵器 無台坏	口径:(13.5) 底径: (9.8) 器高:　2.9	灰オリーブ色。焼成良好。胎土はやや疎。石英・長石を多量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Ff4-4・1層 (L-L´)。	1/4遺存。 阿賀北産。
	6	須恵器 有台坏	底径:(7.6) 器高:<2.1>	灰白色。焼成堅緻。石英・長石を含む。	ロクロ成形。高台は貼り付け後に回転ナデ。	Ff3-2・2層 (K-K´)。	底部1/5遺存。 阿賀北産。
	7	須恵器 坏蓋	摘径: 2.8 器高:<1.5>	外面は暗灰黄色，内面はにぶい黄橙色。焼成堅緻。石英・長石を多量含む。	ロクロ成形。摘みは上面が平坦で，中央が高まる。	Ff5-3・1層 (L-L´)。	摘み部遺存。
	8	須恵器 長頸瓶	底径:(10.9) 器高: <4.0>	灰色。焼成堅緻。石英・長石を少量含む。	ロクロ成形。高台は貼り付け。	Ff4-2・2層 (K-K´)。	底部1/8遺存。
	9	須恵器 甕	胴部破片	灰白色。焼成堅緻。長石を少量,白色粒を微量含む。	外面は平行タタキ。内面は同心円の当て具痕。	Ff3-2・2層 (K-K´)。	
７号溝 （第12図） （図版６）	1	土師質土器 かわらけ	口径:(8.6) 底径:(4.6) 器高: 2.3	にぶい橙色。焼成良好。微小の雲母・赤褐色粒をやや多く含む。	ロクロ成形。底部は回転糸切り。	Ge2-4・1層 (B-B´)。	1/3遺存。 12～13Ｃ。
	2	須恵器 無台坏	口径:(12.8) 底径: (9.6) 器高:　2.8	灰白色。焼成堅緻。長石をやや多く，石英・黒色粒を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Ge1-4・1層 (B-B´)。	1/8遺存。 阿賀北産。
	3	須恵器 無台坏	口径:(11.9) 器高: <2.7>	灰色。焼成良好。胎土はやや疎。長石は多量で大粒が目立つ。石英を少量，白色粒を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切りか。	Ff3-4・1層 (D-D´)。	1/8遺存。 阿賀北産。
	4	須恵器 無台坏	底径:(8.2) 器高:<1.8>	灰オリーブ色。焼成良好。胎土はやや疎。長石・石英を多量，白色粒を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Ff・1層。	底部1/4遺存。 阿賀北産。
	5	須恵器 無台坏	底径:(9.8) 器高:<2.9>	灰色。焼成良好。胎土はやや疎。長石を多量，石英をやや多く含む。ともに大粒が目立つ。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Ge2-4・1層 (B-B´)。	体～底部1/4遺存。 阿賀北産。
	6	須恵器 有台坏	底径:(6.2) 器高:<1.5>	灰色。焼成堅緻。長石を多量，石英を微量含む。	ロクロ成形。高台は貼り付け。	Ff5-1。	底部1/8遺存。 阿賀北産。
	7	須恵器 坏蓋	摘径: 3.2 器高:<2.4>	灰色。焼成堅緻。石英・長石をやや多く含む。	ロクロ成形。天井部は回転ナデ。摘みは上面が凹み，中央がやや高まる。	Ff3-4・2層 (D-D´)。	1/3遺存。 阿賀北産。
	8	須恵器 横瓶	口縁部破片	灰オリーブ色。内外面に自然釉。焼成堅緻。石英を多量，長石をやや多く含む。	内面は肩部に同心円の当て具痕。	Ff5-1・1層 (B-B´)。	
	9	須恵器 甕	胴部破片	暗灰色。焼成堅緻。胎土は灰褐色で密。長石をやや多く，微小な石英を微量含む。	外面は平行タタキ。内面は平行の当て具痕。	Ge1-4・2層 (B-B´)。	
	10	製鉄関連遺物 椀形滓	長さ:6.3 幅　:7.2	最大厚:2.8 重さ　:186.0g		Ff5-2・2層 (B-B´)。	
	11	製鉄関連遺物 椀形滓	長さ:5.6 幅　:7.9	最大厚:3.8 重さ　:201.5g		Ge1-5・1層 (B-B´)。	
９号溝 （第12図） （図版６）	12	須恵器 有台坏	底径:(8.2) 器高:<2.4>	濃灰色。焼成良好。胎土はやや疎。長石を多量，石英をやや多く含む。	ロクロ成形。高台は貼り付け後に回転ナデで，底面に擦れ。	Fe5-4。	体～底部1/5遺存。 阿賀北産。
	13	須恵器 坏蓋	摘径: 3.1 器高:<1.5>	外面は灰オリーブ色で自然釉，内面は灰白色。焼成良好。石英を微量含む。	摘みは上面周縁が平坦で，中央が高まる。	Ge1-4・1層 (E-E´)。	摘み部遺存。
	14	須恵器 甕	胴部破片	灰色。焼成良好。胎土はやや疎。石英・長石を微量含む。	外面は平行タタキ。内面は平行当て具痕。	Ge1-4・3層 (E-E´)。	

出土地点	番号	種別	計測値（cm）	色調・焼成・胎土	調整・技法ほか	グリッド・層位	備考
10号溝 （第12図） （図版６）	15	須恵器 無台坏	口径:(13.0) 底径:（8.1） 器高:　2.4	灰色。焼成良好。胎土やや疎。長石は多量で大粒が目立つ。石英を少量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Gf2-1・2層。	1/4遺存。 阿賀北産。
	16	須恵器 甕	胴部破片	外面は暗オリーブ色で自然釉，内面は灰色。焼成堅緻。胎土は灰褐色で密。石英・長石を少量含む。	外面は平行タタキ。内面は同心円の当て具痕。	Gf2-1・2層。	
11号溝 （第14図）	1	須恵器 無台坏	口径:(11.6) 底径:（7.6） 器高:　3.5	灰色。焼成堅緻。器面は滑らか。長石をやや多く，石英を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	He1-4・1層。	1/8遺存。
	2	須恵器 坏蓋	摘径: 2.7 器高:〈1.4〉	灰白色。焼成堅緻。石英を多量，長石を少量，白色粒を微量含む。黒色の小斑点が目立つ。	摘みは上面がほぼ平坦。	He2-4・1層。	摘み部遺存。
13号溝 （第14図） （図版6・7）	3	須恵器 坏	口径:(12.1) 器高:〈3.2〉	灰オリーブ色。焼成良好。器面は滑らか。石英・長石をやや多く含む。	ロクロ成形。	HF1-1・1層。	口縁～体部1/5遺存。
	4	須恵器 無台坏	底径:(8.6) 器高:〈1.3〉	灰黄色。焼成良好。石英・長石・白色粒・にぶい橙色粒を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切りで，外面に浅い線刻「一」，内面に擦れ。	HF2-3・2層。	底部1/4遺存。
	5	須恵器 折縁坏	口径:(14.5) 底径:（7.1） 器高:　3.2	灰色。外面に火だすき。焼成堅緻。胎土は灰褐色で密。石英・長石をやや多く含む。	ロクロ成形。口縁部の摘み上げは短いがシャープで明瞭。高台は貼り付け。	HF2-4・2層， HF3-3・攪乱。	1/7遺存。
	6	須恵器 折縁坏	口径:(13.8) 器高:〈3.9〉	灰白色。焼成良好だが，やや軟質。器面は滑らか。石英は多量で大粒が目立つ。長石をやや多く含む。	ロクロ成形。口縁部の摘み上げは短い。高台は貼り付け。	Ge5-5・1層。	1/6遺存。 阿賀北産。
	7	須恵器 坏蓋	口径:(15.0) 器高:〈2.2〉	外面は灰オリーブ色で自然釉，内面は灰白色。焼成堅緻。長石を微量含む。	ロクロ成形。天井部はヘラ切り。内面に擦れ。	Hf2-3・6層。	1/8遺存。
	8	須恵器 坏蓋	摘径: 2.7 器高:〈2.2〉	外面は灰色，内面は浅黄色。焼成堅緻。長石は多量で大粒が目立つ。石英を少量含む。	ロクロ成形。天井部は回転ナデ。摘みは上面が凹み，中央がやや高い。	Hf2-2・2層。	1/5遺存。 阿賀北産。
	9	須恵器 甕	胴部破片	外面は濃灰色，内面は灰色。焼成良好。礫を少量，石英・長石・白色粒を微量含む。	外面は平行タタキ。内面は平行の当て具痕の後に同心円の当て具痕。	Ge5-4・2層。	
	10	土師器 甕	口径:(22.4) 器高:〈5.5〉	明黄褐色。焼成良好だが，やや軟質。石英・長石を多量，赤褐色粒・礫を微量含む。	外面は口縁部を横ナデ，胴部は器面が荒れており調整不明瞭。内面は口縁部をハケナデ後に横ナデ。	Ge5-4・2層。	口縁～頸部1/8遺存。
	11	土師器 甕	底径:(8.4) 器高:〈1.5〉	浅黄橙色。焼成やや不良で，軟質。石英・長石・赤褐色粒を多量，礫を微量含む。	ロクロ成形。外面は器面が荒れており調整不明瞭。	Ge5-4・2層。	底部1/3遺存。
	12	縄文土器 深鉢	口縁部破片	灰黄褐色。焼成良好。長石・雲母・赤褐色粒を微量含む。	外面はミガキで，２本の隆線。内面はミガキ。	HF2-4・2層， Hf3-4。	縄文時代晩期末。
	13	縄文土器 深鉢・鉢	体部上位破片	にぶい黄橙色。焼成良好。石英・長石を少量含む。	外面は縄文LRの斜位回転，沈線による工字文で赤彩か。	HF2-4・2層。	縄文時代晩期末。
	14	縄文土器 深鉢・甕	口縁部破片	にぶい黄橙色。焼成良好。胎土は褐灰色。石英・長石をやや多く，礫を微量含む。	外面は縄文LRを磨り消した後，平行沈線文。沈線文の断面は三角形。	HF2-3・2層。	縄文時代晩期末。
	15	縄文土器 甕	肩部破片	橙色。焼成良好。石英・長石を多量，雲母・白色粒・礫を微量含む。	外面は幅広の平行沈線文。	HF2-3・2層。	縄文時代晩期末。
	16	縄文土器 甕	体部上位破片	明黄褐色。焼成良好。石英・長石をやや多く含む。	外面は平行沈線文，斜位の集合沈線文。沈線はともに浅い。	HF2-5・2層。	大洞A2～A´式。 縄文時代晩期末。
18号溝 （第14図）	17	須恵器 坏	口径:(11.5) 器高:〈2.0〉	灰白色。焼成良好。石英・長石をやや多く含む。	ロクロ成形。	If1-5・1層。	口縁部1/5遺存。
23号溝 （第14図） （図版７）	18	須恵器 無台坏	口径:(12.8) 底径:　8.8 器高:　2.9	灰オリーブ色。焼成堅緻。器面は滑らか。微小の白色粒を多量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り(右回転)。	Hf5-5・1層。	1/2遺存。 小泊産。
	19	土師器 小型甕	口径:(11.3) 器高:〈3.7〉	浅黄色。焼成やや不良。石英を多量，長石を少量，雲母を微量含む。	口縁部は内外面をナデで，端部を短く摘み上げる。	Hf5-5・1層。	口縁～胴部上半1/6遺存。
25号溝 （第16図） （図版７）	1	須恵器 無台坏	口径:(13.2) 底径:（8.6） 器高:　3.5	灰～にぶい浅黄色。焼成堅緻。石英・長石は多量で大粒が目立つ。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Kg2-2・1層。	1/3遺存。 阿賀北産。

出土地点	番号	種別	計測値（cm）	色調・焼成・胎土	調整・技法ほか	グリッド・層位	備考
28号溝 （第17図） （図版７）	1	須恵器 無台坏	口径:(12.4) 底径:（7.6） 器高:　3.3	青灰色。焼成堅緻。器面は滑らか。胎土は灰褐色で密。石英・長石をやや多く含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Kg4-3・3層。	1/4遺存。
	2	須恵器 無台坏	口径:(12.8) 底径:（8.2） 器高:　2.7	灰色。焼成良好。胎土はやや疎。石英・長石を多量，白色粒を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Kg4-1・2層， Kg5-2・2層。	1/8遺存。 阿賀北産。
	3	須恵器 無台坏	口径:(12.8) 底径:（8.7） 器高:　3.0	浅黄色。焼成堅緻。微小な雲母を少量，石英・白色粒を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Kg5-1・1層。	1/6遺存。
	4	須恵器 有台坏	口径:12.7 底径:7.7 器高:3.8	灰色。焼成堅緻。長石は多量で大粒が目立つ。石英を多量，白色粒を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り（左回転）。高台は貼り付けで底面に擦れ。	Kg5-2・3層。	4/5遺存。 阿賀北産。
	5	須恵器 有台坏	底径:8.0 器高:〈4.1〉	濃灰色。焼成堅緻。長石は多量で大粒が目立つ。石英をやや多く含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。高台は貼り付け後に回転ナデ。	Kg4-2・3層， Kg3-2・1層， Kg3-3・Ⅰ層。	体～底部2/3遺存。 阿賀北産。
	6	須恵器 有台坏	底径:(6.7) 器高:〈1.7〉	灰オリーブ色。焼成良好。胎土はやや疎。石英・長石を多量含む。	ロクロ成形。高台は貼り付けで，底面に擦れ。底部内面に擦れ。	Lg1-2・1層。	底部1/4遺存。 阿賀北産。
	7	須恵器 折縁坏	口径:(13.2) 底径:　6.9 器高:〈3.8〉	灰～にぶい黄橙色。焼成堅緻。石英・長石をやや多く含む。	ロクロ成形。口縁部の摘み上げは短く弱い。底部はヘラ切り。高台は貼り付け。底部内面に擦れ。	Kg5-2・2層， Kg5-2・3層， Kg5-3・2層。	3/4遺存。 阿賀北産。
	8	須恵器 坏蓋	摘径:2.8 器高:〈1.2〉	灰色。焼成堅緻。長石をやや多く，石英を微量含む。	摘みは上面が凹み，中央がやや高い。	Kg4-2・2層。	摘み部遺存。
	9	須恵器 甕	胴部破片	外面は濃灰色，内面は灰色。焼成堅緻。長石はやや多く，石英を少量含む。	外面は平行タタキ。内面は同心円の当て具痕。	Lg1-1・2層。	
	10	石製品 砥石	長さ:〈8.7〉 幅　:5.0 厚さ:3.9	材質:砂岩 重さ:241.6g	表裏面・左右側面に研磨痕。 中砥。	Kg4-1・1層。	
	11	石製品 砥石	長さ:〈10.4〉 幅　:〈8.6〉 厚さ:　6.4	材質:砂岩 重さ:950.0g	表裏面に研磨痕。 荒砥。	Lg1-1・1層。	
１号井戸 （第19図） （図版7・8）	1	須恵器 無台坏	口径:(11.7) 底径:（7.0） 器高:　3.0	灰色。焼成堅緻。長石を少量，石英を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Jf1-4・6層。	1/8遺存。
	2	須恵器 無台坏	口径:(12.4) 底径:（8.6） 器高:　3.2	灰色。焼成良好。胎土はやや疎。長石を少量，石英を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Jf1-4・2層。	1/8遺存。 阿賀北産。
	3	須恵器 無台坏	底径:(7.0) 器高:〈2.2〉	オリーブ灰色。焼成堅緻。器面は滑らか。胎土は密。長石やや多く，石英を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り（左回転）。	Jf1-4・5層。	体部下半～底部1/2遺存。 小泊産。
	4	須恵器 有台坏	底径:(7.2) 器高:〈2.2〉	灰色。焼成良好。胎土は灰褐色。長石をやや多く，石英を少量含む。	ロクロ成形。高台は貼り付けで，底面に擦れ。	Jf1-4・6層。	体部下半～底部1/8遺存。
	5	須恵器 有台坏	底径:(6.5) 器高:〈1.9〉	灰白色。焼成堅緻。石英を少量，長石を微量含む。	ロクロ成形。高台は貼り付け後に回転ナデ。底部内面に擦れ。	Jf1-4・3層。	体部下半～底部1/8遺存。
	6	須恵器 坏蓋	摘径:3.1 器高:〈1.5〉	灰色。焼成堅緻。長石をやや多く，石英を微量含む。	摘みは上面が凹む。	Jf1-4・6層。	摘み部遺存。
	7	須恵器 坏蓋	口径:(14.2) 器高:〈2.0〉	灰白色。焼成良好。胎土はやや疎。石英を少量，長石・白色粒を微量含む。	ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。	Jf1-4・14層。	1/8遺存。 阿賀北産。
	8	須恵器 長頸瓶	器高:〈9.6〉	灰色。焼成堅緻。長石を微量含む。黒色の小斑点が目立つ。	ロクロ成形。	Jf1-4・1層， Jf1-4・4層。	胴部上半1/8遺存。
	9	須恵器 転用砥石	長さ：8.3 幅　:11.8 最大厚:1.7	灰オリーブ色。焼成堅緻。胎土は灰褐色。長石微量含む。 重さ:167.7g	外面の剥離が著しい台付長頸瓶の破片を砥石に転用。内外面の一部と断面に研磨痕。	Jf2-4・2層。	胴部下半～底部破片。
	10	土師器 小型甕	底径:(6.4) 器高:〈2.0〉	橙色。焼成良好。胎土やや疎。石英を多量，長石を少量含む。	底部は回転糸切り。胴部下端は手持ちヘラケズリ。	Jf1-4・3層。	底部1/5遺存。
	11	製鉄関連遺物 椀形滓	長さ:3.3 幅　:4.6	最大厚:2.1 重さ　:56.0g		Jf1-4・4層。	
	12	製鉄関連遺物 椀形滓	長さ:7.0 幅　:10.8	最大厚:2.9 重さ　:277.9g		Jf1-4・2層。	
１号土坑 （第20図） （図版８）	1	珠洲 片口鉢	口径:(18.2) 器高:〈3.7〉	暗灰色。焼成堅緻。石英・長石・白色針状物・白色粒を微量含む。	ロクロ成形。口縁端部上面に浅く沈線が1条巡る。	Ee4-4・4層。	口縁～体上部1/4遺存。Ⅰ～Ⅱ期。 12C後半～13C前半。
３号土坑 （第20図）	2	須恵器 坏蓋	口径:(15.1) 器高:〈2.5〉	灰色。焼成良好。胎土はやや疎。石英をやや多く，長石を少量含む。	ロクロ成形。天井部は回転ナデか。	Fe1-3・2層。	口縁～体部1/8遺存。 阿賀北産。

出土地点	番号	種別	計測値（cm）	色調・焼成・胎土	調整・技法ほか	グリッド・層位	備考
４号土坑 (第21図) (図版８)	1	須恵器 坏	口径:(11.6) 器高:〈2.9〉	灰色。焼成堅緻。器面は滑らか。胎土は灰褐色で密。長石を微量含む。	ロクロ成形。	Ie2-5・2層。	口縁～体部1/8遺存。
	2	須恵器 無台坏	口径:(12.8) 底径:（8.4） 器高:　2.8	灰オリーブ色。焼成堅緻。胎土は密。微小な雲母・白色粒を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Ie2-5・2層。	1/5遺存。
	3	須恵器 無台坏	底径:(8.2) 器高:〈1.1〉	暗黄灰色。焼成堅緻。胎土は密。微小な長石を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。底部内面に擦れ。	Ie2-5・2層。	体部下端～底部1/6遺存。
	4	土師器 無台埦	口径:(12.3) 底径:（5.3） 器高:　4.0	明黄褐色。焼成良好。石英をやや多く，長石・微小な雲母を微量含む。	ロクロ成形。底部内面の一部に研磨痕あり。	Ie3-5・4層。	1/6遺存。 一部を砥石として使用。
	5	土師器 無台埦	底径:(7.0) 器高:〈2.7〉	にぶい黄橙色。焼成良好。微小な雲母・赤褐色粒を微量含む。	ロクロ成形。底部は回転糸切り。	Ie2-5・2層。	体部下半～底部1/3遺存。
	6	土師器 無台埦	口径:12.2 底径:(5.8) 器高: 3.9	橙色。焼成軟質。微小な雲母をやや多く，石英・長石を少量含む。	ロクロ成形。底部は回転糸切り。	Ie2-5・2層， Ie3-5・2層。	1/2遺存。
	7	土師器 無台埦	底径: 5.4 器高:〈1.6〉	明黄褐色。焼成良好。石英・雲母・赤褐色粒を微量含む。	ロクロ成形。底部は回転糸切り。	Ie2-5・2層。	体部下半～底部遺存。
	8	須恵器 坏蓋	口径:14.5 摘径: 3.6 器高: 2.8	灰オリーブ色。焼成堅緻。長石を少量含む。	ロクロ成形。天井部はヘラ切り。摘みは上面が凹む。	Ie2-5・2層。	3/4遺存。
	9	須恵器 長頸瓶	口径:(9.9) 器高:〈1.9〉	濃灰色。焼成堅緻。胎土は密。	ロクロ成形。口縁部に浅い沈線が３条巡る。側断面の一部に研磨痕あり。	Ie2-5・1層。	口縁部1/8遺存。 一部を砥石として使用。
	10	須恵器 甕	胴部破片	外面は濃灰色で自然釉，内面は灰色。焼成堅緻。胎土は灰褐色で密。長石を微量含む。	外面は平行タタキ。内面は同心円の当て具痕。	Ie2-5・2層。	
	11	土師器 鍋	口径:(35.6) 器高:〈5.3〉	明黄褐色。焼成良好。石英・長石をやや多く，赤褐色粒を少量含む。	ロクロ成形。外面は口縁端部を強い回転ナデ，口縁部は回転ナデ，体部はカキメ。内面は体部の後に口縁部を回転ナデ。	Ie2-5・4層。	口縁～体部上半1/8遺存。
(第22図) (図版８)	12	土師器 小型甕	口径:(13.8) 器高:〈6.5〉	浅黄色。焼成良好。石英・赤褐色粒を少量，長石・礫を微量含む。	ロクロ成形。内面は口縁部を回転ナデ。	Ie3-5・4層。	口縁～胴部上半1/3遺存。
	13	土師器 小型甕	口径:(13.0) 器高:〈11.0〉	橙色。焼成良好。石英・長石を多量，赤褐色粒を微量含む。	ロクロ成形。外面は口縁端部に凹状の浅い沈線が１条巡り，胴部は器面が荒れる。内面は回転ナデ。	Ie2-5・2層。	口縁～胴部上半1/3遺存。
	14	土師器 甕	口径:(21.2) 器高:〈12.2〉	明黄橙色。焼成良好。石英をやや多く，長石・礫を微量含む。	外面は口縁部直下をヘラケズリ，胴部上位に強いヘラナデによる沈線状の段差あり。内面は口縁部の後に胴部を回転ナデ，一部ヘラナデ。	Ie2-5・2層， Ie3-5・3層。	口縁～胴部上半1/2遺存。
	15	土師器 甕	口径:(19.4) 器高:〈6.3〉	橙色・焼成良好。石英を多量，長石を少量含む。	外面は口縁部を回転ナデ，頸部は強い回転ナデで胴部と段差が生じる。内面は回転ナデ。	Ie2-5・2層。	口縁～胴上部1/6遺存。
	16	土師器 甕	口径:(20.5) 器高:〈20.0〉	橙色。焼成良好。石英を多量，長石を少量，白色粒・礫を微量含む。	ロクロ成形。外面は胴部をカキメ後に下部を平行タタキ，一部ヘラナデ状の痕あり。内面は回転ナデ。	Ie2-5・2層。	口縁～胴部1/4遺存。
５号土坑 (第23図) (図版９)	1	須恵器 有台坏	口径:(13.7) 器高:〈6.4〉	外面はオリーブ黒色，内面は灰色。焼成堅緻。長石をやや多く，石英を微量含む。	ロクロ成形。口縁端部は丸みを帯び，直下に沈線が１条巡る。	Gf5-4・1層。	口縁～体部1/2遺存。
	2	須恵器 短頸壺	口径:(12.0) 器高:〈14.9〉	外面は灰オリーブ～灰色で肩部に自然釉，内面は浅黄色。焼成良好。大粒の石英・長石をやや多く，礫を微量含む。	ロクロ成形。外面は肩部に浅い沈線が３条巡る。	Gf5-4・1層。	口縁～胴部上半1/5遺存。
Ｐ１ (第28図) (図版９)	1	須恵器 無台坏	底径:(7.6) 器高:〈1.2〉	浅黄色。焼成堅緻。石英・長石をやや多く含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Hf2-3。	底部1/6遺存。
	2	須恵器 坏蓋	口径:(15.0) 器高:〈3.0〉	灰オリーブ色。焼成良好。長石を多量，石英・白色粒を微量含む。	ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。	Hf2-3。	1/4遺存。
Ｐ２ (第28図)	3	須恵器 無台坏	底径:(8.2) 器高:〈1.6〉	灰～浅黄色。焼成堅緻。長石はやや多く大粒が目立つ。石英・白色粒を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Hf2-3。	底部1/6遺存。
Ｐ３ (第28図) (図版９)	4	須恵器 無台坏	口径:(13.2) 底径:（8.4） 器高:　2.8	外面は灰オリーブ色。内面は灰色。焼成堅緻。石英・長石は多量で大粒が目立つ。	ロクロ成形。底部はヘラ切り後にナデ。一部ハケメあり。	Hf2-5・2層。	1/3遺存。

出土地点	番号	種別	計測値（cm）	色調・焼成・胎土	調整・技法ほか	グリッド・層位	備考
遺構外 ・攪乱 （第30図） （図版6・9）	1	珠洲 片口鉢	口径:(23.7) 器高:〈7.4〉	灰色。焼成堅緻。長石・白色針状物を微量含む。	ロクロ成形。内面の擂り目はない。	Fe3-4・Ⅰ層， Ff4-3・Ⅰ層。	Ⅰ期。 12C後半。
	2	須恵器 無台坏	口径:(13.0) 底径:（9.1） 器高:　2.7	オリーブ灰色。焼成良好。胎土はやや疎。長石は多量で大粒が目立つ。石英を少量含む。	ロクロ成形。底部ヘラ切り。	De1-5・Ⅰ層。	1/3遺存。 阿賀北産。
	3	須恵器 無台坏	口径:13.7 底径: 9.4 器高: 3.3	灰色。焼成堅緻。器面は滑らか。胎土は密。長石をやや多く，石英を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。	Ge5-4・Ⅰ層。	1/2遺存。
	4	須恵器 有台坏	口径:11.6 底径: 6.0 器高: 3.9	外面は灰色。焼成堅緻。長石は多量で大粒が目立つ。石英を少量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。高台は貼り付け後に回転ナデで，底面に擦れ。	He1-4・Ⅰ層。	ほぼ完形。
	5	須恵器 有台坏	口径:(12.0) 底径:（8.4） 器高:　4.3	灰色。焼成堅緻。器面は滑らか。胎土は密。長石を微量含む。	ロクロ成形。高台は貼り付け後に回転ナデで，底面に擦れ。	Hf2-2・Ⅰ層。	1/3遺存。 小泊産。
	6	須恵器 有台坏	底径:(7.8) 器高:〈1.5〉	灰白色。焼成堅緻。石英・長石を微量含む。	ロクロ成形。底部はヘラ切り。高台は貼り付け後に回転ナデ。底部内面に擦れ。	Jf2-4・攪乱。	底部1/2遺存。
	7	須恵器 坏蓋	口径:(15.2) 器高:〈2.6〉	外面は灰白色，内面は灰黄色。焼成堅緻。長石は多量で大粒が目立つ。石英を少量含む。	ロクロ成形。天井部は回転ナデ。	Gf3-4・攪乱。	1/4遺存。
	8	黒色土器 無台埦	口径:(16.1) 器高:〈5.0〉	黒色。焼成良好。長石・白色針状物を微量含む。	ロクロ成形。外面は一部ミガキ。内面は体部をミガキ。	Gf1-3・Ⅰ層。	口縁～体部1/8遺存。
	9	土師器 小型甕	底径:(8.8) 器高:〈1.6〉	明黄褐色。焼成良好。石英・長石を少量含む。	ロクロ成形。底部は回転糸切り。	Cf5-2・Ⅰ層。	底部1/3遺存。
	10	土師器 甕	口径:(23.5) 器高:〈11.8〉	浅黄橙色。焼成良好。石英・長石は多量で大粒が目立つ。赤褐色粒を少量，礫を微量含む。	口縁部は内外面を回転ナデ。胴部は内外面とも器面が荒れており調整不明瞭。	Gf4-3・攪乱。	口縁～胴上部1/6遺存。
	11	土師器 甕	口径:(21.6) 器高:〈5.2〉	浅黄橙色。焼成やや不良。石英を多量，長石・赤褐色粒を少量，礫を微量含む。	ロクロ成形。外面は口縁部を回転ナデ，頸部はカキメ。内面は口縁部を回転ナデ。	Ee1-5・Ⅰ層。	口縁～頸部1/4遺存。
	12	縄文土器 甕	肩部破片	橙色。焼成良好。微小の石英と長石・白色粒を微量含む。	外面は沈線文。	Hf3-4・攪乱。	

遺跡の遠景（北から）

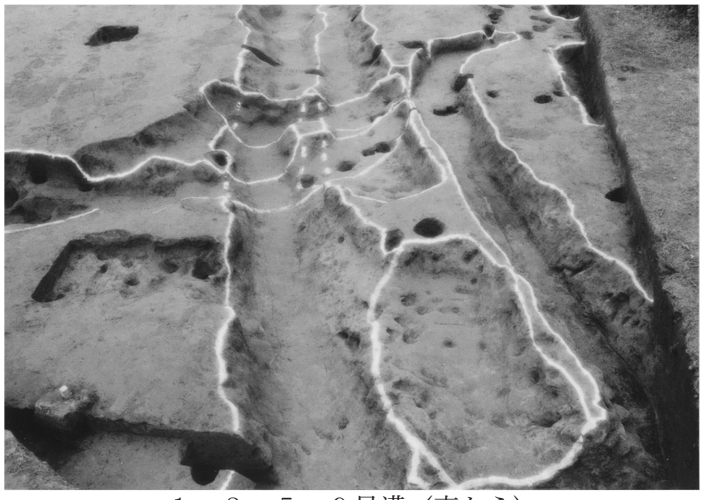
調査区 Ce ～ Ff グリッド
（北西から）

調査区 Ge ～ Lg グリッド
（北西から）

図版２　１～10号溝

１号溝 土層断面（B－B´）（南東から）

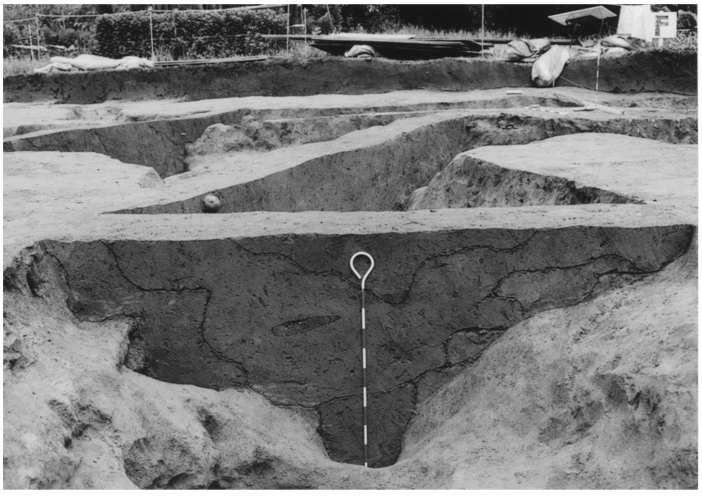
２・５・８号溝 土層断面（北西から）



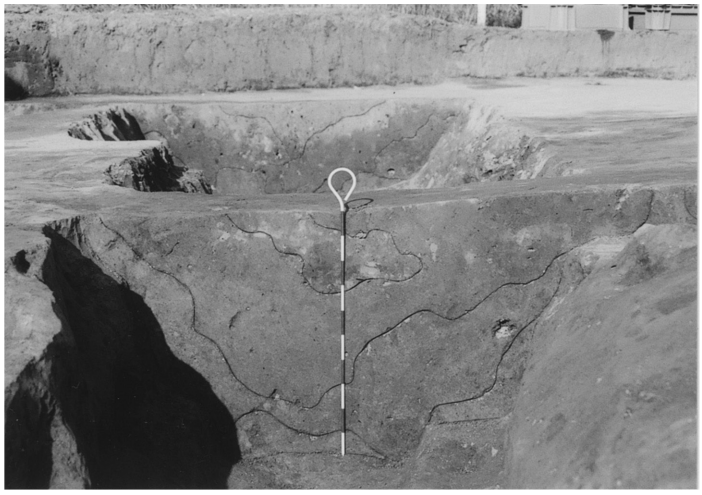
１・２・５・９号溝（東から）

３号溝 土層断面（B－B´）（南東から）

４号溝（北から）



６号溝 土層断面（K－K´）（南から）

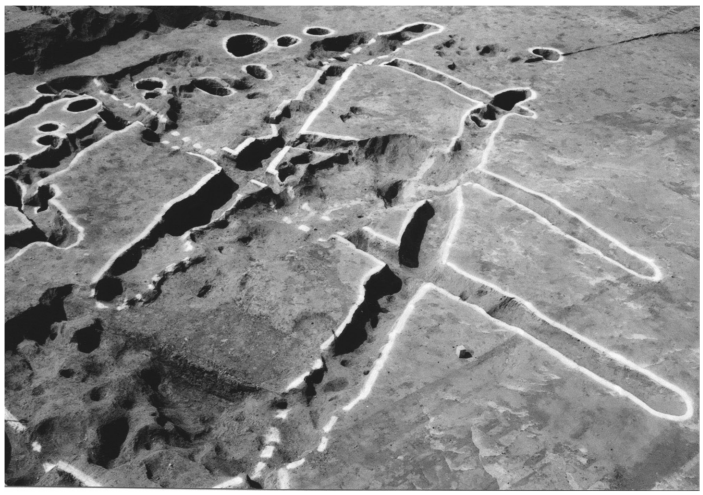


７号溝 土層断面（B－B´）（西から）

10号溝 土層断面（南から）

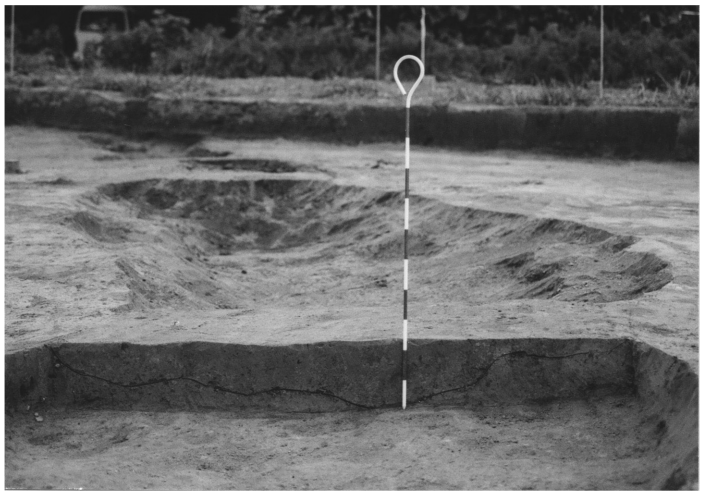
13号溝 土層断面（E－E´）（南から）

13号溝（北西から）



14～22号溝（南東から）

23号溝 遺物出土状況（東から）



24号溝 土層断面（南から）

25号溝 遺物出土状況（南東から）

25～27号溝 土層断面（南から）

25・26号溝（南西から）

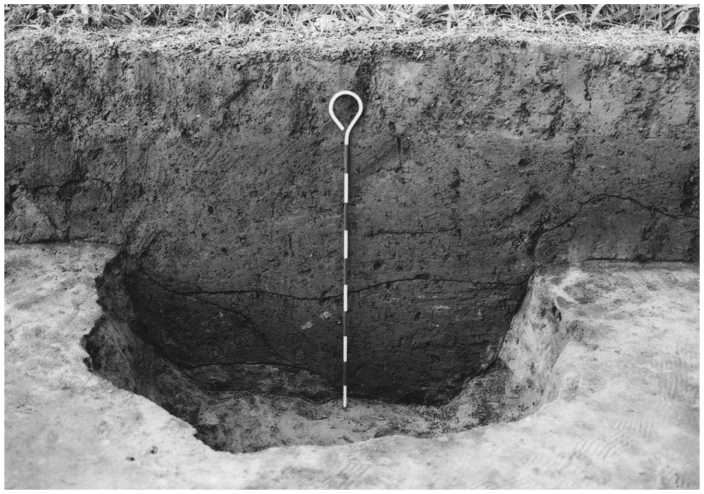
図版４　28・29号溝，１号井戸，１～５号土坑

28号溝 土層断面（西から）

29号溝 土層断面（北西から）

１号井戸（南から）

１号土坑 土層断面（西から）



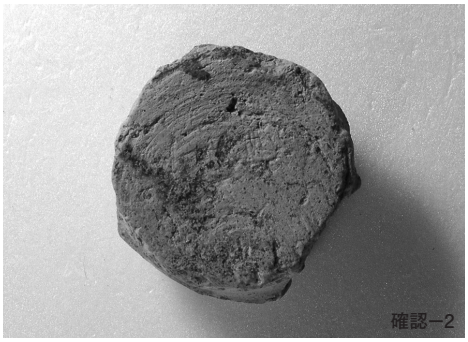
２号土坑 土層断面（南西から）

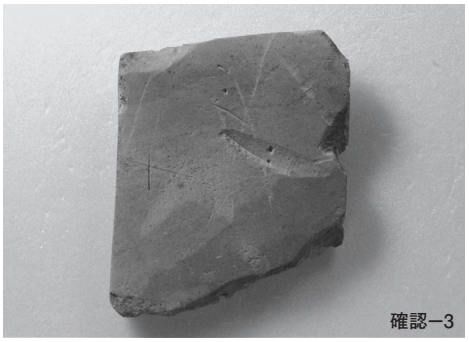
３号土坑（北西から）

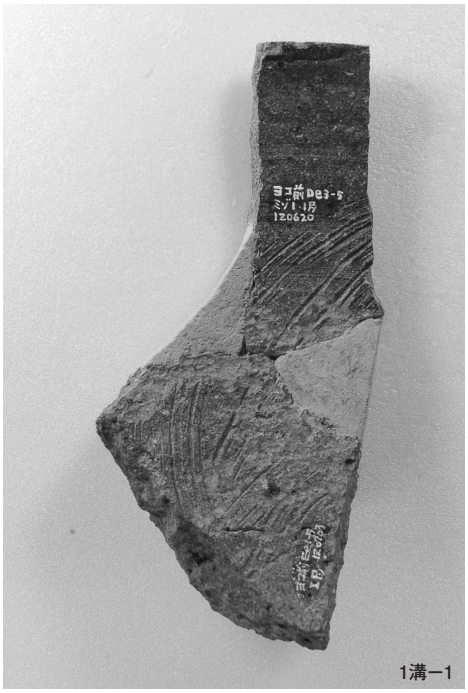
４号土坑 土層断面（南西から）

５号土坑 土層断面（南東から）

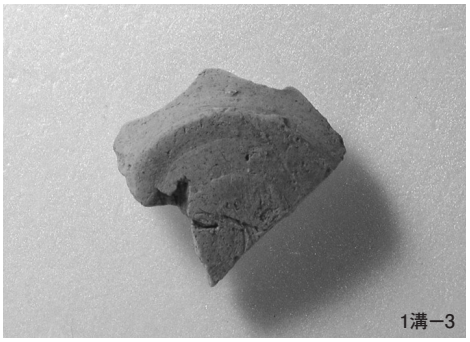
確認ー1

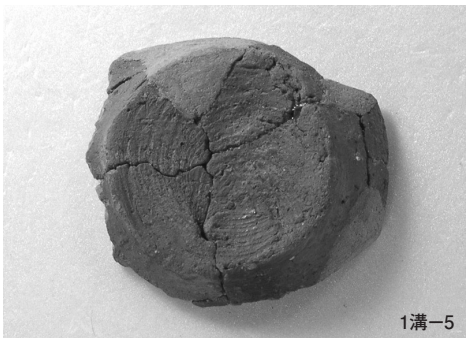

確認ー2

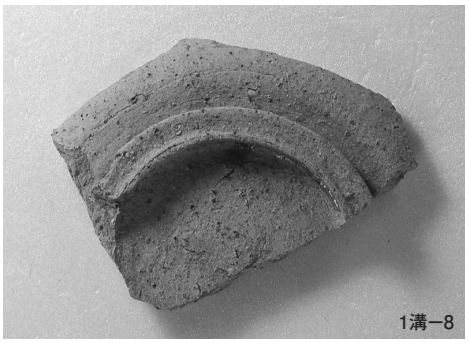

確認ー3

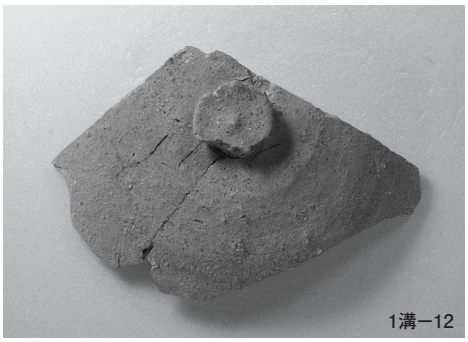

1溝ー1

1溝ー2

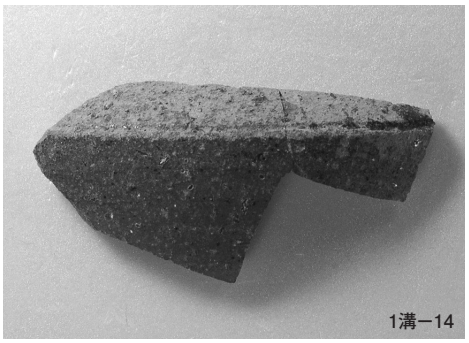

1溝ー3

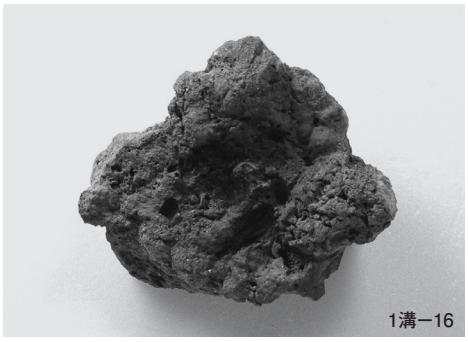

1溝ー5

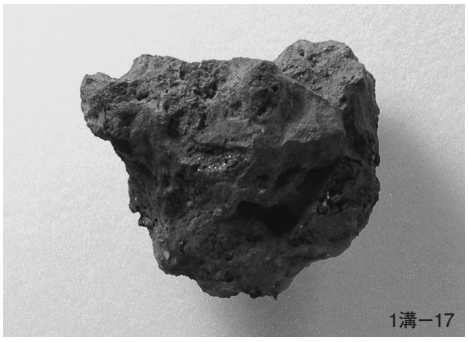

1溝ー8


1溝ー12

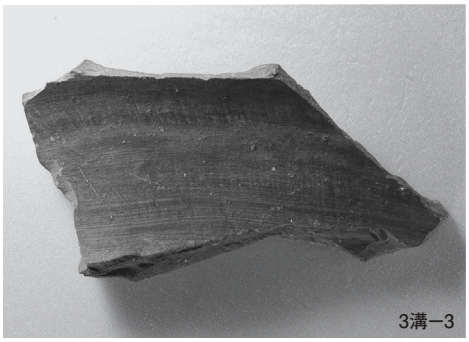
1溝ー13

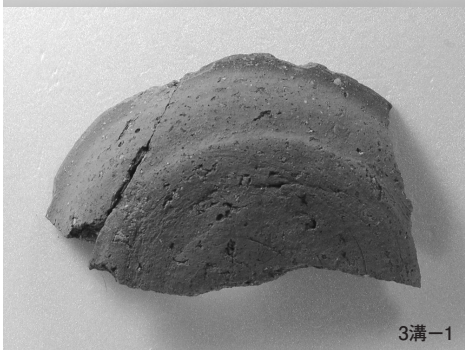

1溝ー14


1溝ー16

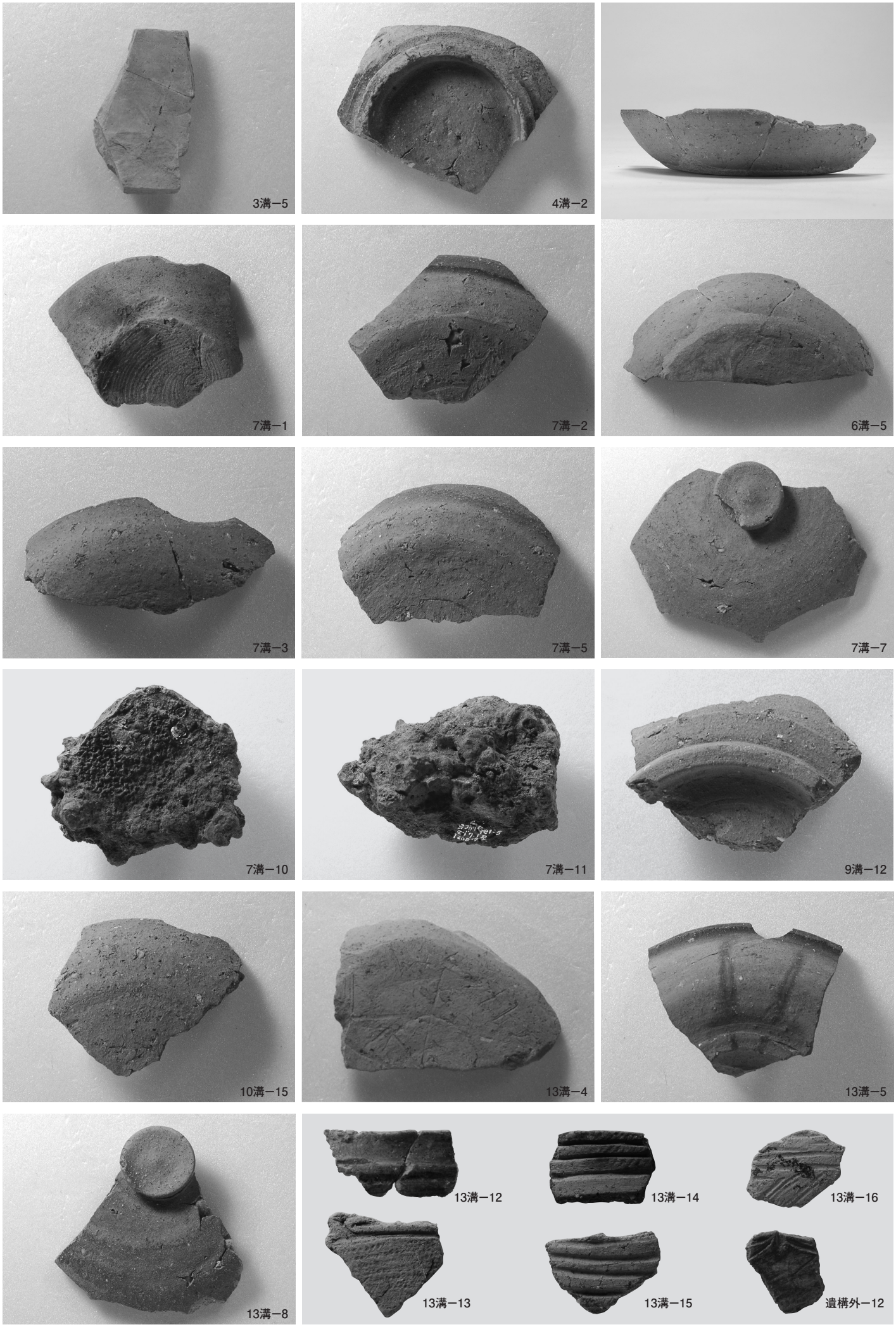

1溝ー17

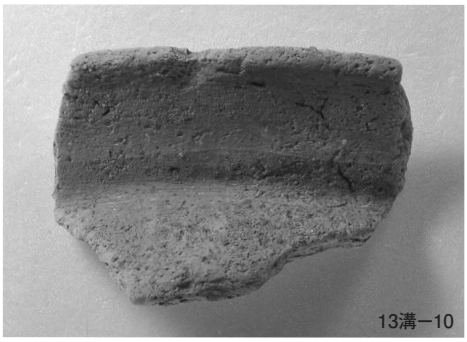
3溝ー2

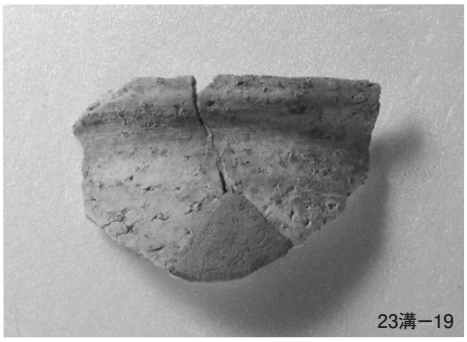

3溝ー3


3溝ー1

図版６　３～13号溝の出土遺物，遺構外の出土遺物（１）

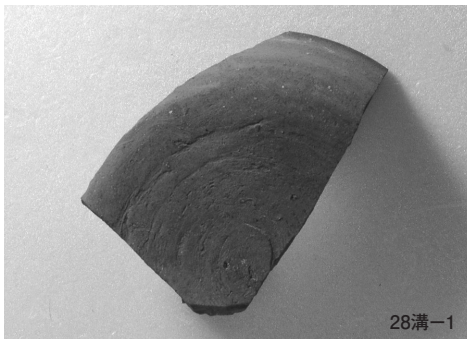


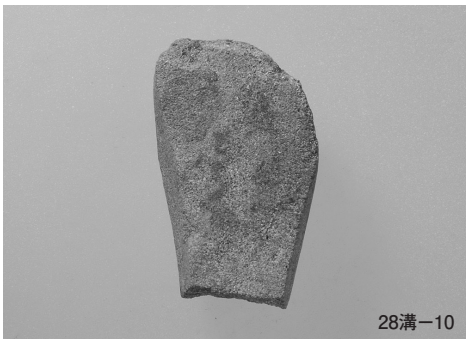

13溝ー10

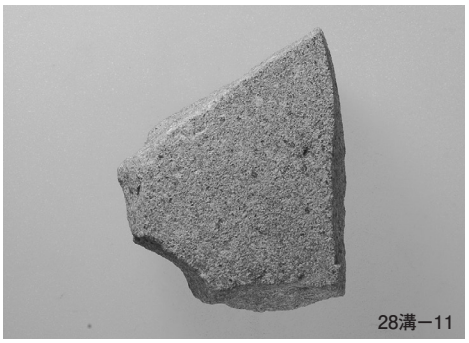

23溝ー19

23溝ー18

25溝ー1


28溝ー1

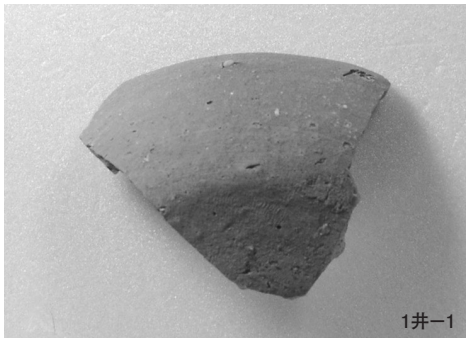

28溝ー10

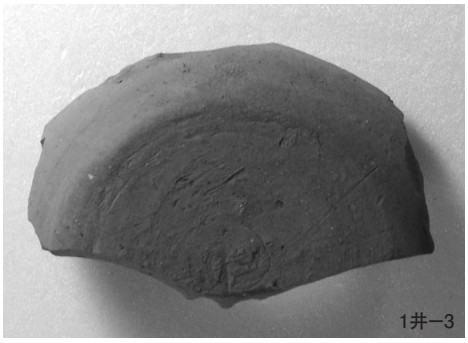

28溝ー11

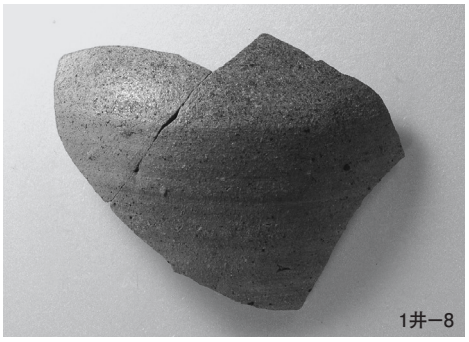
28溝ー4

28溝ー5

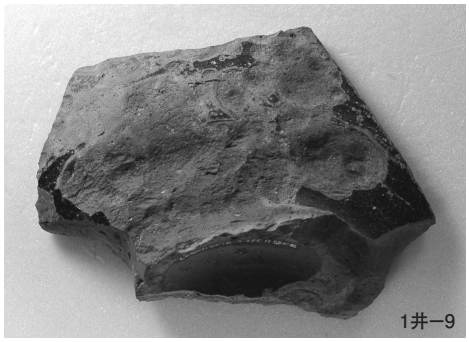
28溝ー7

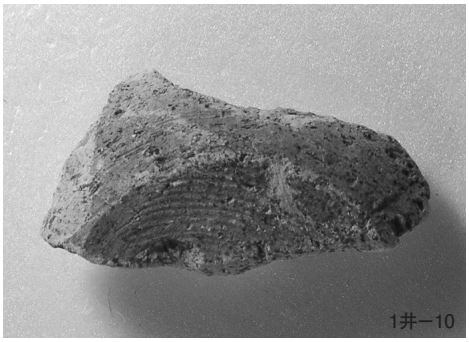

1井ー1

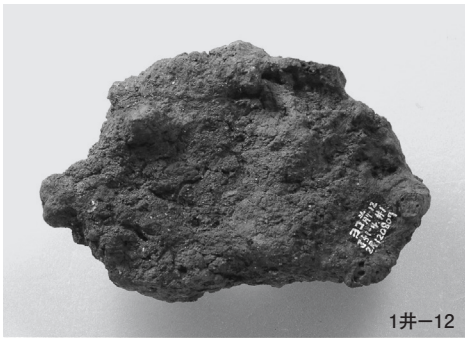

1井ー3

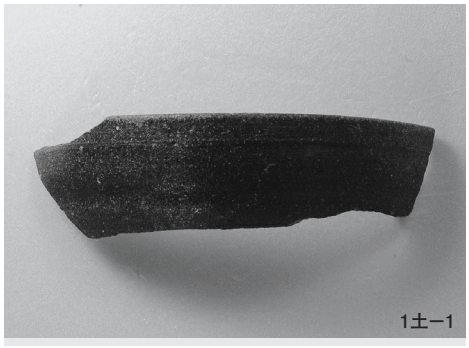

1井ー8

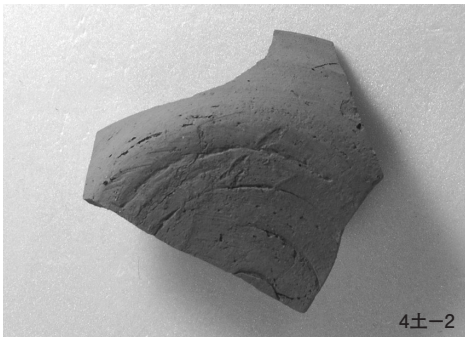
図版８　１号井戸の出土遺物（2），１・４号土坑の出土遺物

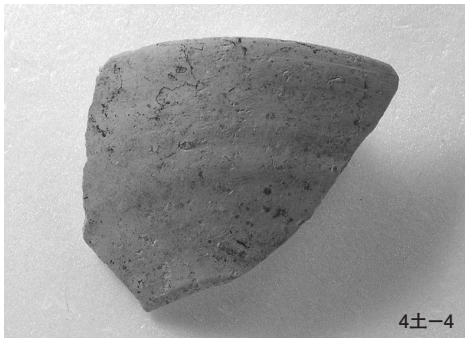

1井−9

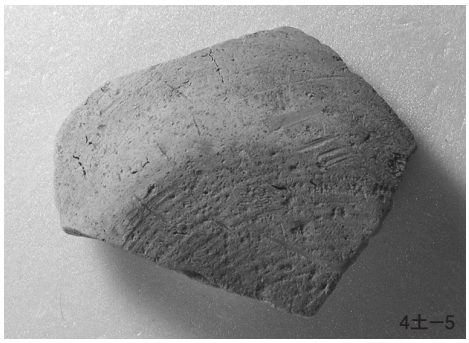

1井−10

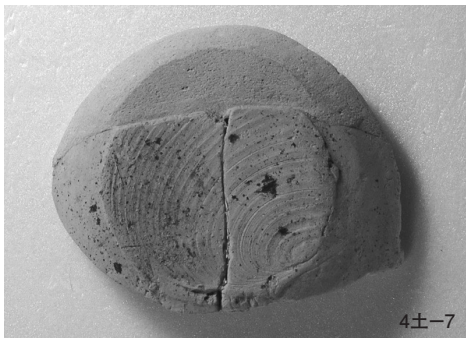

1井−12


1土−1


4土−2


4土−4


4土−5


4土−7

4土−6

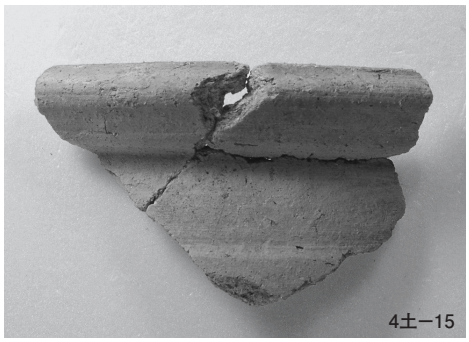
4土−8

4土−12

4土−13

4土−16

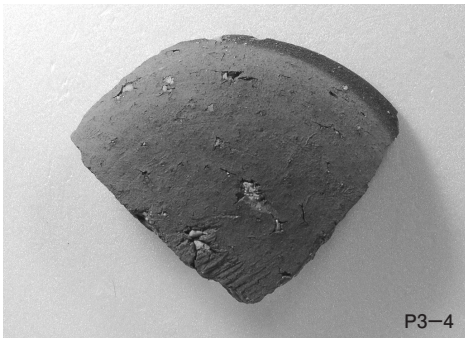
4土−14

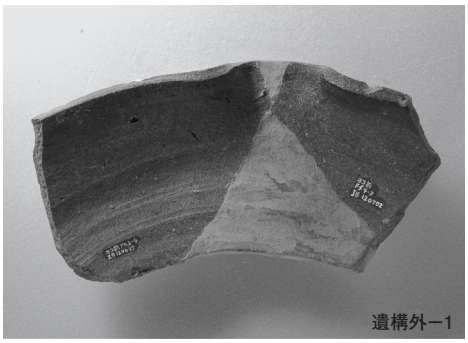

4土−15

5土−1

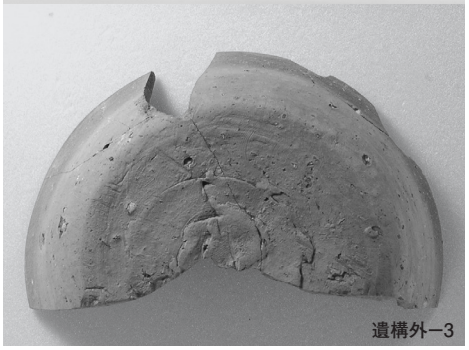
5土−2

P1−2


P3−4

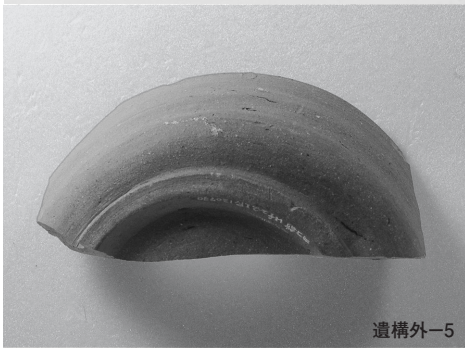

遺構外−1

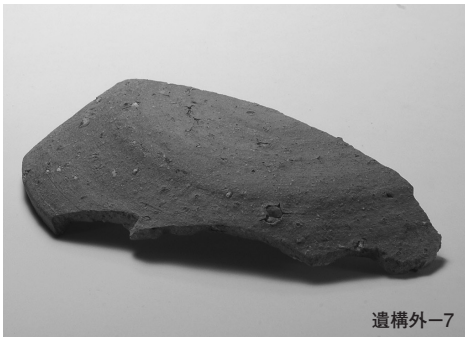
遺構外−2


遺構外−3

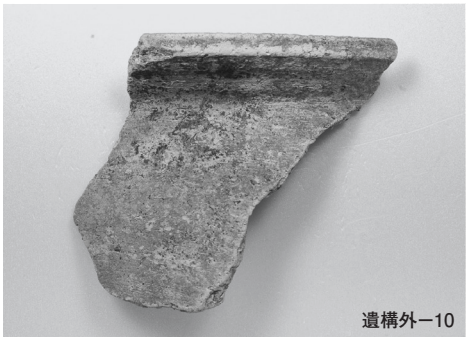
遺構外−6

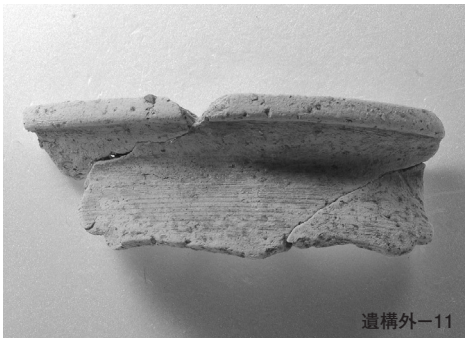
遺構外−4


遺構外−5


遺構外−7

遺構外−9


遺構外−10


遺構外−11

報告書抄録

ふりがな	よこぼりまえいせき はっくつちょうさほうこくしょ
書　名	横堀前遺跡 発掘調査報告書
副書名	主要地方道住吉上館線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	新発田市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第52
編著者名	津田憲司，㈱加速器分析研究所
編集機関	新発田市教育委員会
所在地	〒959－2323　新潟県新発田市乙次281番地2　　TEL　0254-22-9534
発行年月日	平成27(2015)年3月12日
体 裁	A4判　横組1段　本文38頁　写真図版9頁

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
横堀前遺跡（よこぼりまえ）	新潟県新発田市大伝字横堀浦972番1ほか	15206	512	37°55′13″	139°19′00″	20120601～20120904	1,130m²	主要地方道住吉上館線道路改築工事

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
横堀前遺跡	遺物包含地	縄文時代晩期末		縄文土器	
	集落跡	古代（奈良・平安時代）	溝 26条，土坑 4基	須恵器，土師器，石製品	
	集落跡	中世（平安時代末期～鎌倉時代）	溝 1条，井戸 1基，土坑 1基	珠洲，須恵器系陶器，土師質土器	

要　約

調査の結果，横堀前遺跡は，古代と中世前半に営まれた集落跡であることが明らかとなった。古代の遺構としては，多数の溝を検出したほか，畝状小溝と呼ばれる畑作跡を確認できた。中世の遺構としては，溝，井戸，土坑を検出している。ただし，調査範囲が遺跡の縁辺部であったため，建物跡などは見つかっておらず，集落の詳細な様相は明らかではない。遺構の年代については，出土遺物などから，古代が８世紀中葉～９世紀中葉，中世が12世紀～13世紀と推定される。

横堀前遺跡　発掘調査報告書

主要地方道住吉上館線道路改築工事
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　　平成27（2015）年３月12日
新発田市教育委員会
新潟県新発田市乙次281番地２
印　刷　　株式会社　福島印刷